

情報・視聴覚教育研究部
紀要
研究のまとめ 第41集

一年のあゆみ

情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成



平成27年度
横浜市小学校教育研究会
情報・視聴覚教育研究部会

は し め に

横浜市小学校教育研究会
情報・視聴覚教育研究会
会 長 田 中 公 明

本研究会が発足してから 60 年を経て、ラジオの活用や映画教育の世界からタブレット端末の利活用を考えるようになってきました。今年度は横浜市の教育界にとって「タブレット元年」とも呼べる年になりました。

研究会の活動としては、4 月中川一史先生（放送大学教授）の講演に始まり、12 月には全市一斉授業研究会を行いました。2 月には年間のまとめ、そして 3 月には情報・視聴覚教育を語る会という活動をしてきました。それぞれの月の月例的な研究においては、それぞれの部会においてテーマに沿った研究が積み重ねられました。

月例的な研究会ではありませんが、8 月には横須賀において県夏季特別研修会の分科会に提案し、11 月には県大会を開催しました。長津田第二小学校の全面的な協力を得て、素晴らしい大会を開催することができました。また、2 月には県小教研の中央研究大会にも参加してまいりました。

先にも記しましたが、今年はタブレット端末が先行導入、本格導入と続き、まさに「タブレット元年」になりました。他の自治体や学校で先行的にタブレット端末が導入され、様々な実践がなされるようになってきました。しかし、タブレット端末だからこそ、という実践はなかなか現出していないように思われます。

私たちは新しいものが出てくると、つい飛びついてしまうところがあります。新しいものは「良いもの」という思いがあります。このタブレット端末が「良いもの」になるように実践し、研究していかなければなりません。

かつて、スタンドアローンのコンピュータが導入され、魔法の箱のように考えられていました。「何でもできる」素晴らしいブラックボックスと考えていました。何ができるのか実践が重ねられてきました。同時に『情報教育』という新たな領域とも取り組むことになりました。IT から ICT へ、コミュニケーションツール・表現のためのツールとなってきました。そしてコンピュータはネットワークと相まってツールとしてのポジションを確固としたものになりました。

タブレット端末はアラン・ケイの提唱した『ダイナブック』に近づくことができるのでしょうか。それはメーカーや研究者が考えるだけではなく、私たちの研究がフィードバックされていくものと思います。

タブレット端末に限らず、機器は子どもたちのためにあるもの、意欲や力の向上のために利活用できるように取り組んできたこの一年でした。子どもたちのための機器にしていけるよう、皆さんが研究を続け、更なる一歩を歩んでほしいと願っています。

最後になりましたが、私たちの研究を支えてくださった横浜市教育委員会指導部指導主事室情報教育担当立田順一首席指導主事、平野大二郎指導主事をはじめ、多くの皆様に感謝申し上げます。そして、研究会役員、研究会員の皆様にも感謝申し上げます。ありがとうございました。

も く じ

はじめに	1
もくじ	2
I 研究概要	3
II 会員研究	
1 授業デザイン部会	5
2 スキルアップ部会	6
III 合同会員研修・講演会	7
IV 神奈川県放送教育・視聴覚教育研究会合同夏季特研修会	9
V 公開授業研究会	2 1
VI 横浜市小学校教育研究大会第二次大会情報・視聴覚教育研究大会	6 1
VII 各区の研究活動	6 5
会報「メディアワールド」	8 3
会員名簿	8 9
あとがき	9 4

I 研究概要

1 研究主題

情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成

2 研究主題について

昨年度までの研究と近年の動向を受けて本研究会では、21 世紀型能力に位置づけられた「思考力」の育成を目指した情報・視聴覚教育の研究を推進していく。

情報活用の実践力、すなわち必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力を高めることで「思考力」の育成を図っていききたい。「思考力」育成に向け、単元を通した授業デザインを行い、情報の収集や表現、発信について、どのように ICT が関わり活用されたか考察を重ねていく。そのためには、「基礎力」の育成も欠かすことはできない。「思考力」「基礎力」について二部会で取り組み、効果的に繋げていきたい。

本年度は、「思考ツールを用いた視覚化による思考力の育成」と「問題解決につなげる思考の共有」の二つの柱を単元に位置づけた次のような授業デザインを追究していきたい。

- ① 教師は、ICT を活用し情報を提示するなどして、子どもにとって強い意欲のもてる効果的な学習材との出会いを設定する。
- ② 子ども自らが情報を収集し、目的意識・相手意識を明確にした切実感のある問題作りを行い、教科のねらいに沿ったゴールを見通すことができるようにする。
- ③ 子どもが問題解決に向けて収集した情報を整理し判断する場面では思考ツールを用いる。
- ④ 教師は、子どもが互いの思考を共有し協働的に問題を解決していくことを支援し、新たな情報を創造し、発信・伝達していく場面を設定する。

このように単元の構成を行い、子どもたち自身が ICT 機器を活用して課題の解決に取り組む。そして、このような問題解決学習の流れは、どの学年・教科においても実践可能であり、横断的に実践を重ねていくことで、21 世紀型能力の育成を図ることができると考えた。

これらを踏まえ、本年度の研究テーマは「情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成」とした。

○ 研究仮説

学習者は、視聴覚教材などを通じて収集した情報を整理する際に思考ツールを用いることで自らの思考や判断を明確にすることができ、互いの思考を共有し協働的に学習することで「思考力」を育むことができるであろう。

○ 研究方法

授業デザイン部会、スキルアップ部会の 2 部会の構成で研究を進める。

授業デザイン部会では「思考力」に、スキルアップ部会では「基礎力」に主眼を置いて研究を進める。

一斉授業研究会は授業デザイン部会から、2 会場で提案する。

○ 研究部会テーマ

授業デザイン部会

ICT を活用して思考力アップ

スキルアップ部会

ICT を活用して基礎力アップ

3 年間活動報告 ①授業デザイン部会 ②スキルアップ部会

4 月	総会・講演会 放送大学 中川一史教授 「タブレット活用と21世紀型コミュニケーション力の育成」	11 月	合同研究 市一斉授業研指導案検討②
5 月	部会研究 ① 3年国語「わたしたちの学校行事」 ② 「算数デジタル教科書」	12 月	市一斉授業研究会 港北小：「妙蓮寺タウンじょうほう その3」 【総合】 三ツ境小：「三ツ境CM隊!」【総合】「電気と私たちの生活」【理科】
6 月	部会研究 ① 5年国語「新聞を読もう」 ② 「国語デジタル教科書」		
7 月	部会研究 ① 3年社会「私たちの大好きなまち」 ② 先行導入校のタブレット端末活用	1 月	合同研究・会場ごと 全市一斉授業研究会のふりかえり
9 月	部会研究 ① 夏季特別研修会報告 ② 教育の情報化政策の動向	2 月	第2次研究大会 部会の年間の取り組み 全市一斉授業研究会のまとめ
10 月	合同研究 市一斉授業研指導案検討①	3 月	臨時総会 情報・視聴覚教育を語る会 「青葉区」「港南区」

Ⅱ 会 員 研 究

横浜市小学校情報・視聴覚教育研究部会 授業デザイン部会

1 部会研究主題 「ICTを活用して思考力アップ」

2 研究主題について

授業デザイン部会では、「21世紀型能力」の思考力育成を目的とし、今年度の研究主題を設定し、「視覚化による「思考力」の育成と思考の可視化」と「協働学習のさらなる追究」の二つを柱にして研究を推進した。

研究の推進にあたっては、次の4つの授業デザインの視点を設定し一年間を通して取り組むことができた。

4つの視点

- ① ICTを活用して情報提示するなどして子どもの意欲を引き出す。
- ② 子どもが情報を収集し、目的意識・相手意識を明確にした切実感のある問題づくりを行い、教科のねらいに沿ったゴールを見通す。
- ③ 子どもが問題解決に向けて収集した情報を整理し判断する場面では、思考ツールを用いる。
- ④ 教師は、子どもが互いの思考を共有し、協働的に問題を解決していくことを支援し、新たな情報を創造し、発信・伝達していく場面を設定する。

3 年間部会報告

【4月】定期総会・講演会・部会オリエンテーション

○年間計画・役割分担

【5月】部会研究 3年国語「わたしたちの学校行事」について

○思考ツールや学習形態の工夫、タブレット端末の活用など

【6月】部会研究 5年国語「付箋紙の活用と協働学習～「新聞を読もう」の実践から考える～」について

○話し合いをする中で最適解の追究を行っていく協働学習について

【7月】部会研究 3年社会「わたしたちの大好きなまち」

○Xチャートの活用による話し合いの視点の明確化と、情報の分類整理について

【9月】部会研究 6年特別活動 「互いの良さを認め合い、学びを深める放送教材の活用

○～NHK for School『いじめをノックアウト』を活用した授業実践

【10月】合同研究

○公開授業研究会 指導案検討①

【11月】合同研究

○公開授業研究会 指導案検討②

【12月】合同研究

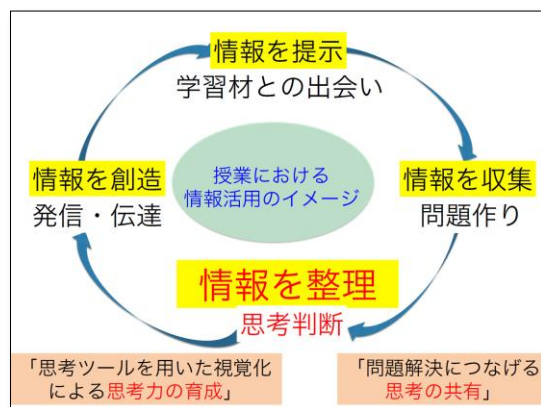
○公開授業研究会

【1月】合同研究

公開授業研究会 振り返り

【成果と課題】

授業デザインの4つの視点を踏まえて、「21世紀型能力」の思考力を育成する授業デザインについて研究を進めることができた。横浜市では、来年度よりタブレット端末の導入（各校11台）が始まるため、タブレット端末の活用を中心とした授業・実践提案を行いながら、思考力についての系統性を明らかにし、実践力に高めていくことを課題とする。



1 部会研究主題 “教員のICT活用能力のスキルアップをめざして”

2 研究主題について

現在中央教育審議会において審議されている、21世紀型能力の中核として位置づけられた「思考力」を育成していくためには、その土台となる「基礎力」が必要不可欠であると考えられる。その基礎力の育成のために、ICTがどのように寄与できるのか、環境整備の在り方を研究するために、今年度も引き続き本主題に向けて取り組んでいくこととした。また、児童がICTを効果的に活用するために、どのような情報モラルが必要か考えていきたい。

子どもたち自身がICT機器を活用して取り組むためには、まず教員の基礎力のスキルアップが必要となってくる。今年度は、21世紀型能力の土台となる「基礎力」の育成を図り、その研究を重ねていくことが、「情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成」に繋がることを目指して、今年度の研究に取り組んだ。

3 年間部会報告

【4月】定期大会・公演会・部会オリエンテーション

○年間計画・役割分担

【5月】部会研究 「算数デジタル教科書」について

○体験やグループセッション、学習者用デジタル教科書、教科書ARなど

【6月】部会研究 「国語デジタル教科書」について

○CoNETSビューア、各種タブやワーク、デジタル教科書の活用方法について

【7月】学校でのタブレット端末の活用状況及び実践提案

○解剖顕微鏡の接写・振り子の動きの撮影（理科）、運動の撮影（体育）など

【9月】部会研究 2020年に向けた教育の情報化政策について

○講演およびグループディスカッション

【10月】合同研究

○公開授業研究会 指導案検討①

【11月】合同研究

○公開授業研究会 指導案検討②

【12月】合同研究

○公開授業研究会

【1月】合同研究

公開授業研究会 振り返り

今年度は「教員のスキルアップ」を目標とし、タブレット端末やソフトウェアについての活用方法と情報交換、次期YYNetについてやタブレットPC導入に向けた取り組みなど、各校の情報・視聴覚担当者にとって今後考えていかなければならない課題、必要感のある課題について研究していきたいと考えた。

成果として、全体を通して教員の機器活用能力や知識の高まりがあったことや、2回の指導案検討において、会員のみなさんの活発な意見交換により、誰にとっても大変参考となる授業になったことが挙げられる。また、しっかりと公開授業の反省をしたことで、来年度に向けて更なる研究の深まりを見据えた研究会の方向性も見出すことができた。ただし、教員のスキルアップが児童の「基礎力」にどのように関わってくるか、という具体的な効果の見取りや、即効性に欠ける研究もあったことなどは今後更に研究を深めていく必要がある。研究会として日常的に校務や授業にICT機器を有効活用しながら児童の基礎力を高めていくために、スキルアップ部会では情報・視聴覚担当の先生方と実践や研究、交流の機会が更にもてるよう工夫して部会を運営していきたい。

Ⅲ 総 会・講 演 会

「タブレット端末とコミュニケーション力の育成」

放送大学 中川一史教授

中川先生からは、今年度から横浜市に選考導入されるタブレット端末に際して、これから求められる教育と関連したお話をいただきました。

まず、教科書が変わっていくということ。デジタル教科書が学習者用として広まるとすれば、タブレット端末の果たす役割は大きい。現在、コンテンツ（内容）とビューアー（動かす仕組み）を分けたり、検定の仕組みや管理の課題について議論がされたりすることを伺いました。他自治体では、タブレット端末を一人一台全市で導入する動きもでており、学校教育の中にタブレットが標準化されていくスピードが加速していることが分かってきました。

機器が揃ったとしたら、次はそれで何を学ばせるかということが重要となる。そこに「21世紀型スキル」がキーワードとなる。これは、グローバル社会を生き抜くために求められる能力として、思考力をはじめとしたいろいろな関連する言葉が並ぶ。中でも中川先生は協働学習とアクティブ・ラーニングについて強調されました。協働学習については、いろいろな定義付けがされているが、子どもたち同士が学び合って、思考力・判断力・表現力を身に付けることが共通している。これは、国語科での言語活動の充実にも関連したことで、既に学校で行われていることといってよい。さらに、脚光を浴びているのが「アクティブ・ラーニング」である。ここに、タブレット

21世紀型スキル

【グローバル社会を生き抜くために求められる能力】

- ・ 思考力
（創造性、批判的思考、問題解決力、意思決定力）
- ・ 行動力（コミュニケーション能力、協調力）
- ・ 手段や道具（ICT、情報リテラシー）
- ・ 生きる力（良い市民、生活と職業、個人的・社会的責任の取り方）

ATC21S (Assessment & Teaching of 21st century Skills)
<http://atc21s.org/index.php/about/what-are-21st-century-skills/>

協働学習の説明

【教育の情報化ビジョン,2011】

子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び

発表・討論、制作、意見の分類・整理
携帯端末で情報収集、他校や専門家との交流

↓
【学びのイノベーション事業 実証研究報告書,2014】

タブレットPCや電子黒板を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高め合う学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる

グループや学級全体での発表・話し合い
複数の意見・考えを議論して整理
グループでの分担、協働による作品の制作

遠隔地や海外の学校等との交流学习

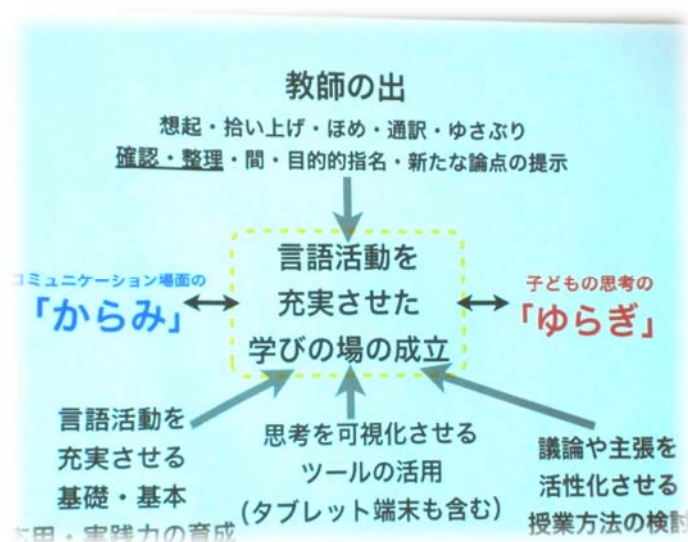
端末が寄与するということだったが、陥りやすい点だと指摘されました。

それが「からみ」と「ゆらぎ」、そして教師による「確認と整理」ということ。つまり、タブレット端末があれば協働学習やアクティブ・ラーニングが成立すると思ひ込んではいないでしょうか。より一層、教師の出が重要、つまり教師の授業デザイン力が問われるという指摘をされました。

そして、さまざまな研究実践から見えてきたタブレット端末が果たす役割が、子どもが考えとげをつくるということ ①説明させるはめにさせる②ズレを自覚する③情報を共有・統合するという点でした。

他者との関わりで自己の考えを深めるようにタブレット端末が活用されることが重要であるといえます。そこで注目されているのが、「ジグソー学習」です。テーマと学習課題をしっかりと吟味すればとても有効である。しかし、反対にタブレット端末を使った陥りやすい点が指摘されています。それは文部科学省のHPにもアップされています。

それでは、学校現場でどのように使っていくべきか、中川先生は2点を強調されました。一つはシンプルに使うということ。もう一つは継続的に使うということ。今後、タブレット端末が効果的に活用されるポイントとして教師が意識していくべきことは、これまでのICTと全く違うことを受け止めなくてはいけないということ。児童がいったんに継続して使うことで教師がコントロールできないということ。つまり、我々の「観」を変えていくこと。そうした柔軟な姿勢とともに、シンプルでシャープな発想が求められるだけに、教師の手腕をますます研かなくてはならない、という期待も込められたお話でした。



つかず離れずのせめぎ合い ICTにふりまわされる

「これは楽しそうだ」という好奇心
「ここで使えるかも!」という挑戦心
「じゃあこうならどうだろう?」というねばり
「わかったつもりになっていないか」への疑い
「ここはやめよう」という捨てる勇氣
「子どもに過度な負担をかけていないか」の検討

最後に、中川先生から「つかず離れずのせめぎ合い」ということで、ICTにふりまわされないようにというアドバイスを受けました。研究会の柱であるICTは万能ではない。むしろ、批判的に使ってもよい。映像を見せて分かったつもりになっているかもしれない。タブレットを使うよりも紙の方が有効な場面もある。そうしたことを踏まえ、必要観や効果を見極める原点を忘れないことにも気付かされたお話でした。

Ⅳ 神奈川県放送教育・視聴覚教育研究会合同夏季特研修会

互いの良さを認め合い、学びを深める放送教材の活用

～NHK学校放送「いじめをノックアウト」を活用して～

横浜市立鴨志田緑小学校

武井 三也

1 学年・組 第6学年1組 27名

2 教科・領域 特別活動「学級活動」

(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全 ウ 望ましい人間関係の形成

3 提案理由

児童の実態

本学級は、非常に活発な児童が多く、授業中も発言が多い。話し合い活動においても、子どもにとって身近な話題であると、活発に意見を交わすことができる。一方で、自分の考えに固執してしまったり、相手の考えを非難したりしてしまう発言も少なくない。互いの考えや意見を尊重して、譲歩したり、よりよい方法・方向性を共に見つけ出したりしていく姿勢を身につけてほしいと考える。これまでは、国語の「学級討論会をしよう」をはじめ、各教科・領域の中で数多くの話し合い活動を設定し、自分の思いを伝えられるようになってきた。実際に学級目標を決める話し合いの時には、意見は活発にでるものの、相手の意見との違いや良さを見出して、譲歩し合ったり、新しいものを生み出そうとしたりする意識は高くなかった。むしろ、議論の後半には、相手の意見のマイナスの部分に目を向け、「Aの考えは〇〇な点がよくないから、Bのほうが良い」というような、論理的展開が増えてしまっていた。

育てたい力と教師の意図

○社会参画や自治的能力

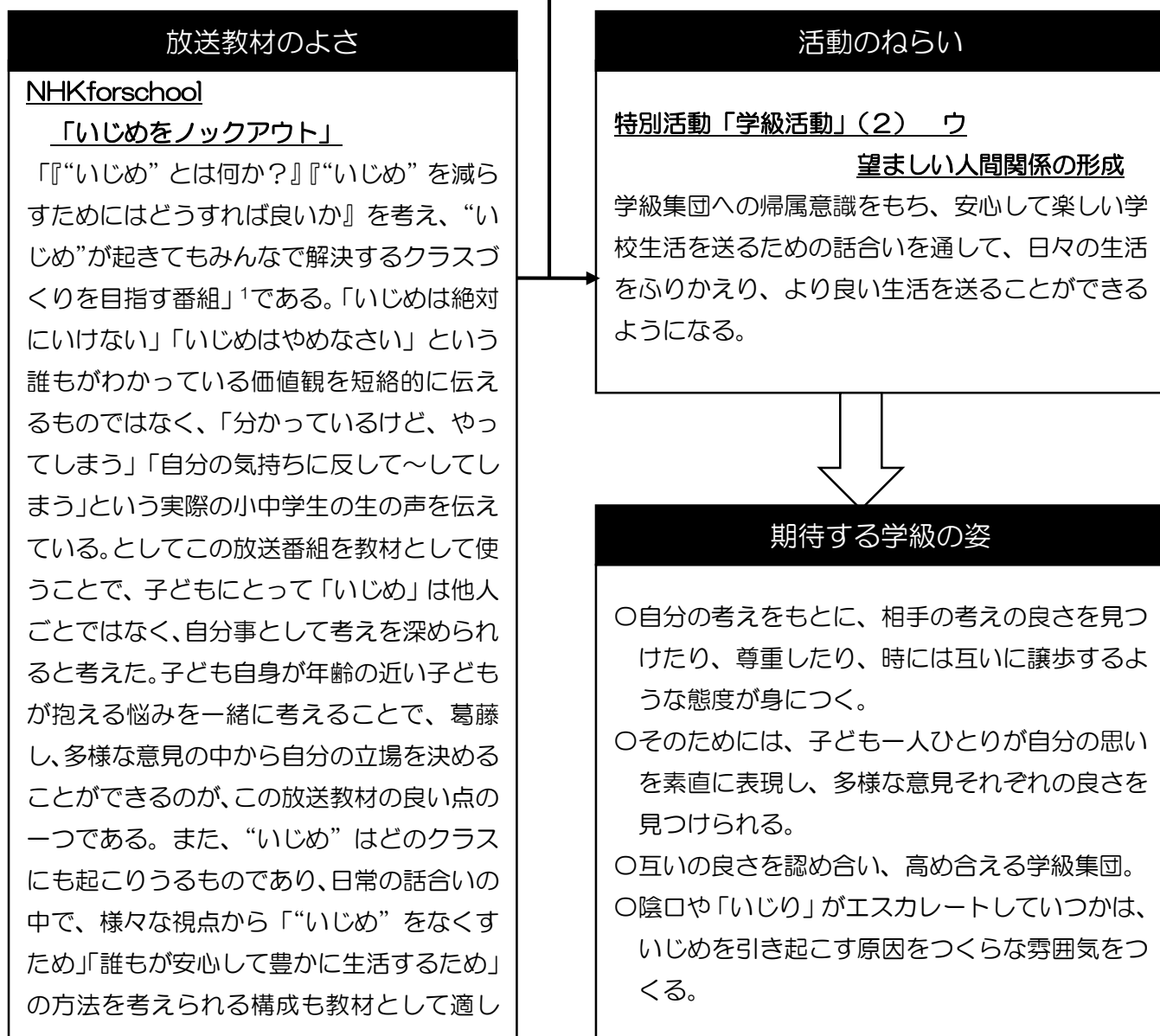
よりよい学級づくりを目指して、目標に向かい組織を生かし活動し、自分たちの生活をつくろうとする。

○人間関係形成力・コミュニケーション能力

相手の考えのよさも取り入れながら、よりよい解決策を考え話合することができる。

(横浜版学習指導要領 特別活動編より)

子ども自身が真剣に友だちと向き合い、きれいごとではない本音で話せる学級の雰囲気をつくっていきたい。また、多様な意見がでるような教材を使い、それぞれの良さから、自分の立ち位置を見直すことで、日々の生活だけでなく、授業においても自分の考えを安心して素直に表現できるクラスの雰囲気をつくれるとも考えた。さらに、安心して自分の考えを伝えるだけでなく、「〇〇さんはこう考えているんだ。」「□□さんの考えも分かる。」「いろいろな考え方があっていいんだ。」など、集団生活の中において相手意識を高くもち、互いの良さを認め合い、互いに高めあえるような話し合い活動をしていく。



4 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校における自己の生活の充実と向上にかかわる人間関係に感心をもち、日々の自分の生活や言動をふりかえり、友達と積極的に話し合おうとしている。	集団活動・集団生活を充実・向上させるために、自分の立場にあったより良い方法などについて考え、判断し、実践している。	友達の立場を理解し、支え合って集団生活を送る大切さや、そのための人間関係にかかわる様々な問題の要因や解決の仕方を理解している。

5 研究内容

A 「互いの良さを認め合う」

互いに長所・短所を認め合い、補うような学級づくりができれば、“いじめ”を未然に防ぐことにもつながると思う。今回の提案では、学級において、「友だちの良さや、考えの違いを発見し、素直に認め合うことを、「互いの良さを認め合う」こととする。

B 「学びを深める」

「自分の考えとは違う考えや反対の立場の友だちの意見と真剣に向き合い、自分の考えを再確認したり、変容させたりする」ことを「学びを深める」こととする。

C 放送教材

NHKforschool「いじめをノックアウト」を活用。

【具体的な手立て】

- 番組視聴後に、互いの感想や考えを自由に見て回る時間を設定する。A
- グループ内で意見を交換したり、まとめたりする活動を設定する。A
- それぞれの考えのよさがわかるように板書を工夫したり、声をかけたりする。A
- 自分の考えをしっかりともしつ時間（感想を書く・授業をふりかえる等）を確保する。B
- 視聴前にテーマについてイメージを出し合い、視聴後にグループで話合う活動を行う。B
- 毎時間の全員のふりかえりを個人が特定できない形式で一覧にして、再度友達の考えをじっくりと読み、ふりかえる時間を設定する。（朝の時間等）A/B
- 子どもが自由に自分の考えを書けるワークシートを用意する。できるだけ罫線や枠を最低限に抑える。A/B
- 児童の考えがどのように深化・変容したかをワークシートで分析していく。A/B
- 毎回、同じ授業展開を行い、放送教材を活用した学習を円滑に進める。C

6 研究方法

【学習プラン】（毎回の視聴パターンを統一）

学習活動		指導上の留意点
1	主題についてどのような考えをもっているかを出し合う 3分	子どもの持つイメージを板書する。
2	番組を視聴する。 10分	タイトルを板書して視聴を開始する。
3	番組を振り返り、感想を書く。 書いた感想を自由に見て回る。 5分	感想を書いた児童から順に友だちの感想を見て回る。 読んだ友だちの感想に付箋を書いて自分の考えを伝える。
4	主発問（ワークシートに記載）をして、グループごとに話し合う。 ¹ 10分	グループごとにホワイトボードに考えを書きだしていく。無理に考えをまとめようとせず、多様な考えを認めていくように声をかける。
5	グループごとに発表し話し合う。 12分	それぞれの考えにどう思うか、話し合いを深める。単なる発表にとどまらず、他のグループの内容を受けて、どう思うかを話を広げたり深めたりする。※
6	みんなの考えを聞いてどう思ったか、学習感想を書く。 5分	自分の考えを深められるように、変容や決意を書けるようにする。

（翌日以降、全員のワークシートに書かれた内容を一覽にし、もう一度、いろいろな立場の意見に触れて考えを深める時間をとる（朝の会など））

※教師はそれぞれの発言にあえて価値づけをせずに、多様な意見が出るように、子どもの発言を整理したり、ちがう考えを引き出せるようにファシリテートに専念する。

【放送番組利用】 全5回（7月末現在3回終了）

NHK for school 「いじめをノックアウト」（特別活動）

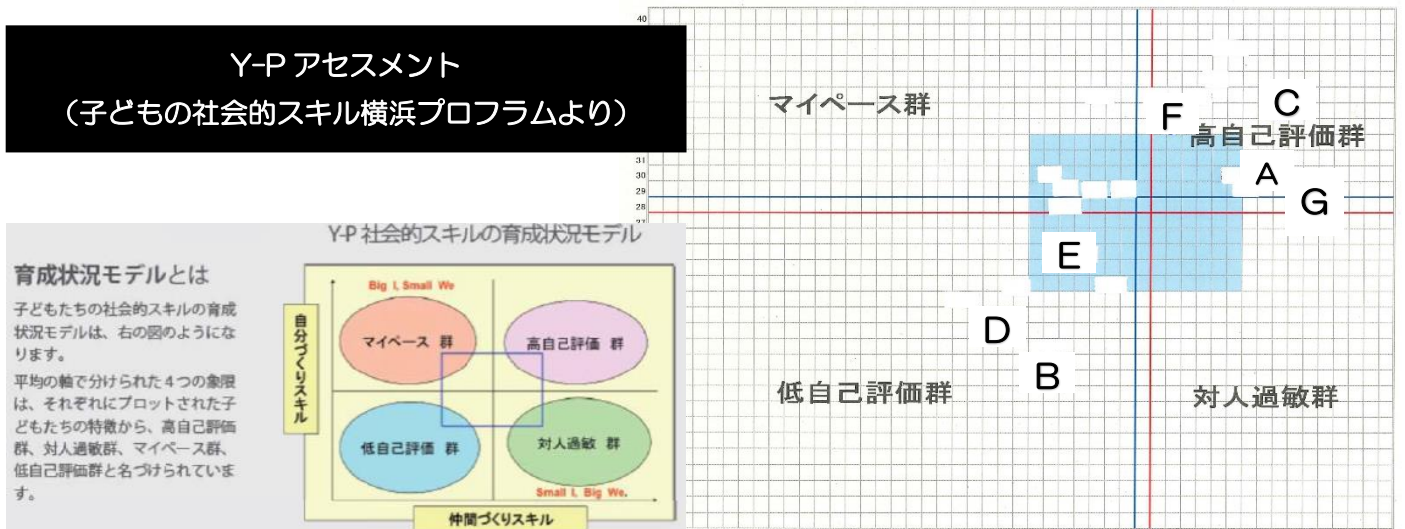
1	「“空気が読めない” って悪いこと？」	6月
2	「いじりが暴走するとき」	7月
3	「ホンネで話し、書いてみよう！」（行動宣言）	7月
4	「いざという時のために・・・」	11月
5	「行動宣言を見直してみよう」	1月

¹ IZUMI 社製「まなボード」を使用し、自分たちの考えを整理できるようにする。

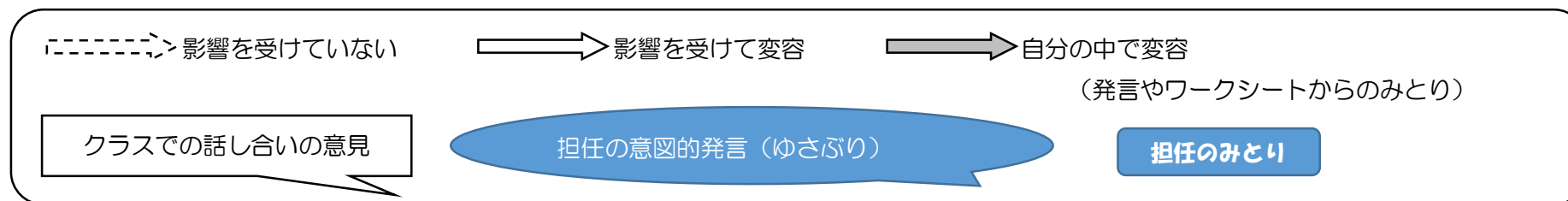
【抽出児童の特徴】

- A児 学級を良い方向に導こうとリーダーシップがとれる。心理的背景があり、同学年の友だちに強く接する。言葉がきつい。非常に発言力・影響力があり、周りの友達は「Aには逆らえない」「Aが強い」と思っている。自分の立ち位置に気がつけるか。
- B児 普段は口数が多くはないが、自分の考えをしっかりと持ち、友達に熱く伝える。人との付き合い方において、「深く」よりも「浅く」の方がいいという信念をもっている。A児に何を伝えられるか。
- C児 口数は少ないが、いろいろな立場で物事を考え、相手の立場になって理解することができる。誰に対しても優しくできる。周囲からの信頼も厚い。「相手の立場」にたつ大切さについて、A児に影響を与えられる可能性がある。
- D児 精神年齢は高く、物事を客観的に捉えられる一方で、自己肯定感が低い。友だちとは楽しそうに過ごしている。多様な立場の考えがあることから、自分の考え方に自信が持てるのではないか。A児・B児の間で自分自身の考えをしっかりと持てるか。
- E児 学力が非常に高い。自分のことをネガティブに捉えることが多い。「正義」としてどのようにすればいいのかはわかるが、実際に自分がそうでないことをしてしまうことも分かっている。正義感の強いG子からどのような影響を受けるか。
- F児 友だち関係でトラブル（同じ人とずっと一緒にいて、周囲の友だちとうまくいかなかった）を経験しており、いろいろな立場で考えられる。E児とG子の間で気持ちはどう揺れるか。自分の立ち位置を見つけられるのだろうか。
- G児 正義感が強く、自分の意思をしっかりと説得力のある伝え方ができるが、融通が利かない部分もある。E児との話し合いで何を考えるか。

第2～3回は、A～D/E～Gを意図的に同グループにして授業を進めた。



7 実践経過



放送番組「“空気が読めない” って悪いこと？」

視聴前 ①「空気が読めない」ってどういうこと？ ②「空気が読めない」人・「空気が読めない」ということについてどう思うか

	A	B	C	D	E	F	G
①	みんなの意見や言葉に合っていない (ドッキリをやるのにバラしてしまう人)	みんながまじめにこたえていないのに、一人だけまじめに答えたりする。	みんなが静かに話を聞いたりする時に、しゃべっていたり、周りのことを見ないで何かをやったりしていることにみんながよく言う言葉。今の雰囲気を感じ取れない時の言葉	みんなが集中している時にふざける	みんなが盛り上がっている時に雰囲気を悪くしたり、みんなが真剣に取り組んでいる時にふざけたりなど、良い雰囲気を崩壊させたりこわしたりすること。また、そのような人や協調性がない人や事	先生などが話しているときに、口をはさんでくすること。 たすう決を取る時などに周りの人を見て手を挙げたりする人。	〇〇のお別れ会をします。びっくりさせるために〇〇にはないしょにしていました。〇〇が「何？何？」と聞いてきたときに、「お別れ会のことだよ」と話してしまう人
②	自分のことしか考えていないと思う。⇒自己中心的	ちょっと空気が読めない人は、なおしてほしい。(自分はKYだと思う。)	「なぜ今そういうことをいったりやったりするのかなあ」と思う時もある。「まあしょうがないかなあ」と流すこともある。	<u>「空気が読めない」は時に必要な時がある。</u> でも人間は、空気が読めずに場違いな言葉や行動をしてしまうのは、しかたがない。	自分も「まったく空気が読めない」人の一人である。そんな時は、後で後悔してしまうことが多いから、そのような事や人はよくないと思う。	話がしっかり聞こえなくなるから、そういう人はいないでほしい。	<u>別に人それぞれだからいいんじゃない～？</u> <u>(私も)</u>

視聴後

①番組をみて思ったこと ②誰とでも良い関係を作っていくにはどうしたらよいか ③ふりかえり

	A	B	C	D	E	F	G
①	さっき（番組内の） 男子が言っていたように ぼくも「言っても空気が読めないやつ」は仲間に入れたくないです。	友だちの関係ってそんなに大変かなあと思った。	確かに空気を読めない人に「なんで今それを言うの？」って思うこともあるけど、 そういうことはしょうがないと思っ た。	しゅうたさん（出演者）に共感。あとから考えると、「 自分って悪い人だなー 」って思った時 自分もある。	お世辞を言われると、イラつく⇒無視⇒悪口（ 自分がやってしま う。 ） 後で後悔する	（番組内の）男の子がやったことを自分もやったことがあり、この番組をみて、よりいじめをされた人は、学校が楽しくなくなってしまうことが分かった。	KYって別にいいんじゃない？いちいち小さいことばかり気にしていると種を育てちゃうよ。KYの人だけをいじめるのっておかしい。
②	ぼくは、 いやな人が何をやるとすぐにおこっ てしまう。 自分には何もできない。	そんなみんなの事を考えない方がいいのかも。	相手にも自分にも良いことや欠点があるとい うのを分かり合えば、 一人を責めたりは少なくなると思う。	高橋さんもいっていたように、いじめの種を育てない。ぼくはつさせない。ちっちゃいことでひっかからない。でも難しいのでは？	関わる機会を増やす まずは相手の話を聞く 皮肉を言わない できない時がある。	友達が何かを言っている時に、口をはさまないように意識する。 空気が読めない人がいても、なるべく話をしっかりきいてあげる。	一定の人とばかりいっしょにいない。 KYの人は気づかないから、理解してあげる。
【誰とでも良い関係を作るには・・・～クラスでの話し合いの意見～】 KYの時には、周りが教えてあげる。理解してあげる。⇔ 人はKYになることがある。仕方ない。 自分がKYを感じて直していく。⇔ お互いの事を考えて、仲間に入れてあげる。							
③	ぼくにできることは、いじめをやめなよという事	班の中から意見がいっぱい出て、まじめに話し合えたので良かった。 （ 普通の関係を保つことがいいと思う。 ）	相手意識 お互いを思いやるというのはとても大切なことだと思った。 それが難しいなら、友だちの考えにあったように、少しでもいいから、みんなと話せばいいと思う。	今日は、 本音を友達と話せた。こういう時間も大切だと思う。 良い時間が過ごせた。 （Bと熱く討論）	今までの人とのかわり方を見直し、良いところを見つけ 変容	友達の意見で、良い関係をつくろうとすると、相手の悪い所を見つけてしまうから 普通の関係を保つということに納得 しました。	普通の関係を保つのは、自分にもできそう。

【一覧を読んだ後のAの感想】

KYはいいという人もいますが、**やはりKYはみんなにやがられると思う**

自分本位

葛藤

「考える」ことが大切

【一覧を読んだ後のDの感想】

同じ人間の同じ学年なのに、**こんなにも、考えがちがうんだ**と思うと…（中略）色々なひとがいるからこそ友だち関係を築くのが難しくて、悩む。けれど**色んなひとがいるから毎日が楽しい**。でもこの友だち関係をうまく築けると、つまらない。毎日にかがあってこそ今日だと思う。でもやはり、平和な毎日を送りたい。だから、**みんな考えるんだ。考えることは、大切なと学んだ。**

放送番組「いじりが暴走するとき」

視聴後 ①番組をみて思ったこと ②いじりはなぜエスカレートしたのか。クラスでそうならないためには？ ③ふりかえり

	A	B	C	D	E	F	G
①	たしかに、いじられている人が言葉に出さないといじっている人も分からないと思う。	いじりをやっている人は、いじられている人の思っている事がわからない所が大変だと思った。	「いじり」はやっている人は気づかないで楽しくやっていますが、それが長引くと「いじめ」につながってしまうことがあるということは確かにそうだと思った。	いじりは、エスカレートすると、いじめになり、さらにエスカレートすると死んでしまう。いじられている方は、やなら「やだ」と口に出す。	「いじり」はエスカレートして「いじめ」になり、人の心を傷つけるようになるものであると思った。よって「いじり＝いじめ」だと思う。	いじりとは、思ったよりもやられてる人は、こわく、でも友達に笑ってほしいからと、みんなのいいなりになってしまう理由がより分かった。いじりやいじめは同じようなだなぁと思いました。	エスカレートするのはよくないと思う。何もいわずに死んじゅうのはくやしい。
②	本人がいじっている人にいやだと言えはいじっている人もこの人は、やられたらいやだということ分かる。 <u>本人がなにも言っていないから</u> （エスカレートする）	いじりはいじめとはちがっていじりがエスカレートするといじめになると思う。いじられて自分も楽しいと思う人と楽しくないと思う人がいて表では笑っているけど裏では、泣いている人もいると思う。楽しいと思う人と楽しくないと思う人を見きわめることも大切だと思う。	（やられて）いやだと思ったら、 <u>相手に自分の気持ちを伝えるのは大切だけど、それが難しい人も</u> いる。少しでもいえるなら言った方がいい。やっているひとは、自分では気づかなくても、相手の気持ちを考える。	いじめられている人が「ヤダ」や「やめて」など自分の気持ちを相手に伝えられないから。まず口に出す。 <u>本当の気持ちをはっきりという。</u>	「いじり」には種類があり、人を楽しませるもの・人を傷つけるものがある。自分がやっているのが、 <u>どんな種類の「いじり」なのかを考える。どちらのいじりだと思うかは、「いじる人」「いじられる人」で違うので、しっかり反応して相手に伝える。</u>	いじりはやられている人が笑っていて、周りの人も、この人は楽しんでるから、もっとやっちゃえと思ってエスカレートしたと思う。そのためには、クラス1人1人が相手のことを考え、本当にこれは言っているいいことか、やっているいいことか考えるといいと思う。	みんな平等になれば、S（いじる人）がいなくなると思う。言葉を出す。興奮してしまった。 OK ないじりはない！いつかはいじめになるかもしれない。命を落とすかもしれない。いじりはいじめにつながるからやってはいけないと分かっているといないと、ブレーキはかけられない。
【いじりがエスカレートしないためには・・・～クラスでの話し合いの意見～】 いじりはエスカレート＝いじめ →まわりの人が注意・注意されたら素直に聞く 心が強い人が注意すればいい（A 児） いじりが気がつかないうちにいじめになる。 みんなが楽しいなら OK かな？ いじり＝いじめ → いじりは× OK ないじりもダメ？ みんなが楽しめるならいじりは OK。 自分の心の中で、いじりといじめの境界線にブレーキをかける。（F） 変容 「考える」ことが大切							
③	ほくは、さっきもいったように、いじられている人が「やだ」とかいろいろいじっている人によれば、なんの問題にもならないと思う。	いろいろな意見があり、 <u>みんな意見がちがくていじりを考えるいい機会になった。</u>	いろいろな人の立場になって考えることができた。はっきりと言えない人もいるから、ちゃんと <u>周りの人も見つけてあげることが大切だ</u> と思う	いじりってこわい！いじりはいじめにつながり、命をおとす事もある。だから、OKならOK！NGならNG！口に出す。 <u>口にだすこと、相談することが大切！</u>	<u>他の意見を聞いて、OKでもNGでもいじりをしないのが良い</u> と思った。	私も友達の見解にあった、 <u>いじりに種類がある</u> ということは、 <u>人によってちがうことが分かりました</u> 。私自身は、OKないじりもあれば、心にきずつくいじりもので、これからは相手のことを考えていきたいです。	<u>深く考えることによって、みんなの視野が広がり、いじり→いじめを防げ</u> と思う。
	相手理解△	「考える」ことが大切					

放送番組「ホンネで話し、書いてみよう！」

視聴後

①番組をみて思ったこと ②普段自分のホンネを言葉に出して言えている？ 6の1について本音で語り合おう ③行動宣言（二学期からのわたし）

	A	B	C	D	E	F	G
①	ぼくは、ラインとかじゃなく本当はちがうけれどきかないことを言ってしまう。	正直に紙にやられることを書いただけでは、ぼう言や悪口が減るわけないと思う。その<u>書いたことをどのように行っていくかが一番大切</u>だと思う。	心の中で思っていないくても、言って相手を傷つけてしまうのは、言った本人は気づかないと思った。	友達に本音で話すのは、難しい。<u>「友達に合わせない」とって思ってる事がよくある。</u>	悪口、陰口を言っている人は（自分も含めて）わざわざ言うなら本人の前で言わないと、それを陰で聞いていると少し自分の事かと思うので（直接）言ってほしい。格好をつけようとして暴言をはいている人がいる。	番組であつたみたいに、ホンネを言える人は、あまりなやみをかかえていなく、人の前でホンネを言えない人は、誰よりもなやみをかかえていると思う。	もし私が番組と同じ紙に書きだして、「あの人がこわい」ってかいて、それがその「あの人」に知られてしまったら、どうしようと思う。
②	みんながはずかしがらすにする。ふんいきをつくる。	みんなホンネじゃない時があつて、やっぱり自分もホンネじゃない時もある。でも<u>ホンネを言わなきゃと思つても言えない時もある。</u>	おたがいに、「<u>こわい人</u>」とか「<u>あの人の従わなくちゃいけない</u>」といううなことのないクラスだとホンネで言えるクラスだと思う。	本音が言える話題と言えない話題がある。<u>本音と言うと、ハブられる気がする時がある。</u>	はっきり言つて<u>陰口が多すぎる</u>。名前は言わないが、〇〇さんがよく言っている。特定の人がよく悪口を言っているのをきくし、<u>自分も言うようになってしまふ</u>。また、こわいからと言って（仲間はすれにされそう）本人に言えない。（陰口ではなく）本人に直接言う。言われても反発しない。それは悪口ではないから。	言えることもあれば、言えないこともある。ホンネが言えるクラスは、「この人苦手」と思う人もいると思うけど、あまり苦手いしきをもたずに、<u>みんな男女関係なく、平等に仲よくする</u>。	私はずっと友達といっしょということがそんないから、ズバツといえる。いじめがなくなり、本当の「平和」がつかめる。
【6の1についてホンネで語り合おう】							
話が合わない人とは、ホンネで話しにくい。ホンネで言えない雰囲気がある。自分優先のひとが多い。 悪口が多い。言われてもスルーする人がいる。エスカレートする可能性がある。 悪口を注意している人もいる。自分優先の人が多い。 悪口を言っている人に言うと、いじめられそう。 こんな6の1をどうしていく？ 悪口を〇に近づける努力するべき 今の雰囲気を変えるべき 強い人・弱い人の差をなくす 悪口を言えない雰囲気をつくれればいい。陰口・悪口を言えないということは、正面から言えない「恥ずかし事」と自覚するべき。 みんなのいいところを見つけていこうよ！ 強い人が弱い人を従わせている。この関係はなかなか崩せない。こういう授業でみんなが平等になるようなことを話あつていくと、ホンネが言えるようになる。 強いつ・弱いつの差なんてない。もともとみんな「普通」はず どうして強いつ・弱いつになつちゃうの？ もともとの性格もある。人の前で話づらい人もいる。みんながホンネを言うのは難しそう。 一人で雰囲気を崩そうとすると、いじめになる。→みんなでの雰囲気をかえていくべき。							
③	ぼくは、<u>弱い人がいたら、助けたいと思ふ</u>。	なるべく本音言う。	少しでもホンネを言うようにする。	なるべく本音！	心を強くして、陰口をたたいている人に陰口ではなく本音で相手に伝えて差し上げる。	<u>同じ人とずっと（一緒に）いない。</u>	いやな人がいても、その人のことを悪く言ったり、言葉を出したりしない！！
自分の立場を理解し若干の変容！？		ホンネの大切さ			トラフルの教訓		

8 成果と課題

PMI シート²

	P Plus プラス 成果	M Minus マイナス 課題	I Interesting おもしろかったところ
互いの良さを認め合う	○多様な意見の中から自己決定（自分にできること・自分はこうしていきたい）を促すことで、ホンネを話すことができている。 ○ホンネで話し合うことで、今できることを考えられた。	○抽出児童を同じグループで話合せたが、いろいろな立場の児童が話合えるように、学級全体のグルーピングが難しい。	○教師がファシリテートに専念することで、子どもがホンネで自分の考えを言える雰囲気が出てきた。
学びを深める	○相手の立場にたって互いの良さや特性を少しずつ理解している。 ○自分の考えとは違う意見に真剣に向き合い、「学びを深める」ことが少しずつできるようになっている。		○抽出児童の発言を経過観察することで、教材の良さや課題が明らかになってくる。
放送教材の活用 y	○学習プランを統一することで、回を重ねるごとにスムーズに話し合いが進んでいる。 ○子どもたちの中に葛藤を生むような放送教材を活用することで、普段は話せないようなことを友達で同士でぶつけあう良い機会になっている。	○1 単位時間という限られた時間で行うのは難しい。 ○放送教材を使うタイミングと選定について、さらに熟慮する必要がある。	○子ども自身が、番組内の子どもや MC に共感する場面があり、身近な課題として取り上げる

² シンキングツール®～考えることを教えたい～（短縮版） 黒上晴夫 小島亜華里 泰山裕 NPO 法人学習創造フォーラム
http://www.ks-lab.net/haruo/thinking_tool/

9 今後の展望

これまでの3つの実践に加え、より学級の実態に合った放送教材を選定し、引き続き研究を深めていきたい。B児のワークシートにもあったように、行動宣言が「書いて終わり」ではなく、「どう行っていくか」を実際の日々の生活をふりかえる機会を設けていきたい。2学期初めには、行動宣言を全員で見合い、クラスとして学級目標に向かってどうしていくかを考えさせていきたい（特別活動「学級活動」(1)）。互いの良さを認めている児童もいれば、まだ自分の考えに固執してしまう児童もいる。「互いの良さを認め、学びを深める」ために、話し合いの全体化の仕方や、グルーピングの方法についてもさらに研究を深めていきたい。

10 参考資料

いじめをノックアウト (NHK for school)	いじめをノックアウト (NHK for school)	いじめをノックアウト (NHK for school)
6年 組 名前 ()	6年 組 名前 ()	6年 組 名前 ()
今日の宿題の題名	今日の宿題の題名 いじりが暴走するとき	今日の宿題の題名 ホンネで話し、書いてみよう！
1 番組をみて思ったことを自由に書きましょう。	1 番組をみて思ったことを自由に書きましょう。	1 番組をみて思ったことを自由に書きましょう。
2 誰とでも良い関係を作っていくにはどうしたらよいと考えますか。	2 いじりはなぜエスカレートしたのだろうか。 クラスでそうならないためにはどうしたらよいか？（具体的に）	2 普段自分のホンネを言葉に出して言えていますか？ ホンネが言えるクラスってどんなクラスだろう？
3 今日の学習のふりかえりを書きましょう。	3 今日の学習のふりかえりを書きましょう。	3 今日の学習のふりかえり（行動宣言） 二学期から自分に本当にできることを宣言しよう！ 今日は別の紙に書きます！

いじめをノックアウト (NHK for school)

6年 組 名前 ()

授業を始める前に・・・

「KY」という言葉がありますが、覚えてください。

「空気が読めない」ってどういうことですか？ 具体的な様子もあれば、書いてください。	あなたは、「空気が読めない」人や「空気が読めない」ということについてどう思いますか。

自分と同じ考えの人もいれば、ちがうがう考えの人もいますね。それが集団でありクラスです。自分とはちがう考えをよく読んでみましょう。いろいろな考えの人がいるから楽しい、難しいのです。

V 公開授業研究会

研究主題

昨年度までの研究について

昨年度までの3年間は「ICTを活用して、子どもたちのコミュニケーション力アップ」をテーマに研究に取り組んできた。

授業デザイン部会では、教育メディアを効果的に活用しコミュニケーション力を育むことをめざし、思考ツール※1を用いた授業デザインを検討してきた。実践提案・授業研究会を通じて、思考を可視化することにより協働的な学びが促進された子どもたちの姿を見ることができた。言語活動にICTを活用し、学習を積み重ねることにより、コミュニケーション力が育成される子どもの姿を見ることができた。

スキルアップ部会では、教員のスキルアップが子どもたちのコミュニケーション力につながることを想定し、ICT機器の環境整備や活用方法、情報モラル教育や教育の情報化について研究を進めた。授業に活用できるソフトウェアや新しいICT機器の研修、情報モラル育成に向けた授業研究を行い、「One of them のICT活用」を意識化することを共有し、教員のスキルを向上することができた。

部会研究と並行し、タブレット端末活用実践を重ねてきた。一人一台、二人一台、グループに一台と、それぞれ違う環境の中で数多くの実践を行うことができた。機器を整備することや情報の扱いなど、成果と同時に課題も多く挙げることができた。

コミュニケーション力について、三年間の取り組みを通じて、授業のねらいや活動場面、一人一人の授業での役割によって発揮されるべき力が流動的であるため、適切に見とることの難しさがあるものの、その育成が言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高めていくことが明らかであり、授業デザインを行う上で教師が意識してその力を見とり育むことが重要であることを確認した。

情報・視聴覚教育をめぐる近年の動向

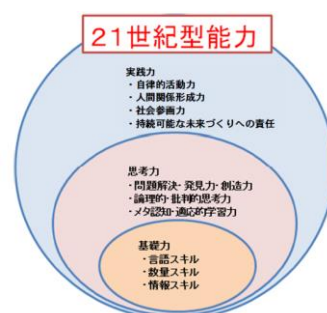
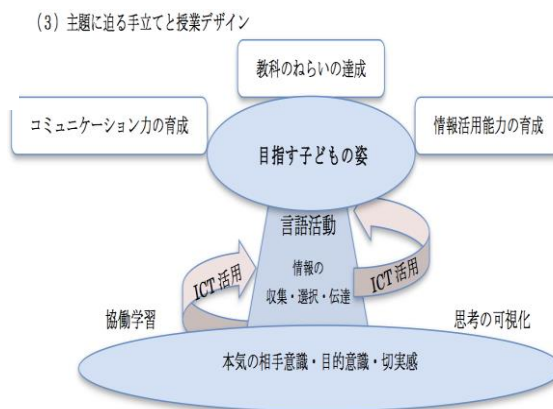
「横浜市のタブレット端末先行導入校との連携」

横浜市では、第二期教育振興基本計画の施策1「横浜らしい教育の推進」の重点取組5として「先進的なICT教育の推進」を挙げている。「情報教育推進プログラム(仮)」を30年度末までに策定し、タブレット端末や無線LAN等の学習環境の整備を推進するとしている。

タブレット端末については、昨年度、先行導入校8校(小学校4校、中学校4校)が決定し、今年度から導入される。先行導入校(港北小、東汲沢小、三ツ境小、白幡小)と連携を図りながら実践を重ね、研究を深めていきたい。今年度は先行校から授業提案し、市全体へ広く公開することに繋げていきたい。

21世紀型能力の育成

現在、中教審では初等中等教育について、新しい時代に必要となる資質・能力の育成が課題の一つとして審議されている(H26.11.27 中教審初等中等教育分科会資料1-2)。この資質・能力として国立教育政策研究所は「21世紀型能力」を提案している(2013「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」)。21世紀型能力は、図に示すように、「思考力」、「基礎力」、「実践力」から構



成される。中核に「思考力」を据え、それを支える「基礎力」があり、思考力の使い方を方向付ける「実践力」が位置付けられている。「思考力」については、学力の3要素の「思考力、判断力、表現力その他の能力」が目指すものと一致しており、本研究会で授業デザイン部会が目指しているところのものでもある。「基礎力」には情報スキルも取り上げられており、こちらはスキルアップ部会が担うところとなる。

今年度の研究について

研究テーマ

「情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成」

昨年度までの研究と近年の動向を受けて本研究会では、21世紀型能力に位置づけられた「思考力」の育成を目指した情報・視聴覚教育の研究を推進していく。

情報活用の実践力、すなわち必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力を高めることで「思考力」の育成を図っていききたい。「思考力」育成に向け、単元を通した授業デザインを行い、情報の収集や表現、発信について、どのようにICTが関わり活用されたか考察を重ねていく。そのためには、「基礎力」の育成も欠かすことはできない。「思考力」「基礎力」について二部会で取り組み、効果的に繋げていきたい。

本年度は、「思考ツールを用いた視覚化による思考力の育成」と「問題解決につなげる思考の共有」の二つの柱を単元に位置づけた次のような授業デザインを追究していききたい。

- ① 教師は、ICTを活用し情報を提示するなどして、子どもにとって強い意欲もてる効果的な学習材との出会いを設定する。
- ② 子ども自らが情報を収集し、目的意識・相手意識を明確にした切実感のある問題作りを行い、教科のねらいに沿ったゴールを見通すことができるようにする。
- ③ 子どもが問題解決に向けて収集した情報を整理し判断する場面では思考ツールを用いる。
- ④ 教師は、子どもが互いの思考を共有し協働的に問題を解決していくことを支援し、新たな情報を創造し、発信・伝達していく場面を設定する。

このような単元の流れにおいて、これまでの授業研究会にもあったように子どもたち自身がICT機器を活用して取り組む。また、このような問題解決学習の流れは、どの学年・教科においても実践可能であり、横断的に実践を重ねていくことで、21世紀型能力の育成を図ることができると考えた。

これらを踏まえ、本年度の研究テーマは「情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成」とした。

研究仮説

学習者は、視聴覚教材などを通じて収集した情報を整理する際に思考ツールを用いることで自らの思考や判断を明確にすることができ、互いの思考を共有し協働的に学習することで「思考力」を育むことができるであろう。

研究方法

授業デザイン部会、スキルアップ部会の2部会の体制で引き続き行う。

授業デザイン部会では「思考力」に、スキルアップ部会では「基礎力」に主眼を置いて研究を進める。

一斉授業研究会は授業デザイン部会から、2会場で提案する。

1 単元名 「妙蓮寺タウンじょうほう その3 ～広めよう！ 妙蓮寺じまんの一品～」

国語科 教材名 「しりょうからわかる小学生のこと」（光村図書）

2 単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は3年生として初めて「総合的な学習の時間」の学習に取り組んでいる。

まず、社会科の始めの単元である「街調査」を通して、住み慣れている身近な学区の地形や公共施設、交通の様子を知るとともに、「妙蓮寺の街」やそこで働く人と出会った。さらに続けて身近なスーパーマーケットの見学を通して「売る仕事」や、地元の商店や、工場の見学を通して商品を「作る仕事」について興味関心を広げ、その学習を進めてきている。これらの学習で、大量仕入れ、大量販売のスーパーマーケットを利用する家庭が多いという事実を知るとともに、近隣の商店街では、その店独自の、そこでしか買えない商品があるという気づきが生まれた。そこで、それぞれが興味をもった「妙蓮寺の街のその店でしか買えない一品」について調べ、紹介する活動に取り組むこととなった。また、「自分たちにも妙蓮寺らしい一品を開発することはできないだろうか。」という願いも生まれた。地元の商店の協力を得て、児童なりの商品の開発にも取り組んでいる。

国語科の「話すこと・聞くこと」に関する実態として横浜市学力・学習状況調査においては図1のような結果である。「大事なことを落とさないように聞くこと」に課題が見られている。そこで5月「質問キャッチボールをしよう」では、社会科や行事などで興味をもったことや話したいことを小グループで友達に話したり、話の中心に沿ってさらに引き出す質問をしたりする学習をした。それ以降、継続して朝のスピーチタイムを重ねてきている。

伝え合うことの学習としては、6月に「妙蓮寺タウンじょうほう1」として社会科の街調査の結果をまとめ、互いに説明し合う活動をしている。取材した内容から伝えたいことを選択し、学区地図や写真を見せながら説明したり、質問しあったりすることができた。

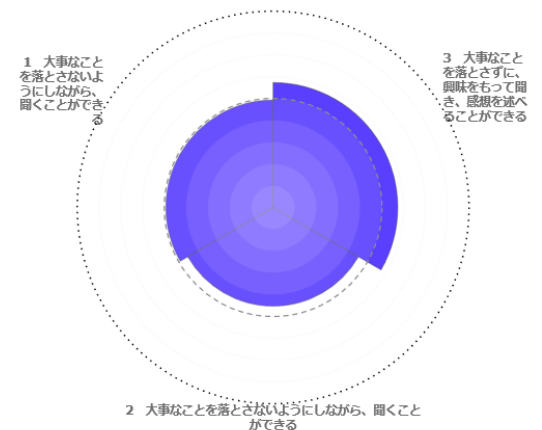


図1 平成26年度横浜市学習状況調査結果
港北小学校2年生 国語科「話すこと・聞くこと」

(2) 単元に関わる教師の意図

本単元は児童が住んでいる街のことを知り、その良さに気づき、さらに好きになることをねらいとしている。

妙蓮寺の駅の西側周辺には、「妙蓮寺ニコニコ商店街」「仲手原商店街」「池之端商店街」などが隣接し、食料品や生活用品を取り扱う商店や、飲食店が立ち並んでいる。商店街を通学路として使っている児童もおり、駅周辺に住む児童にとっては非常に身近である。しかし駅の東側に住む児童にとっては、直接買い物をした経験が少ない場所でもある。これらの経験の差を小さくするためにも、学習の時間の中で何度も訪問し、直接取材、調査、体験活動を重ねていけるように仕組んでいきたい。この商店街を中心に、妙蓮寺の街で働く人に出会わせ、その店それぞれの工夫や努力に気づき、店の人と触れ合うことを通して妙蓮寺の街に親しみ、愛着をもてるようにしたい。

『横浜の時間』として、総合的な学習の活動に国語科の単元を関連させていく。国語科の単元を貫く言語活動を総合的な学習の時間の活動に落とし込み、主体的に取り組むための強い目的意識をもたせたい。さらに国語の指導事項である身に付けたい力を活用しながら定着させていきたい。国語科「しりょうからわかる小学生のこと」は、写真と文章を使って、自分が伝えたいことを効果的に説明したり、紹介したりすることをねらいとする。活動やその結果を示す資料からわかったことを、相手（保護者や地域の人）に分かりやすく説明する活動を行う。自分の伝えたい事柄が資料や活動場面のどこを根拠としているのかを筋道を立てて話すこととし、そのための構成をとらえさせる。また、話し方として「相手や目的に応じた丁寧でわかりやすい話し方」「資料の見せ方」を工夫させる。そこで、「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開き、保護者や地域の方に向けて自分なりの見方・考え方を説明するという言語活動を設定し、切実感のある問題解決学習にしていきたい。

3 研究主題との関わり

平成27年度横浜市情報・視聴覚教育研究会 研究主題 「情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成」
--

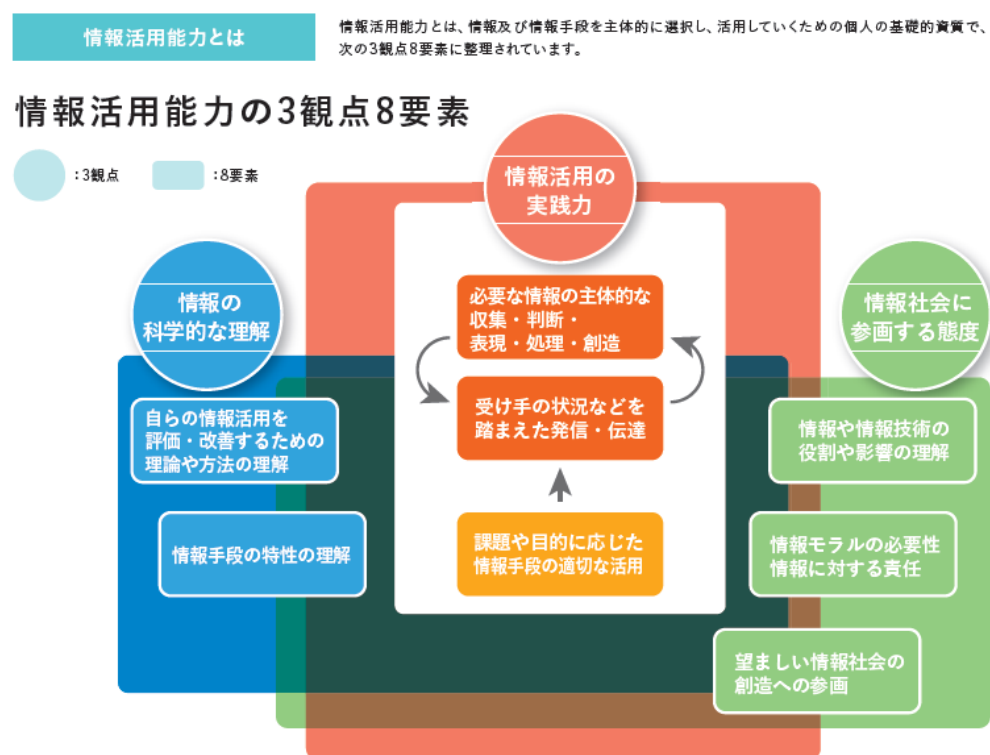
(1) ICTの活用

機器・・・タブレット端末（Android 4.4）16台 電子黒板 ワイヤレスディスプレイアダプタ（画面転送）
教室内サーバ用PC 無線LANアクセスポイント ポケットwifi

今年度、横浜市の先行導入として学校に40台のタブレット端末が導入された。本学級では主に4人で1台の活用を重ねてきている。タブレット端末を使って写真を撮影したり、説明の際に写真を提示したりして、様々な教科や学級活動の場面で利用している。下半期になってポケットwifiの導入と、教室内無線LANの構築がなされ、活用の幅が広がっている。

本単元では、4人単位のグループに2台を用意する。資料提示用・撮影用で活用、場合によっては2台で提示して比較するという活用を想定している。

(3) 主題に迫る手立てと授業デザイン



(情報活用能力育成のために 平成27年3月 文部科学省 より抜粋)

<情報活用の実践力>

情報活用能力については、適切な「情報の収集・選択・伝達」について理解を深めさせたい。

これまでの学習のなかで出会ってきた大人や保護者へのインタビュー、提供されたり自分で写したりした画像、WEB上の情報、さらに図書資料などから、自らの課題に沿った情報を収集し、選択して伝達できる力をつけたい。

そのために、以下の点における指導に配慮する。

- ① 司書教諭と連携した図書活用
- ② 適切なインターネット検索の仕方の理解
- ③ 情報の出典元の確認と引用の仕方
- ④ 著作権・肖像権についての配慮
- ⑤ インタビュー、質問のための手紙や電話や電子メールなどのマナー
- ⑥ 適切な個人情報の扱い

・情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造

収集にあたっては、地域の図書資料、地図、店のHP画面、包み紙、製品の成分表示などの読み取りや、現地での撮影、店の方へのインタビュー活動などの取材を行う。

判断・表現・処理・創造については、これまでの学習でポートフォリオやタブレット端末のデータとして蓄積されたものの中から、説明の際に効果的だと思われる資料を選んだり、キャプションを入れるなどの加工をしたり、表やグラフの作成をしたりする。また、子どもが合意形成していく過程においては、十分なコミュニ

ケーションを重ねる中で判断していけるようにする。

- ・受け手の状況などを踏まえた発信・伝達

説明の相手意識を保護者と地域の方、店主とする。「妙蓮寺にはこんな特徴のある魅力的な商品があるのか」「その商品には作り手のこんなこだわりがあるのか」「そんなに詳しく調べ、商品に愛着をもったのか」といった気づきや感想を与えることを目的とする。内容と共に、本単元では、「資料を示しながらの説明の仕方」を考え、身につけさせる。

- ・課題や目的に応じた情報手段の適切な活用

取材の際には、「取材相手の許可をとる」ことを徹底させ、著作権や肖像権、個人情報の取り扱いへの配慮など情報モラルの学習を進める。

<情報の科学的な理解><情報社会に参画する態度>

発達段階に応じて、活動の中で意識できるように支援していく。

<協働学習と思考の可視化>

単元においては「この学習の目的は何か」「妙蓮寺じまんの一品の定義は何か」「商品の何を伝えたいのか」「他の商品との違いは何か」「どのようなフェアを開くのか」などにおいて十分に話し合わせたい。根拠をもって自分の考えを言いたくなるようにするため、共通の体験活動を多くもたせていく。その上で「写真や資料から読み取れることを説明に活かすこと」「伝えたいことを効果的に表す資料を選ぶこと」を何度も往復しながら、「より効果的に伝える表現」について考えさせたい。

学級全体での合意形成を大切にしながら、グループでの協働的な学習を進めていく。同じテーマで探究しているグループでは情報を分類整理・選択する場面で細部にわたっての検討をしやすくなる。最適な内容、構成、表現などについて、相手意識・目的意識、情報収集した事実を根拠に話し合うには、児童が十分に互いの思考を可視化しながら学習を進めていく必要があると考える。そのために、ワークシート、思考の流れを構造化したシート、ホワイトボード、付箋紙などのツールを活用し、話し合いの過程が残せるようにする。これらは教師にとっても各グループの状況を見取る一助となり、課題解決に向けての適切な支援につながるはずである。また、活動の振り返りを重視することにより、進捗状況を共有し、次の活動にむけての方向を明確にする。

このように ICT を活用して思考を可視化しながら協働的な学習を進めることにより、さらに高次の情報活用能力を高めていけると考える。

<言語活動の特徴>

本単元の言語活動として「資料を示しながら商品の良さを説明する」を位置付けた。

自分の課題を解決するために目的をもって取材したことやそれを裏付ける資料から得た情報整理し説明する言語活動は、他教科・領域等での学習でも有効に活かしていける活動である。

「資料を示しながら説明すること」の特徴として、主に以下のようなことが挙げられる。

- ①自分が調べたことから分かったことや、考えたことを話す。
- ②発表会の聞き手や目的を具体的にもち、それに合わせて説明する。
- ③グラフや表、写真、絵などの資料を読み取り、それを見せながら効果的に伝える工夫をする。
- ④設定した時間を意識した構成を考える。
- ⑤相手の反応を見ながら言葉の抑揚や間の取り方、資料の指示し方を工夫して話す。

「資料を示しながら説明する」という言語活動の特徴が、目標の実現にむけて有効であると考ええる点は、以下の3点である。

一点目は、相手意識である保護者や地域の方にとって「妙蓮寺にはこんな特徴のある魅力的な商品があるのか」「その商品には作り手のこんなこだわりがあるのか」といった気づきを与えることができるかを意識しながら取材や調査を進め、効果的に説明するための工夫ができる点である。

二点目は、取材したり、調査したりする中で集めた情報や、写真や動画をポートフォリオやタブレット端末などに蓄積していける点である。年度当初から繰り返し調査してきた街の情報を何度も取り出して活用したり、友達と共有したりすることができる。

三点目は、グループで調査した情報を発表する際、原稿を読み合い、話し方の修正を重ねるなかで、質問や感想を述べやすくなる点である。細部にわたって吟味したり、意見したりすることから、ねらいに沿った思考

を深めることができる。

以上の手立てから、「情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成」を実現できると考える。

4 単元の概要

(1) 単元の目標

妙蓮寺の街にしかない、妙蓮寺の街で作っているものを探し出し「妙蓮寺じまんの一品」として紹介することを通して、それを作って売っている人の思いや願いを受け止めながら、共に行動する力と、相手意識をもって伝える力を伸ばすとともに、地域の商店街のよさを知り、自分たちにできることを考え実践することができる。

(2) 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

ア 妙蓮寺について広めていきたいという問題状況の中から課題を発見し、設定する（課題設定）

イ 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くために適切な手段や内容を選択し、情報を収集する（情報の収集）

ウ 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くために収集した情報を整理し、比較したり、関連付けたりして課題の解決に向けて考える（情報の選択）

エ 保護者や地域の方に「妙蓮寺じまんの一品」のよさを広めるという相手や目的に応じて、その根拠とできる分かりやすい資料を選択し、伝える（情報の伝達）

【自分自身に関すること】

オ 探究的な学習活動の楽しさを味わうとともに、妙蓮寺の街に愛着をもつ

【他者や社会とのかかわりに関すること】

カ 友達と情報交換したり話し合ったりすること、専門家からの助言などを通して、より目的にあった決定を目指していく

キ 取材活動や体験活動を通して「妙蓮寺じまんの一品」のよさや働く人のこだわりを知り、妙蓮寺の街に愛着をもつ

(3) 単元で学ぶ内容

ア 妙蓮寺の商店街で製造・販売されている商品の良さと、そこに込められた店主のこだわり

＜紹介する商店・会社・主な商品＞

① 肉のキタムラ（食肉販売 加工肉製造・販売）・・・山形牛コンビーフ

② café 茶寿（洋菓子製菓・販売・喫茶）・・・おからクッキー(プレーン)

3年4組開発の新商品 おからクッキー(「横浜醤油」味)

③ 八州屋（おでん種製造・販売）・・・さつまあげ

④ 横浜醤油（醤油製造・販売）・・・丸大豆醤油（東海道ラベル）

イ 妙蓮寺の街の位置や歴史、環境などの特徴

国語科で重点化した指導事項「A 話すこと 聞くこと」

ア 関心のあることから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること

イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと

ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)イ (ク)

指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。

5 単元の評価規準

評価の 観点	学習方法		自分自身 (自己理解)	他者や社会とのかかわり (他者理解)
	(課題設定)	(思考・分析)		
単 元 の 評 価 規 準	①妙蓮寺の街について関心を持ち、街について広めていくために課題を設定している。 【(2)ーア】	①イメージマップから広げた「妙蓮寺のまちの特徴」をお互いに関連付け街のイメージを広げている。 【(2)ーイ】 【(3)ーア・イ】	①妙蓮寺の店舗やそこで製造・販売されている商品について調査したり、体験したりしたことを振り返ったり、その内容に興味をもったりしている。 【(2)ーウ・オ】 【(3)ーア】	①妙蓮寺で製造し、販売されている商品について調査し、「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くことを通して生じた課題を解決するために、他の児童やお店の方々などの意見を取り入れている。 【(2)ーイ・ウ・カ】 【(3)ーア】
	②「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くために、フェア開催の目的を理解し、学習計画を立てている。 【(2)ーイ】 【(3)ーア】	②「妙蓮寺じまんの一品」認定にふさわしい商品なのかを考えるために、工場で生産された同様の商品と成分や生産過程を比較している。 【(2)ーイ・ウ】	②「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くことを通して、自分のがんばりに気付いたり、開催への意欲をもったりすることができる。 【(2)ーエ・オ】 【(3)ーア】	②「3年4組オリジナル妙蓮寺スイーツ」「妙蓮寺じまんの一品認定マーク」を開発するために、専門家のアドバイスを参考にしている。 【(2)ーイ・ウ・カ】 【(3)ーイ】
		③取材して得た情報や、学級で検討した結果から「妙蓮寺じまんの一品」に認定する商品を根拠をもって決定し、商品のよさを、根拠をもって説明している。 【(2)ーウ】 【(3)ーア】		③「妙蓮寺じまんの一品フェア」で、保護者や地域の方に向けて商品の良さや店主の思いを伝えている。 【(2)ーエ・キ】 【(3)ーア】
		④「3年4組オリジナル妙蓮寺スイーツ」「3年4組妙蓮寺じまんの一品認定マーク」を開発するために地域の特徴を盛り込むための根拠をもっている。 【(3)ーア・イ】		

<国語科の評価規準>

<国語への関心・意欲・態度>

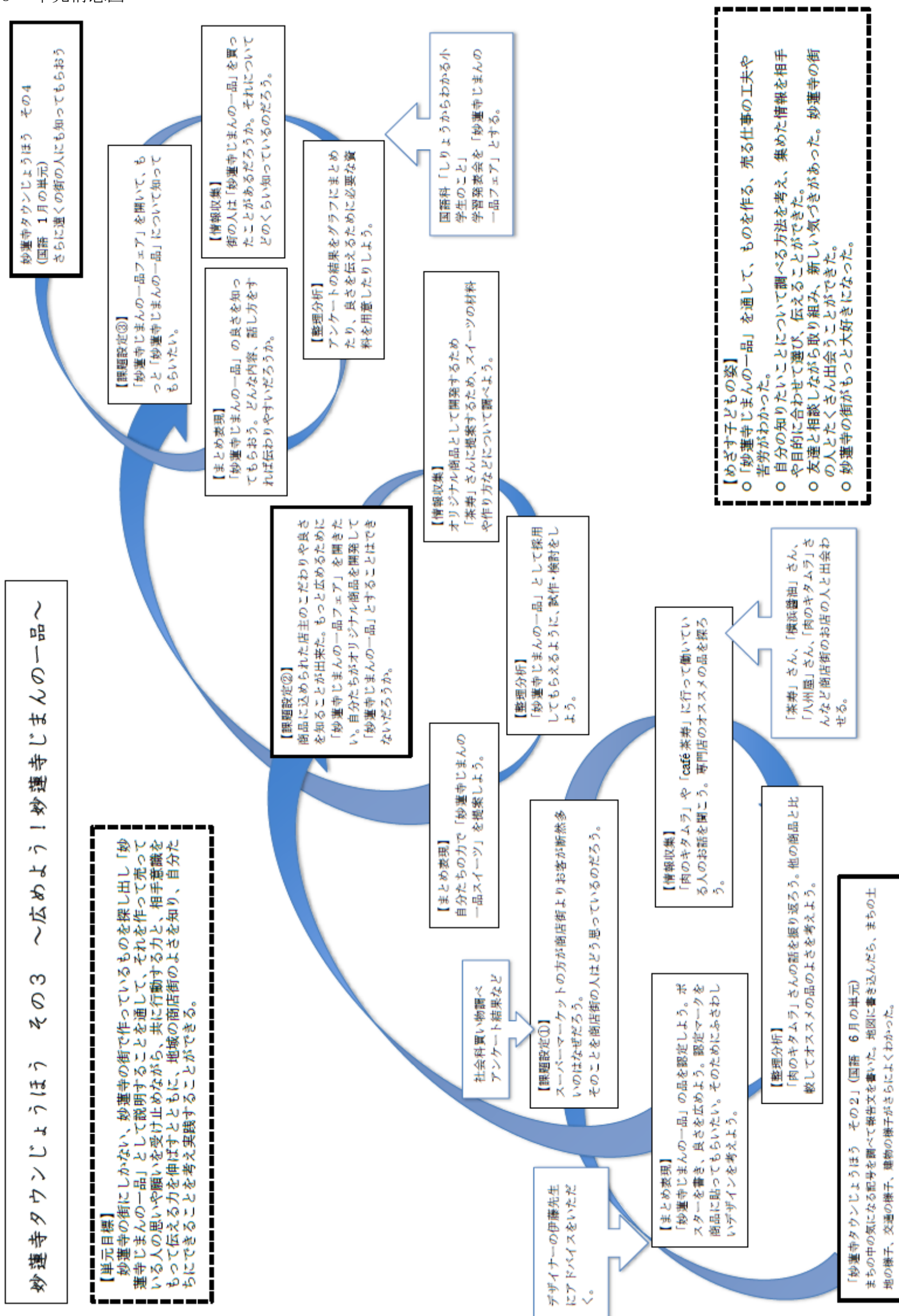
- ① 資料から分かった「妙蓮寺じまんの一品」のよさを説明したいという思いを膨らませ、進んで話し手になって説明しようとしている。

<話す力>

- ② 「妙蓮寺じまんの一品」のよさを示す資料から情報を選んで分析し、分かったことや考えたことを挙げている。(1) ア
- ③ 「妙蓮寺じまんの一品」のよさについて、選んだ資料を根拠に分かったことや考えたことを、話す事柄の順書を考え筋道を立てて話している。(1) イ
- ④ 相手を見て、大事な言葉や文を強調したり、間の取り方に注意したりして話している。(1) ウ

<言葉についての知識・理解・技能>

- ⑤ 指示語や接続語の使い方に注意して話している。 伝国 (1) イ (ク)



1 チャレンジ(総合)ってどんな時間？(総合 2)

- いろいろな教科で学んだことを生かして、教科書に載っていない自分たちだけの学習にしよう。
- 「妙蓮寺タウンじょうほう 1」(社会)「妙蓮寺タウンじょうほう 2」(国語)に続けて、まちの役に立つことに取り組めるといいな。もう一度、妙蓮寺の駅のまわりや商店街を調査しよう。

2 にここ商店街に調査に行こう(総合 2)

- 夏休み買い物調べでは、スーパーマーケットに買い物に行く人がほとんどだった。商店街の人はどう思っているのかな。
- 肉のキタムラさんは「うちは『本物』を扱っている。」とおっしゃった。それぞれの店の「ここでしか買えないもの」「ここで作って売っているもの」を、「妙蓮寺じまんの一品」として認定しよう。
- 妙蓮寺らしいおみやげになるような商品を自分たちで作れないかな。

「妙蓮寺タウンじょうほう その3」 ～広めよう！ 妙蓮寺じまんの一品～

3 「妙蓮寺じまんの一品」を見つけよう (総合 2 2 国語 5 社会 4)

- お店のおすすめは何だろう。 ⑫
なぜおすすめなのだろう。
原材料・作り方・商品の名前・パッケージ・注意書きなどにひみつがあるかな。
作って売っている人のこだわりは何かな。
「森永工場」に見学に行き、「茶寿」との違いを考えよう。

【社会】「工場で働く人と仕事」 ④

- 「妙蓮寺じまんの一品」を開発しよう ⑩
「妙蓮寺じまんの一品」にふさわしいお店のコラボレーション商品は作れないかな。
試作して、お店の人に提案しよう。
パッケージやチラシも考えよう。

- 調べ方を身に付けよう。

【国語】「本を使って調べよう」 ③

- ・本で調べる方法

【国語】「つたえよう楽しい学校生活」 ②

- ・インタビューの仕方

- 「妙蓮寺じまんの一品」を知ってもらい、手に取ってもらうためにはどんな方法があるだろうか。

4 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開こう(総合 1 1 国語 1 2 道徳 1)

- 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を知ってもらおう
チラシやポスターを作ろう
学校内に、ポスターを貼ってもらおう
妙蓮寺駅の掲示板にポスターを貼ってもらおう。
「妙蓮寺じまんの一品フェア」で一番伝えたいことを書こう。
- 「妙蓮寺じまんの一品」認定マークを開発しよう。
菊名池のダイダラボッチ伝説を詳しく調べよう
デザイナーの伊藤先生にアドバイスをもらおう。

【道徳】私のまちのすてきな場所 ①

- 学習発表会 12月17日(木)の計画を立てよう。
お世話になった方をお招きしよう。
説明したい事柄を出し合って、発表の計画を立てよう。

【国語】「つたえよう、楽しい学校生活」 ⑤

- ・グループでの話合いの仕方

- 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開こう。

【国語】「しりょうから分かる、小学生のこと」 ⑦＋【総合】 ③

- ・発表の仕方

- 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を振り返ろう。さらに妙蓮寺の魅力を広めるためにできることを考えよう。

5 活動を振り返り、「妙蓮寺タウンじょうほう 4」(国語 1 月の単元)へつなげよう (総合 2)

- これまでの取り組みをふりかえろう。
- もっと妙蓮寺の魅力を広げていきたい。まちの外の人にも伝えていくにはどんな手段があるだろうか。何を盛り込むべきだろうか。

- 「妙蓮寺じまんの一品」を通して、物を作る、売る仕事の工夫や苦勞がわかった。
自分の知りたいことについて調べる方法を考え、集めた情報を相手や目的に合わせて選んで、伝えることが出来た。
友達と相談しながら取り組んで新しい気づきがあった。妙蓮寺のまちの人とたくさんで出会うことが出来た。
妙蓮寺のまちが大好きになった。
さらに広めていきたい。

6 本単元に関わる教科等の内容

教科等名	学習内容	時間数
国語	・記録や報告の文章，図鑑や事典などを読んで利用する。 ・関心のあることなどから話題を決め，必要な事柄について調べ，要点をメモする。 ・相手や目的に応じて，理由や事例などを挙げながら筋道を立て，丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す。 ・相手を見たり，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意したりして話す。 ・話の中心に気を付けて聞き，質問をしたり感想を述べたりする。 ・互いの考えの共通点や相違点を考え，司会や提案などの役割を果たしながら，進行に沿って話し合う。	17
社会	・地域の人々の生産や販売について，見学したり調査したりして調べ，それらの仕事に携わっている人々の工夫を考える。	4
道徳	・郷土の文化を大切にし，郷土を愛する心をもつ。	1

7 指導と評価の計画

小単元 (時数)	主な活動	評価規準及び評価方法	
1 チャレンジ (総合)ってどんな 時間？ (総合2)	○いろいろな教科で学んだことを生かして，教科書に載っていない自分たちだけの学習にしよう。 ○まちの役に立つことに取り組めるといいな。 ○もう一度、妙蓮寺の駅のまわりや商店街を調査しよう。	課題① 妙蓮寺の街について関心をもち、街について広めていくために課題を設定している。	・発言・観察 ・振り返りカード ・ウェビング図
2 にこここ商店街に調査に行こう (総合2)	○夏休み買い物調べでは、スーパーマーケットに買い物に行く人がほとんどだった。商店街の人はどう思っているのかな。 ○肉のキタムラさんは「うちは『本物』を扱っている。」とおっしゃった。それぞれの店の「ここでしか買えないもの」「ここで作って売っているもの」を、「妙蓮寺じまんの一品」として認定しよう。 ○妙蓮寺らしいおみやげになるような商品を自分たちで作れないかな。	課題② 「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くために、フェア開催の目的を理解し、行動しようとしている。	・発言・観察 ・振り返りカード ・ウェビング図
3 「妙蓮寺じまんの一品」を見つけよう (総合22) (国語5)	○お店のおすすめは何だろう。なぜおすすめなのだろう。原材料・作り方・商品の名前・パッケージ・注意書きなどにひみつがあるかな。 - 作って売っている人のこだわりは何かな。 「妙蓮寺じまんの一品」に認定する商品を決定しよう。 「森永工場」に見学に行き、「茶寿」との違いを考えよう。	思・分② 「妙蓮寺じまんの一品」に認定にふさわしい商品なのかを考えるために、工場生産された同様の商品と成分や生産過程を比較している。 他・理① 妙蓮寺で製造し、販売されている商品について調査し、「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くことを通して生じた課題を解決するために、他の児童やお店の方々などの意見を取り入れている。	・発言・観察 ・振り返りカード ・ポートフォリオ
	○妙蓮寺じまんの一品」を開発しよう。 「妙蓮寺じまんの一品」にふさわしい、お店のコラボレーション商品は作れないかな。 - 試作して、お店の人に提案しよう。 - パッケージやチラシも考えよう。 ○調べ方を身に付けよう。 ・本で調べる方法 ・インタビューの仕方	思・分④ 「3年4組オリジナル妙蓮寺スイーツ」「3年4組妙蓮寺じまんの一品認定マーク」を開発するために地域の特徴を盛り込むための根拠をもっている。 他・理② 「3年4組オリジナル妙蓮寺スイーツ」を開発するために、専門家のアドバイスを参考にしている。	・発言・観察 ・振り返りカード ・ホワイトボード

8 本時の活動展開

(1) 本時目標

「妙蓮寺じまんの一品フェア」で商品の良さや店主のこだわりについてわかりやすく伝えるための準備することを通して、保護者や地域の方に自分が説明した商品を購入してみたいと思ってもらうための根拠をもって内容を決定し、妙蓮寺の商店街のよさを広めようとする。

(2) 本時の展開

学習活動と内容	評価規準<評価方法>と指導の手立て
1 本時のめあてを確認する。 学習を進めるために、見通しをもつこと お家の人や地域の方に、「その商品を買ってみたい」と言ってもらうために、「妙蓮寺じまんの一品フェア」で商品の良さをわかりやすく伝えよう	○学習計画表を掲示し、いつでもめあてや活動を確認できるようにする。
2 選んだ資料から得た情報を付箋に書く。 資料から分かること 考えたこと 3 自分が話すことの資料として有効かについてグループで話し合う。 - 成分表を見ると、卵が入っていないから、「アレルギーの心配がいらないうこと」が分かるね。 - おからを使っているからカロリーが少ないね。 - 特別な「洗双糖」を使っていることが分かるね。自然なままの本物の材料をつかっているね。 - この写真ならば一つ一つ手造りで仕上げている製造過程が伝わると思うよ。 - ラベルの絵を見ると横浜で昔から作られていたことが分かるよ。 - 表よりもグラフのほうが差がよく分かるよ。 - 写真で大きくするほうがよいかな。実物を示すほうがよいかな。 4 グループの事例を取り上げ、発表メモを作る。 事例を並び替えて順番を決めること 互いの考えを交流すること 5 本時の振り返りを行う。 それぞれが根拠をもって決めたことを確認すること 6 次時の学習の見通しをもつ。 自分の発表原稿を作ること	評価規準 思・分③ 保護者や地域の人に「妙蓮寺じまんの一品」を購入したいと思ってもらうために、根拠をもって説明するための資料や内容を決定している。 <観察・発表メモ・付箋の記述> ○商品の良さや店主のこだわりを書き表した「妙蓮寺じまんの一品フェア」のポスターを掲示しておき、選んだ資料が、その事柄を説明するものであるように意識させる。 <使用する資料例> 成分量のグラフ アンケート結果のグラフ 包み紙 箱 ラベル シールなど 商店のHP 図書資料 製造過程の写真・動画 販売の様子の写真 店舗の写真 店舗の発行物 インタビュー音源の書き起こし など ○タブレット、ポートフォリオなどのなかに保存している写真や資料は並べて比較できるようにしておく。さらにサムネイル印刷もしておく。 ○話し合う中で、必要ならば写真や資料を変えたり、伝える内容を修正したりするよう支援する。 ○タブレット端末の中の資料は画面上に、ポートフォリオの中の資料の場合は「まなボード」にはさみ、上からラインや目印を書き込みながら話し合えるようにする。 ○困っていることを全体に相談できるよう促し、電子黒板に資料を拡大提示して共有しながら考えられる場面を作るようにする。 ○振り返りの視点を絞り、「保護者や地域の方に自分が説明した商品を購入してみたいと思ってもらうための根拠をもって資料や内容を決定し、妙蓮寺の商店街のよさを広めようとする」に沿った活動が出来たかどうかを考えさせる。 ○学習のゴールをイメージしながら、それぞれの活動が次時の学習へつなげられるようにする。

<授業の視点>

- 子どもは「妙蓮寺じまんの一品フェア」を開くという目的のために、情報活用能力を生かして問題解決をしていたか。

1 単元名 「三ツ境 CM 隊」

まちのよさを調べたり伝えたりする番組を作り、たくさんの人に見てもらおう。NHK for School の番組を活用し、NHK の方々にもインタビューして番組作りを学ぼう。来年度の三ツ境小誕生 60 年の番組を作って発信しよう！そして、盛り上げていこう！三ツ境小！！

2 単元について

(1) 児童の実態

- 本学級は、意欲はあるものの自分で主体的に活動していくことが苦手な児童が多い。自分たちで積極的に取り組ませるために、いろいろな場面で、グループを組んで意見を出し合い学習を進めている。これまで、2 年生の生活科で、まちを歩いて地域のお店や畑などを学習してきた。3 年生では、「まちたんけん」で地域の商店街や住宅などを地図に表す学習をしている。4 年生では、「二分の一成人式」で、自分たちの成長を保護者に発表する活動を行った。それらの活動を通し、地域に出かけて調べる活動をしたり、インタビューしたりすることで、より深く知ること、相手の気持ちを聞く活動が大切なことだと実感した。来年度は三ツ境小学校が 60 周年を迎えることを知り、5 年生として何か準備しておくべきではないかと考え始めた。そこで、今年度は 60 周年に向けて様々な「人」「こと」「もの」をまとめ、みんなに向けて 60 周年を祝う気持ちをもってもらいたいと考えるようになった。三ツ境小 50 周年記念番組を見たとき、はじめて知ったことや、なるほどと思ったことに興味をもった。60 周年特別記念番組を来年度作することを想定して、今年はその CM を兼ねて番組作成しようという考えに至った。番組作りでは、NHK の方の協力で、児童は意欲的に活動している。特に NHK for School の番組を活用することで、情報活用の視点が分かり、活動に生かしている。6 月に 40 台のタブレット端末が、横浜市から先行導入された。タブレットのカメラ機能を使い、いろいろな教科・領域での学習に役立てている。

単元に関わる教師の意図

本単元は、三ツ境小学校 60 周年に向けて、来年度 6 年生になる児童が、全校や保護者に「三ツ境小学校」や「支えてくれているまち」のよさを知り感謝の気持ちをもつことがねらいである。

子どもたちの生活は、まちの商店街や公園、自然と密接に関わりあっている。何気なく生活している中で、60 周年を機会に自分たちのまちへ目を向け、さらなる愛着を感じ取らせたい。

今年度は三ツ境小学校が出来て 59 年。来年の 60 周年記念式では、三ツ境小学校や支えてくれるまちに感謝を込めて様々な活動をする予定である。来年度の最高学年として、本年度、三ツ境小 60 周年を伝える番組を作ることにより、全校児童や保護者、地域の方々にも三ツ境小 60 周年を広めることを考えた。

この学習では、自分たちで興味をもった課題解決のため、本年度本校に先行導入されたタブレット端末を活用しながら取材させたい。タブレット端末のカメラで、取材したことを映像で撮影したり、画像を撮ったりすることを通して、情報機器の活用能力も高めさせたい。

また、NHK for School の「メディアのめ」や「伝える極意」などの番組を活用し、NHK for School アワード 2015 に応募することを考えた。取材活動で得た素材をもとに、同じところに興味をもった仲間と、三ツ境のよさをテーマに動画を作り、自分たちオリジナルの動画作りの構成を考え、番組作りの基本を学ばせる。その後、その動画を活用して 60 周年を知らせる番組を作らせる。また、番組を作りにより、視聴者に見たいと思わせる仕組みを考えさせたい。そのために、NHK for School の小学校社会科 5 年「未来広告ジャパン！」を製作している方に、実際に番組作りについて話を伺った。製作側の方々の経験や知識を学ばせていただくことで、本単元の活動に生かしていきたい。

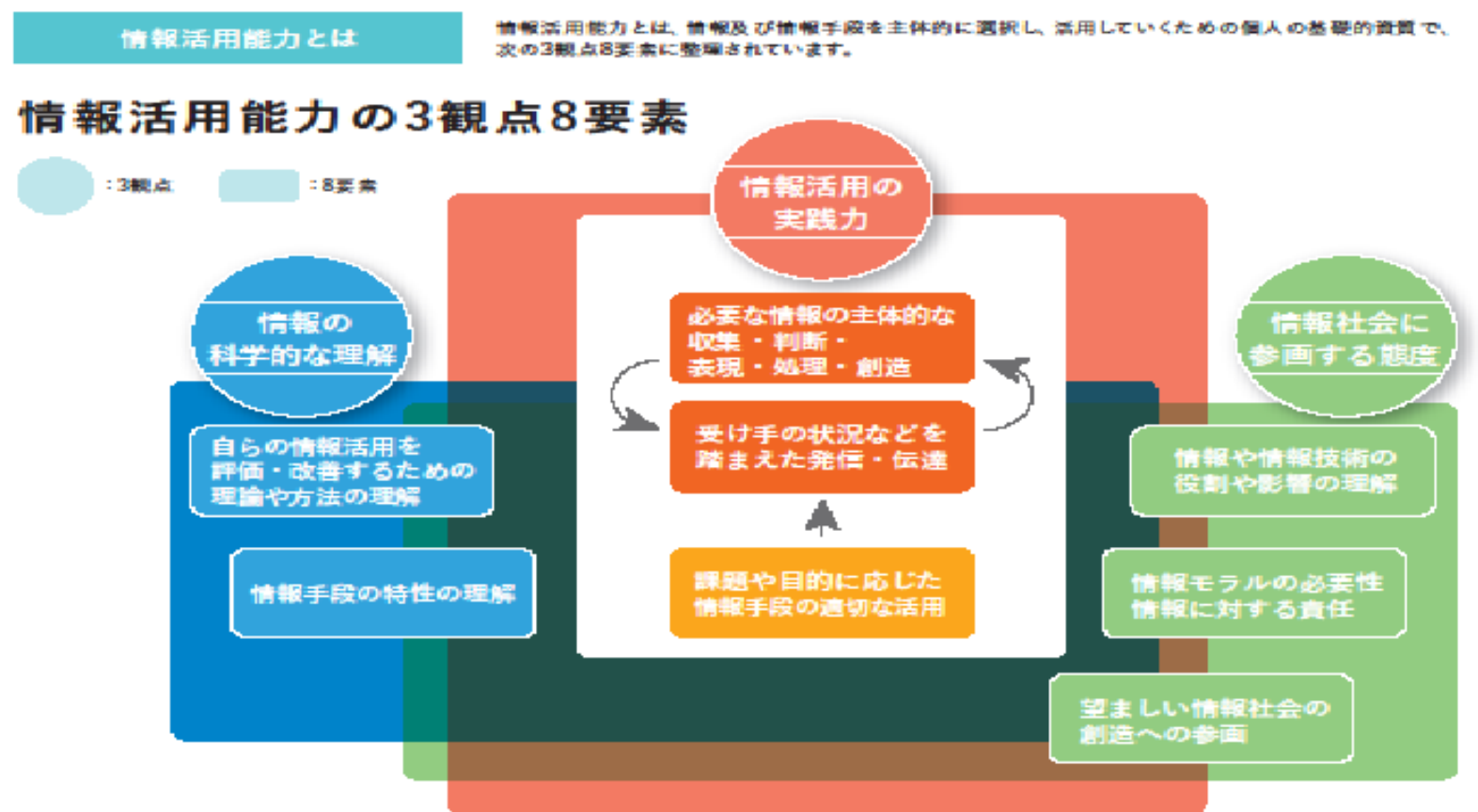
3 研究主題との関わり

平成27年度横浜市情報・視聴覚教育研究会 研究主題
「情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成」

(1) ICT の活用

機器・・・タブレット端末（Android4.4） PC

(2) 主題に迫る手だて



(情報活用能力育成のために 平成27年3月 文部科学省 より抜粋)

<情報活用の実践力>

- ・必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造

収集にあたっては、学校の図書資料や瀬谷区の図書館・区役所などや、現地での撮影、インタビュー活動など取材を計画。判断・表現・処理・創造については、タブレット端末で撮影や録画したもの、文献資料をまとめ、動画作成を行う。

- ・受け手の状況などを踏まえた発信・伝達

動画作成の相手意識を保護者と三ツ境小学校児童として、来年度の60周年ありがとうという気持ちをもたせる。

- ・課題や目的に応じた情報手段の適切な活用

動画を作成するために、NHK for School の積極的に活用するとともに、著作権や肖像権など情報モラルの学習を進める。

<情報の科学的な理解>

- ・自らの情報活用を評価・改善するための理論や方法の理解

グループで協同学習することで、互いの意見を出し合いやすくしお互いの意見を尊重しながら学習を進める。

- ・情報手段の特性の理解

タブレット端末での撮影で、デジタル写真やデジタル動画を撮影することで、デジタル編集のよさと問題点を考えながら、動画編集を行う。

<情報社会に参画する態度>

- ・情報や情報技術の役割や影響の理解

デジタル動画では、さまざまなフォーマットに対応することから、インターネットでの配信を視野に入れて活動する。

- ・情報モラルの必要性情報に対する責任

自分の問題に適切であるかどうかをグループのみではなく、クラスや専門家の意見を取り入れながら考えさせ、修正していく。

- ・望ましい情報社会の創造への参画

本当に必要な情報を扱っているかどうかをクラス全員で見合い、今後の三ツ境小学校の教育活動に役立つ動画づくりを意識しながら、学校のホームページでの配信を行う。また、NHKのコンクールに応募する。

<思考の可視化>

シンキングツールを随所で活用し、思考の可視化を図る。そうすることにより、お互いのやっていることが分かりやすくなり、違うグループの活動にもアドバイスするなど、問題解決の助けとなると考える。

また、ホワイトボードや付箋紙、タブレット端末などで、協同学習を進めていくことで、互いの児童のコミュニケーション力の向上も図られる。それら、思考の過程をファイル(紙)に残しておくことで、これまでの思考の過程をみとることが可能となる。

また、ファイル(紙に)残しておき、活動の振り返りをさせることにより、教師も児童も、新着状況が把握できるし、活動に問題点がでてきていることや、今後、何を進めていくのかが明確になる。このようなことから、「情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成」の実現ができると考える。

4 単元の概要

① 単元目標

三ツ境小学校の60周年の歴史を知り、未来を見据えた番組作りを通して三ツ境小学校や支えてくれているまちのよさに気づき、情報活用能力を生かし探究的な学習活動の楽しさを味わい、学校や地域への愛着を深めることができるようになる。

② 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ア 課題解決のために適切な手段や内容を選択し、情報を収集する
- イ 収集した情報を整理し、様々な視点から分析したり、推論したりして解決に向けて考える
- ウ 相手や目的に応じて、分かりやすい方法で表現し、伝える

【自分自身に関すること】

- エ 探究的な学習活動の楽しさを味わうとともに自己有能感をもつ

【他者や社会とのかかわりに関すること】

- オ 三ツ境の先人の努力を知り、三ツ境小やまちの伝統や文化を大切にする

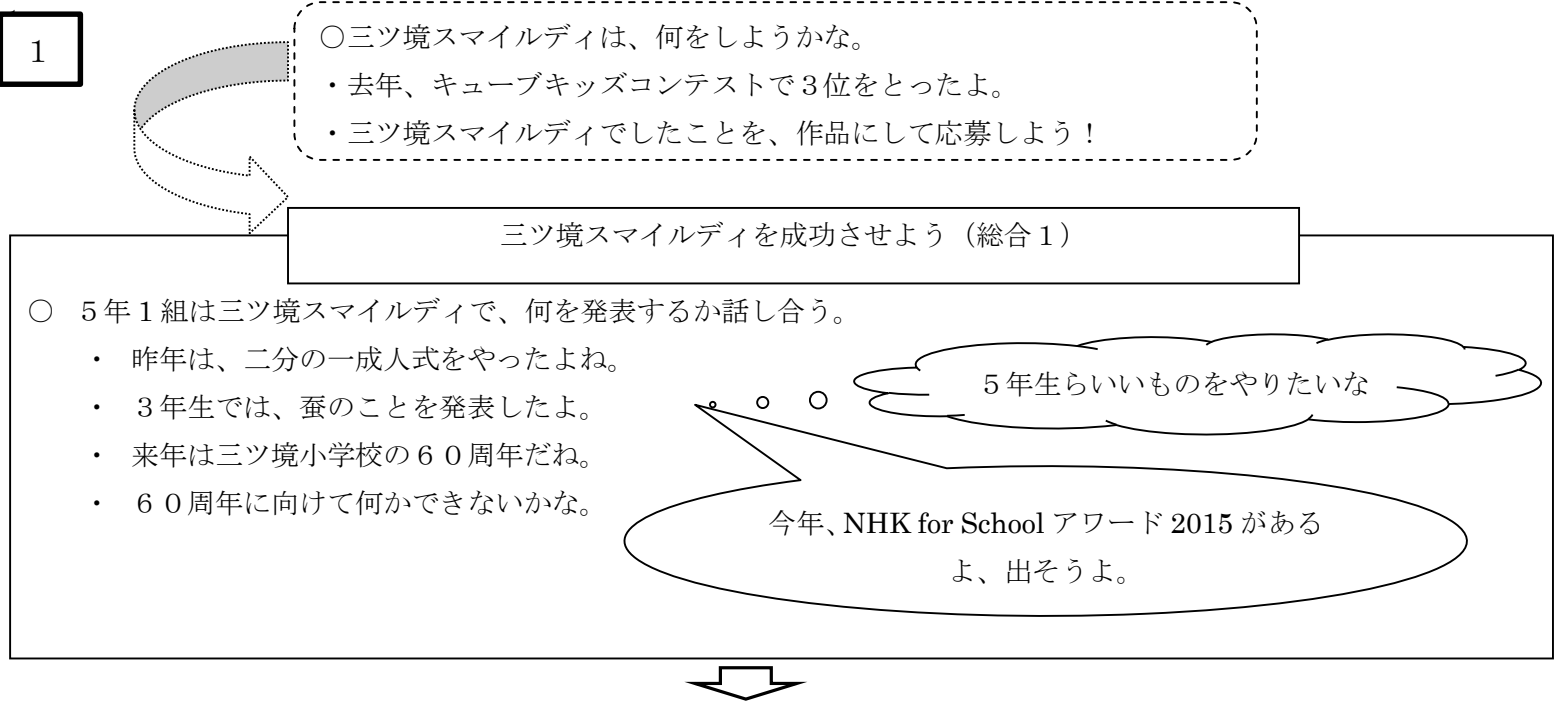
③ 単元で学ぶ内容

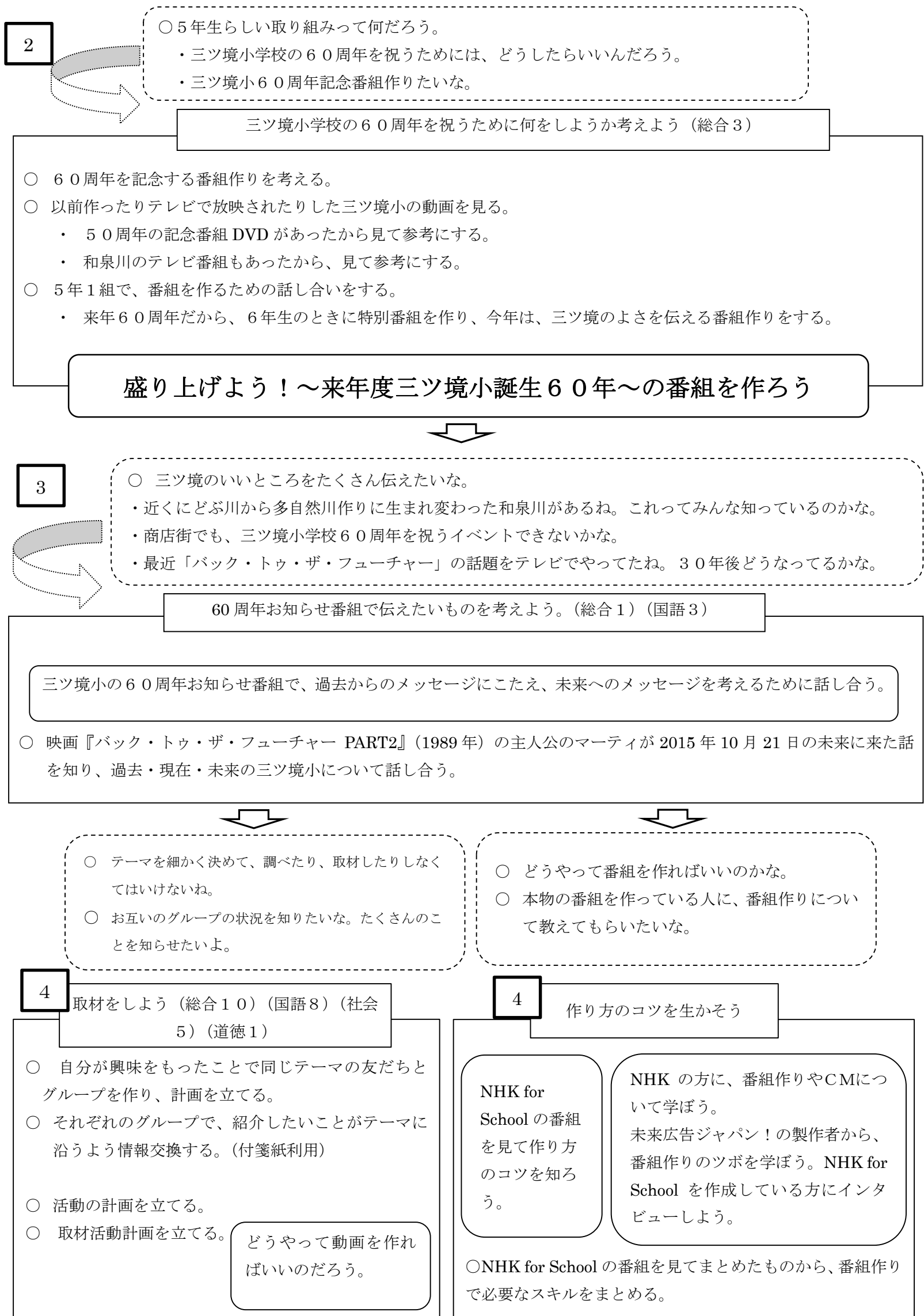
- ア 三ツ境の歴史と三ツ境の未来
- イ NHKや商店街などの職業とその大切さへの気づき、働く人々の喜びと苦労
- ウ 瀬谷区役所や地域住民の営みと自然環境の変化、自然環境を考えた生活の創造

5 単元の評価規準

評価の 観点	学習方法		自分自身	他者や社会との かかわり
	課題設定	思考・分析	自己理解	他者理解
単 元 の 評 価 規 準	①三ツ境小の60周年から学びの可能性を、ウェビングで構想し、KJ法を使い、課題を設定している。 【②－ア】【③－ア】 ②60周年を知らせる番組作りの学習計画を立てている。 【②－ア】【③－ア】 【③－ウ】 ③みんなが取材したものをもとに、60周年を知らせる番組作りの学習計画を立てている。 【②－イ】【③－ア】	①お知らせ番組の内容を考えるために、昔に書かれた図書資料や映像資料から、過去からのメッセージを読み取り、現在と比較することができる。 【②－イ】【②－オ】 ②友達の考えや、取材して得た情報から優先度の高い画像や映像を選び出し、1分動画を作成している。 【②－イ】【③－ア】 ③アンケート結果から得られた情報をもとに、番組にふさわしい画像・映像を精選している。 【②－ア】【③－ア】	①三ツ境の歴史と未来など、伝えたいことがよく伝わるように動画づくりを学び、相手によりよく知らせる番組に関心をもっている。 【②－ウ】【③－ア】 ②NHKの方に出会うことで、自分たちの課題がより明確になり、探究的に解決しようとすることにより、協働で学習する楽しさを味わうとともに、自己有能感をもつことができる。 【②－エ】【③－イ】	①三ツ境の歴史にふれることを通して生じた様々な課題を解決するために、他の児童や区役所・地域の方々などの意見を、取り入れている。 【②－オ】【③－ウ】 ②NHKの方々の番組作成にかかわる話を聞くことを通して、専門家のアドバイスを参考にしている。 【②－エ】【③－イ】 ③自分たちが学んだことを保護者や地域の方々に伝えるために学校ホームページで、作った番組を流し、他者評価を受け入れている。 【②－ウ】【③－ア】

単元構想図 横浜の時間 43+時間（総合26時間 国語11時間 社会5時間 道徳1時間）





○ 和泉川の過去や現在を調べる。

・ 昔は溝川だった。里川に生まれ変わったことなどを調べる。

・ ボランティアの方々が、丁寧に掃除していることに気付く。

○ 白姫神社にまつわる現在や過去を調べる。

・ 3年生で既習の蚕の神社だということから広げて昔の産業などを考える。

・ 三ツ境を支えた重要な産業は何だったのか調べる。

○ 校舎などの建物を調べる。

・ 50周年記念誌や、学校にある資料で調べる。

・ 学校にもいろいろな変化があったことに気付く。

○ 商店街の過去や現在を調べる。

・ 50周年のときの番組でインタビューしていた方に再びインタビューする。

・ 60周年を記念するイベントについて考え、商工会議所に提案する。

○ 長屋門公園について調べる。

・ 3年生で調べた経験を生かす。

・ 古い建物がなぜあるのか、取材することで気付いたことをもっと広げる。

○ タブレット端末で撮影する。

* 横浜市配当 Andoroid タブレット

インタビューしようよ

撮影をしようよ

伝えたい材は見つかったかな

○主に活用した NHK for School 番組（情報カード記入）

メディアのめ	写真一枚で世界を切り取れ！	アップとルーズ
	実感！ 音のちから	効果音
	お客の心をつかむ！ ポップの言葉	画像・映像にふさわしい言葉
	話の流れを作る！構成の工夫	伝えたいことをどう撮る？ 構成
	選びぬいてつなぐ！ 映像編集	伝えたいことを映像にする 編集
お伝と伝じろう	プレゼンテーションをしよう	プレゼンテーション
読み書きのツボ	きいた話を伝えよう～再話に挑戦～	インタビューから文章へ
	数えてすっきり～情報の整理・分類～	情報の整理・分類
	事実？意見？～事実と意見を区別する～	情報の整理・分類
伝える極意	ポスターを作ろう！ ～キャッチコピー～	キャッチコピー
	物語を作ろう！ ～組写真～	映像の工夫
	海のあるふるさと ～ビデオ～	取材・シナリオ・撮影・編集
	この1枚に思いを込めて ～写真～	写真の撮り方
	聞きたいことを聞き出すために～インタビュー～	インタビューで気を付けること
知ったク地図帳	第10回 田んぼ	写真5枚での説明
	第8回 商店街	商店街の取材の様子
	第3回 公園	公園はどこに作られているか
	第5回 鉄道	三ツ境駅
	第17回 神社・寺院	白姫神社

○番組を視聴し、分かったことや使いたいコツを、シートにまとめる。

* 情報シート活用

○NHKの方に、番組作りのコツをインタビューする。

5

○三ツ境スマイルディで、地域の人に三ツ境のいいところをみんなに見てもらいたいな。

○いいところを伝える番組を作ろうよ。

三ツ境のいいところが分かる番組を作ろう（総合4）

○自分たちの取材した画像や映像にこだわりをもち、グループで番組を作る。

・ グループで話し合い、自分たちの考えた構成を作ってみる。

・ クラスみんなの意見を聞き、違うグループを参考にする。

・ 編集作業を PC で行う。

* スズキ教育ソフト（キューブキッズ）

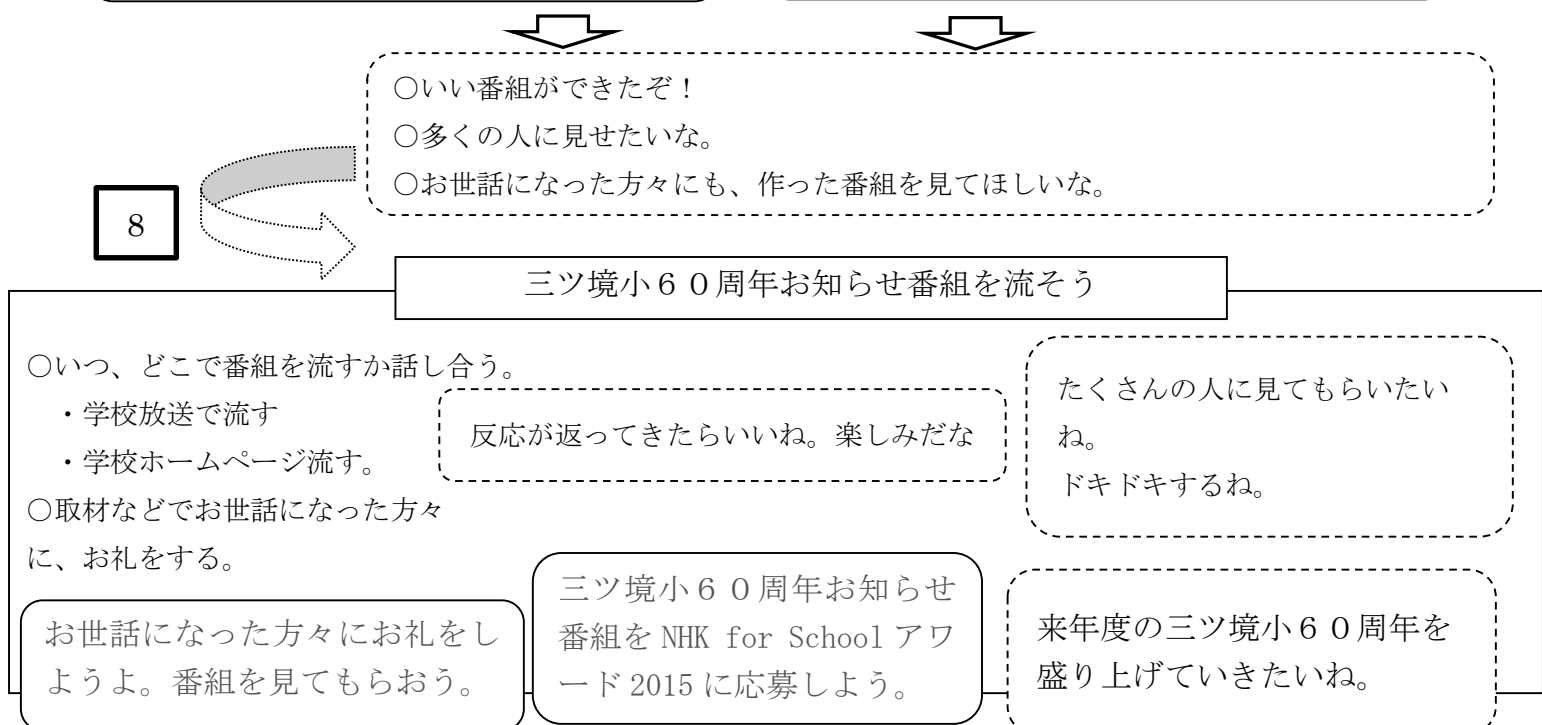
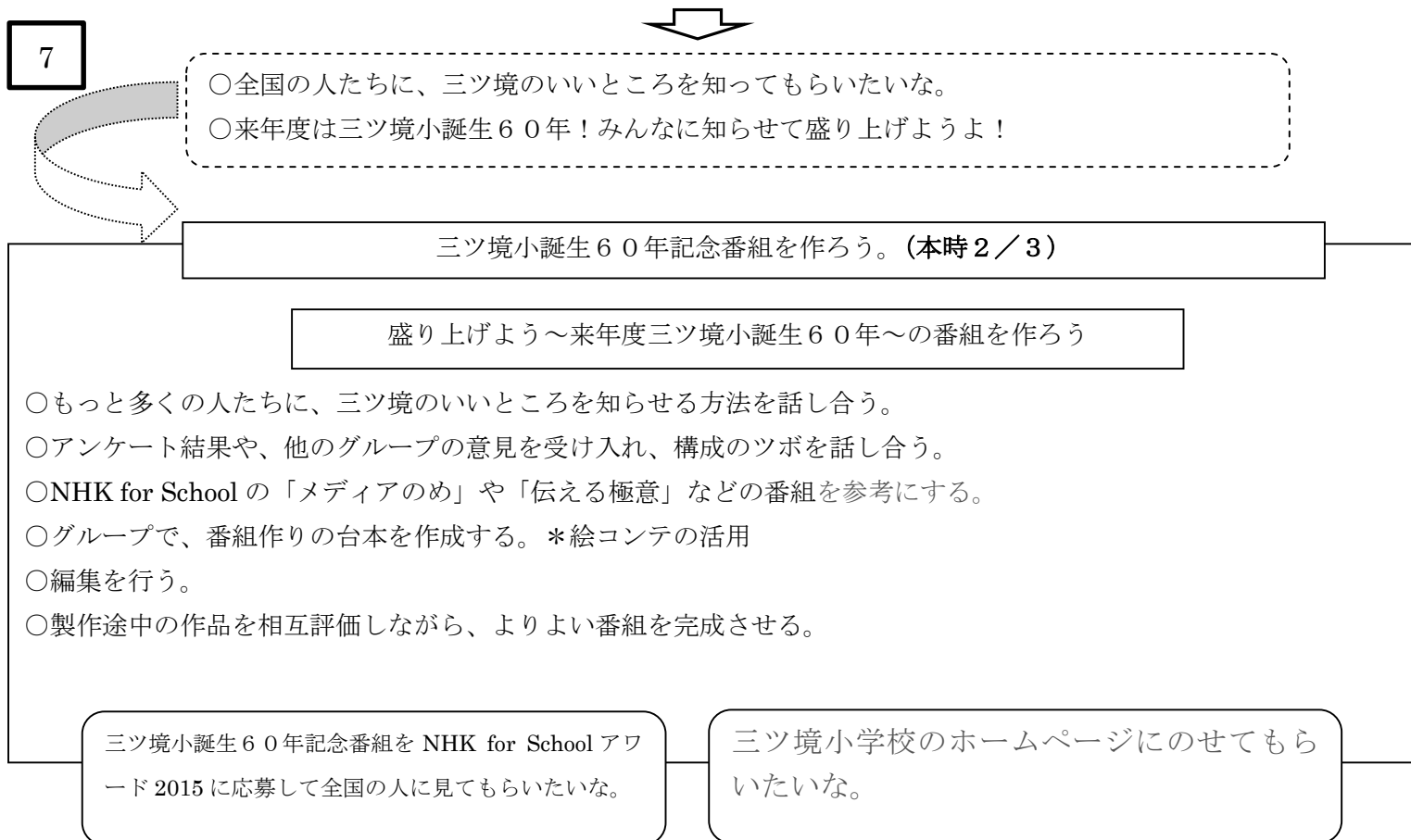
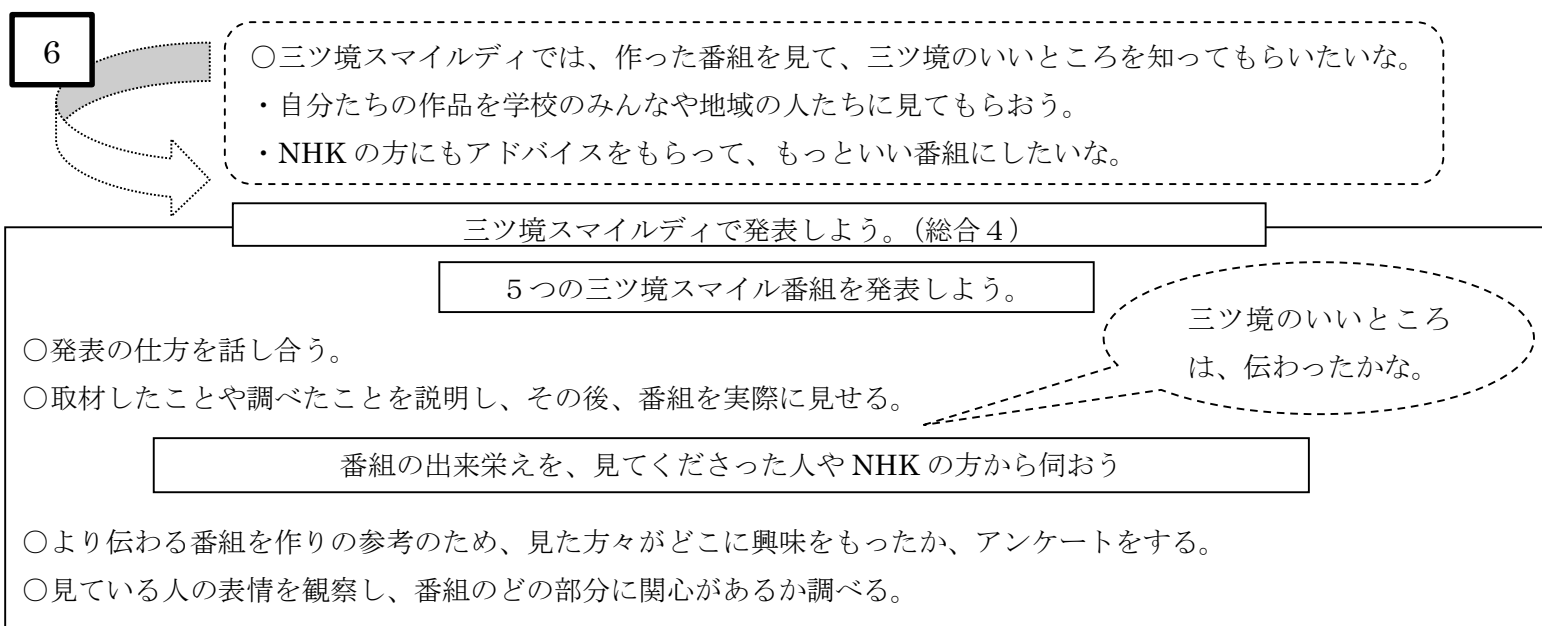
NHKの方々にも、アドバイスをもらおうよ。

やっぱり自分が撮影した動画がメインになってしまうな。

ちゃんとできるかな？コンテストをして、みんなに審査してもらおうよ。

メッセージ性のあるいい作品を作りたいね。

三ツ境小5年 『横浜の時間』－6



(3) 本単元に関わる教科等の内容

教科等名	学習内容	時間数
国語	・話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。 ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして自分の考えが伝わるように書く。	8
社会	・我が国の産業に関心をもち、産業について意欲的に追及するとともに、自分たちの生活を見つめなおそうとする。	2
道徳	・先人の努力を知り、郷土を愛し、伝統や文化を尊重することの大切さが分かり、自分も郷土を担う一員として伝統や文化を守り、育てていこうとする心情を育てる。	1

8 指導と評価の計画

課＝課題設定 思＝思考・分析 自＝自己理解 他＝他者理解

小単元 (時数)	学習テーマ	主な活動	評価規準及び評価方法	
1 三ツ境スマイルディを成功させよう(総合1)(学活1)	「5年生らしい取り組みになるように話し合おう」	・ 去年は、二分の一成人式をやったよね。 ・ 3年生では、蚕のことを発表したよ。 ・ 来年は三ツ境小学校の60周年だね。 ・ 60周年に向けて何かできないかな。 ・ 三ツ境小学校の60周年を祝うためには、どうしたらいいんだろう。 ・ まずは、三ツ境小が来年60周年だということを、みんなに知らせたいね。	課①	・ 製作物による評価 (ウェビング図)
2 「三ツ境小学校の60周年を祝うために何をしようか考えよう」 (総合3)(学活3)	「三ツ境小学校の60周年を祝うために何をしようか考えよう」	・ 60周年をお知らせする番組作りを考える。 ・ 三ツ境小に関する動画を集める。 ・ 50周年の記念番組DVDを見て参考にする。 ・ 和泉川のテレビ番組を見て参考にする。 ・ 5年1組も、番組を作るための話し合いをする。 ・ 来年60周年だから、6年生のときに特別番組を作り、今年は、お知らせをする。 ・ 「未来広告ジャパン!」を見て参考にする。	課②	・ 製作物による評価 (学習計画表)
3 「60周年お知らせ番組で伝えたいものを考えよう」 (総合20)(国語10)	「三ツ境小の60周年お知らせ番組で、過去からのメッセージにこたえ、未来へのメッセージを考えるために話し合おう」	・ 50周年記念誌から、現在の自分たちに書かれた内容を探し出す。 ・ 過去に作成されたビデオなどの中にも、現在の自分たちに書かれた内容があるか、視聴してみる。 ・ 見つけたことをカードに書く。 ・ 見つけたものを共有し、メッセージについて話し合う。	思①	・ 製作物による評価 (調べたものカード)

4 「取材をしよう」 (総合20) (国語8) (社会5) (学活1)	「取材をしよう」	○自分が興味をもったことで同じテーマの友だちとグループを作り、計画を立てる。 - それぞれのグループで、紹介したいことがテーマに沿っているか情報交換する。(付箋紙利用) - 活動の計画を立てる。 ○取材活動を始める。 - 和泉川の過去や現在を調べる。 - 昔は溝川だった。里川に生まれ変わったことなどを調べる。 - ボランティアの方々が、丁寧に掃除していることに気付く。 - 白姫神社にまつわる現在や過去を調べる。 3年生で既習の蚕の神社だということから広げて昔の産業などを考える。 - 三ツ境を支えた重要な産業は何だったのか調べる。 - 校舎などの建物を調べる。 50周年記念誌や、学校にある資料で調べる。 - 学校にもいろいろな変化があったことに気付く。 - 商店街の過去や現在を調べる。 50周年のときの番組でインタビューしていた方に再びインタビューする。 60周年を記念するイベントについて考え、商工会議所に提案する。 - 長屋門公園について調べる。 3年生で調べた経験を生かす。 - 古い建物がなぜあるのか、取材することで気付いたことをもっと広げる。 ○タブレット端末で撮影する。 *横浜市配当 Andoroid タブレット	他①	・製作物による評価 (思考ツール)
	「作り方のコツ2を生かそう」	- NHK for School の番組から、番組作りのヒントをカードに書いてまとめる。 「未来広告ジャパン!」の制作者から、番組作りのツボを学ぶ。 - NHK for School を作成している方に取材方法やテーマの伝え方・番組構成などをインタビューする。	自①	・製作物による評価 (番組)
			他②	・観察による評価 (行動観察)

5 「三ツ境のいいところを番組にしよう」 (総合6)	「三ツ境のいいところを番組にしよう」	・ 学校や地域の人たちに見せるための工夫を話し合う。 ・ 自分の思いを大切にしながらも、クラスみんなの考えを受け入れ、番組構成を作る。 ・ こだわりの部分は、十分に話し合う。 ・ 光村国語5年「想像力のスイッチを入れよう」の筆者の下村さんからアドバイスをもらう。 ・ 動画作成作業をPCで行う。 *スズキ教育ソフト (キューブキッズ)	課③	・ 製作物による評価 (思考ツール) ・ 製作物による評価 (番組)
6 「三ツ境スマイルディで発表しよう」 (総合3)	「三ツ境スマイルディで発表しよう」	・ 発表の仕方を考える。 ・ 発表は、3つの時間帯で行うので、グループを3つに分け、発表の仕方を考える。 ・ 発表の練習をする。 ・ 自分の作った番組を発表する。 ・ 今後、番組作りの参考のため、見た人は何に興味があったか、アンケートにより調査する。 ・ NHKの方から作った番組の感想をもらう。	他③	・ 製作物による評価 (発表作品)
7 「盛り上げよう～来年度三ツ境小誕生60年～の番組を作ろう」 (本時2／3) (総合3)	「盛り上げよう～来年度三ツ境小誕生60年～の番組を作ろう」	・ 全国の人たちに見てもらうための工夫を話し合う。 ・ 来年度の60周年が楽しみなように、NHK for Schoolの「メディアのめ」や「伝える極意」などの番組を参考にして、番組作成の学習計画を立てる。 ・ アンケートをもとにどの取材内容を活用するか話し合う。 ・ グループで、番組作りの台本を作成する。 * 絵コンテの活用 ・ 編集を行い、番組作りをする。	思③	・ 観察による評価 (行動観察) ・ 製作物による評価 (番組)
8 「盛り上げよう～来年度三ツ境小誕生60年～の番組を流そう」(総合2)	「盛り上げよう～来年度三ツ境小誕生60年～の番組を流そう」	・ いつ、どこで番組を流すか話し合う。 ・ 学校放送で流す ・ 学校ホームページ流す。 ・ 取材などでお世話になった方々に、お礼をする。 ・ 三ツ境小60周年お知らせ番組をNHK for School アワード2015に応募する。	他③	・ 製作物による評価 (番組・学校ホームページ)

9. 本時の活動展開

(1) 本時目標（目指す子どもの姿）

アンケート結果などをもとにして、自分たちの作る番組にふさわしい画像・映像を選び出すことができる。

(2) 本時の展開

7「盛り上げよう～来年度三ツ境小誕生60年～の番組を作ろう」（本時2／3）総合

本時の展開	■評価と☆支援
1 本時のめあてを確認する。	☆三ツ境スマイルディで発表した番組や、取材した映像・画像をサーバーに用意しておく。
盛り上げよう！～来年度三ツ境小誕生60年～の番組を作ろう	
2 グループごとに、どんな場面を切り取るか相談しよう。 - 三ツ境スマイルディでのアンケート結果で地域の方々の意見を参考にしようよ。 - NHKの方の意見は貴重だね。参考になるよ。 - 映像の見せ方は番組メモが参考になるね - 実際にパソコンでつながないと分からないよ。 - 全国に向けての発信だから初めて見る人にも分かりやすくしないとイケないね。	☆三ツ境スマイルディでのアンケート結果を用意しておく。 ☆番組の構成を、NHK for Schoolの「未来広告ジャパン！」や「メディアのめ」の番組メモを参考にすることを伝える。 ☆意見が可視化できるように短冊を使うことを助言する。
3 PCで、映像や画像をつなぐ。 - 番組構成表を見ながら、作るといいね。 - 画像は、アップかな。ルーズがいいかな。 - テロップの出し方は、もっとわかりやすい言葉がいいな。 - つないでみたけど、分かりにくいね。 - もう一度つなぎかえてみようか。	☆2の「画像・映像選び」の活動と3の「編集作業」の活動は、行ったり来たりしながら、試行錯誤することが想定されるので、グループに合った声掛けをする。 ■アンケート結果をもとに相談し、画像・映像を選び出している。 【思③】 ☆出てきた意見やポイントを、ホワイトボードに書き込んで掲示する。
4 他のグループの作品を見て、伝わるコツがうまく使われているか相互評価する。 - 分かりにくいところがあるよ。こうするといいよ。 ～がいいね。真似させてもらいたいな。	☆自由に参観し、付箋や書き込みなどで評価を伝える場の設定をする。
5 振り返りと見通し 活動カードに、本時の振り返りや次回することを書く。	

理科学習指導案

指導者 三ツ境小学校 吉田潤哉

1 日時・場所 平成 27 年 12 月 2 日（水）5 校時 理科室

2 学年・組 第 6 学年 3 組 31 名

3 単元名 電気と私たちの生活

4 単元目標

生活に見られる電気の利用について興味・関心をもって追究する活動を通して、電気の性質や働きについて推論する能力を育てるとともに、電気はつくったり蓄えたり変換したりできるという見方や考え方を育てる。

5 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
①電気の利用の仕方に興味・関心をもち、自ら電気の性質や働きを調べようとしている。 ②電気の性質や働きを適用してものづくりをしたり、日常生活に使われている電気を利用した道具を見直したりしようとしている。	③電気の性質や働きとその利用について予想や仮説をもち、推論しながら追求し、表現している。 ④電気の性質や働きとその利用について、自ら行った実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて推論し、自分の考えを表現している。	⑤電気の性質や働きとその利用の仕方を調べる工夫をし、手回し発電機などを適切に使って安全に実験をしている。 ⑥電気の性質や働きを調べ、その過程や結果を定量的に記録している。	⑦電気は、作りだしたり蓄えたりすることができることを理解している。 ⑧電気は、光、音、熱などに変えることができることを理解している。 ⑨電熱線の発熱は、その太さによって変わることを理解している。 ⑩身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があることを理解している。

6 単元について

生活の中で使われている電気は光、音、運動や磁力に変えられているだけでなく熱にも変えられることをとらえた上で、電熱線の太さによる発熱の違いを調べる。また、その電気は発電機（モーター）によって作り出すことができることを知り、手回し発電機で電気をつくったり、つくった電気をコンデンサーにためたりしながらモーターを回したり豆電球や発光ダイオードを点灯させるなどし、つなぐ物によって手回し発電機の手ごたえや使用する電気量が変化することに気付くようにする。これらの活動を通して、電気の有限性や利便性に気付き、電気エネルギーの有効利用についての興味・関心を高めるとともに、電気の性質や働きについての考えをもつことができるようにする。

7 児童の実態

本学級の児童は、自分の考えをもつことはできるが、自分の考えに自信をもち、進んで発表することができる児童は少ない。そのため、これまで各教科の学習を通して、ペアや班、学級全体など形式を変えて、様々な形で自分の考えを発表する機会を意図的に設定してきた。初めは自分の言葉で話すことだけでも精一杯だった子どもたちであるが、グループでの話し合いや、グループで話し合った結果を全体化する時に、自信をもって話すことができるようになってきた。進んで発表することができる児童はまだまだ限られるが、自分の考えに自信をもって学習する姿は、教科にかかわらずたくさん見られるようになった。そこで、本単元でも友達と考えを共有する場や全体へ発表する場を設定している。タブレットを数人に1台の割合で配当したり、シンキングツールを活用したりすることで、話し合う場面を意図的に作っている。単元によってはホワイトボードの活用も行ってきたが、学習の記録が残らないことを考慮し、協働学習の終わりには写真データとして記録を残し、次時にノートにはるようにしてきた。本単元でもタブレットへの書き込みを行うので、データを集めて印刷するなど、学習の記録を大切に学習を進めていく。

理科の学習では、「疑問を解決するために適切な実験方法を考えること」、「根拠をもって予想を立てること」、「実験結果をもとに考察すること」の3点に特に力を入れて学習を進めてきた。本単元では、ポイントを絞ってイメージ図（資料10 ワークシート）を活用する。理科では、じっくりと予想を立てることが考察する力を高めることにつながるのではないかと考え、単元を構成してきた。

8 研究主題との関わり

平成 27 年度横浜市情報・視聴覚教育研究会 研究主題 「情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成」
--

(1) ICT の活用

機器・・・タブレット端末（Android 4.4）、無線ルーター、PC、電子黒板

・情報活用能力

情報活用能力を生かすことによって、より分かり易く、よりはっきりと問題を解決することができる場面を考えた。子どもたちが問題解決をするにあたり、様々な実験方法を考えて取り組むことができる学習の流れや、記録の仕方や比較の仕方などを自分たちで工夫して取り組める環境（タブレット、電子黒板、無線LAN、実験方法に合わせた道具の用意等）を整える。

資料をもとに話し合ったり（1時、2時）、資料を活用して実験をしたり（8～9時）、実験の様子を他の班に分かりやすく伝えるための動画撮影のポイントを話し合ったり（4～5時）することで、資料の読み取りや活用、資料作りなどの情報活用能力を高めたいと考える。

・タブレット端末

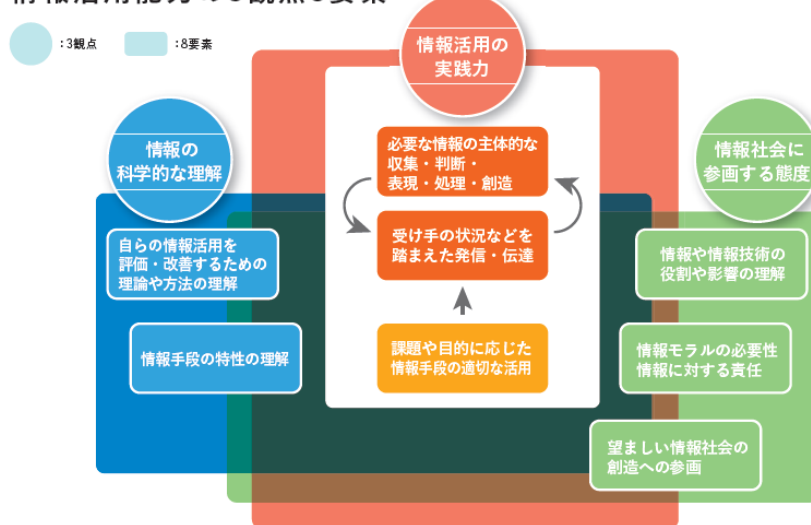
タブレットについては、どの場面でどの機能を使うかがポイントとなる。本学級では、スピーチ練習の動画撮影、パンフレットの資料提示（国語）、跳び箱運動の見本資料や試技の動画撮影、運動会演技や市体育大会演技の動画撮影（体育）、校外学習での記録（総合）など、主に資料の提示や活動の記録、活動をよいものにするための話し合いの材料として、静止画や動画機能をメインに活用してきた。今年度5月のタブレット導入に伴い、三ツ境小学校ではタブレットが多く職員が活用しやすい機器、活用したくなる機器となることを目指し、できるだけシンプルな活用を第一に考え実践を重ねてきた。どの教科でも、従来のやり方にタブレットを導入することで「より」分かりやすくなったり、「より」思考が深まったりするような活用をイメージしている。本単元でも、特別な機器の準備やたくさんの準備時間をかけずに行える活用を意識した。本単元では次の表に示す通りにタブレット端末を活用することを計画した。

タブレット端末の活用（**資料 6**「学習場面のトライアングル」、**資料 7**「ICT を活用した指導方法」参照）

単元の 時間数	内 容	活用の形態	指導方法
1	- 資料の提示（図や表） - 資料への書き込み - 電子黒板で全体化	2 人で 1 台 2 人で 1 台 各端末からサーバー機へ画像送信	A1 C2 A1 C1
4	電子黒板で全体化	教師 1 台 机間指導中に写真を撮影し、サーバー機へ画像送信しておく。	A1 C1
5 本時	- 実験の様子を動画撮影 → 全体で共有するため - 教室の TV で全体化	班で 1 台（4 人） 各端末からサーバー機へ動画送信	C2 A1 C1
8 9	資料の提示（動画）	班（4 人） 動画に合わせて手回し発電機を回す。 （条件制御の視点）	A1 C2

（2）主題に迫る手立てと授業デザイン

情報活用能力の3観点8要素



（情報活用能力育成のために 平成 27 年 3 月 文部科学省 より抜粋）

<情報活用の実践力>

・必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造

本単元では、班で相談して実験方法を選択し、問題解決に取り組む。他の班が別の実験方法で問題解決に取り組んだとしても結果は変わらないことを確認するために、タブレットの動画機能と教室内の無線 LAN を活用する。動画機能では、口頭での説明よりも分かりやすく、よりはっきりと結果を共有することができると考える。また、無線 LAN の活用では、実験が終わった班から随時サーバー機にデータを送信しておくことができるので、従来の機器（ビデオカメラ等）を利用するよりもスムーズに学習が進むと考える。同じ課題を解決するために複数の実験方法があり、どの方法でも結果は変わらないことから、種類の実験を行うときよりも、実験結果に対してより思考を深められるのではないかと考える。

・受け手の状況などを踏まえた発信・伝達

実験の動画撮影では、動画に表示される撮影時間と実験の経過時間にずれが生じる。そのため、ストップウォッチも含めて撮影するとともに、実験開始のカウントダウンから撮影できるようにする。情報の受け手に必要な情報を想定し、児童と話し合って撮影の条件を整えていく。

・議題や目的に応じた情報手段の適切な活用

これまで、「数値」により実験結果を共有してきた。このことは、タブレット端末で動画撮影することとは無関係に、理科の授業として大切なことである。本単元では実験結果の共有場面で動画を活用するが、「数値」を確実にとらえることを大切に、動画と合わせて理解することができるようにする。

<情報の科学的な理解>

・自らの情報活用を評価・改善するための理論や方法の理解

個人思考をしっかりと行った上で協働学習を行い、実験結果の整理の仕方や考察の仕方に対する理解を深めていく。本単元だけでなく、理科学習全体、他教科も含め、年間を通して行っている。

・情報手段の特性の理解

本単元では、タブレット端末やイメージ図など、デジタルとアナログの情報手段を複数活用する。それぞれの特性を教師が十分に理解し、単元計画を立てることが必要である。選択した情報手段が子どもたちにとって効果的であるかどうか、その情報手段を活用しない場合と比較してどの点が有効であるかを考えて単元計画を立てる。子どもたちが各場面で思考する過程の中で、情報手段を適切に活用し思考を深めていくことができるようにする。

<情報社会に参画する態度>

・情報や情報技術の役割や影響の理解

子どもたちは新しい機器に興味をもつが、何のために利用するのか、それを利用することでどんな利点があるのかを考えさせることを大切にしている。情報や情報技術を選択し、効果的に活用する力を身に付けさせたいと考える。

・情報モラルの必要性 情報に対する責任

複数回実験を行うことでデータの信憑性が高まることを確認し、時間のある限り実験に取り組むことを大切にする。これまで、実験を複数回行うような学習経験も積み重ねてきているが、改めておさえない視点である。

・望ましい情報社会の創造への参画

個人や各班から出された考えやデータをしっかりと受け止め、自分の中で必要な情報を整理し取捨選択していく力を身に付けられるようにする。また、複数の情報から得られた事実、そこから生まれた疑問や問題を大切に、学習のつながりを意識して取り組む姿勢を身に付けさせたい。

<思考の可視化>

本単元では、**資料5**に示す「シンキングツール」やイメージ図、タブレット端末や電子黒板などを、児童の思考を可視化するツールとして活用する。電子機器を活用した場合は、学習の記録がノートに残るように、印刷して配布することを忘れずに行うようにする。

・シンキングツール

本単元ではシンキングツールを活用する。ここでは電気の利用のされかたを分類するために、「フィッシュボーン」を活用する（8 単元の指導計画 2時の図を参照）。どのような利用方法で身の回りの電気製品

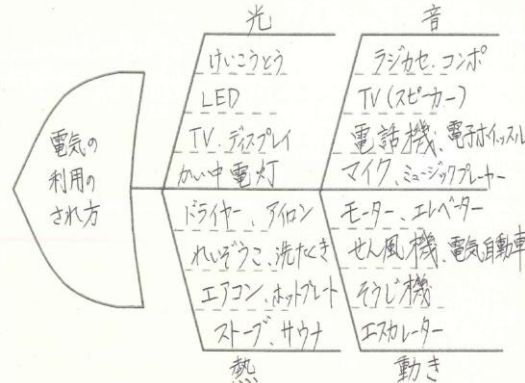
が動いているのかを考え、自分の考えと友達のことを比較し話し合うための材料としたい。シンキングツールには様々な種類があるが、思考を可視化することで話し合いがしやすくなるなど、本学級の児童はシンキングツール活用のよさは実感している。本学級では、児童の実態に合わせていくつか活用してきた（付箋紙を用いた「矢印と囲み」、「イメージマップ」、「ピラミッドチャート」）が、「フィッシュボーン」については本単元が初めての活用である。自分の考えを分かりやすく整理して示すことができるので、進んで話し合うことができると考える。（資料5「シンキングツール」参照）

・イメージ図

本時にかかわる学習では電熱線の中を流れる電流を想像し、イメージ図を活用する。自分のイメージを整理し、表現するために効果的なツールである。概念のイメージが事実と異なる場合も見受けられる場合があるが、イメージの正誤については深く追究せず、あくまでも学習内容を基にした自分の考えを整理するための補助的な活用をしていく。

8 単元の指導計画（全12時間）

時	学習活動と内容	ICTの活用	・指導上の留意点 ○評価
1	- これまでの学習や生活経験から、発電方法について考える。 - 資料1 発電方式別発電量比率 - 気付いたことをタブレット内のデータに書き込み、サーバー機に送信する。 - 考えを発表する。（電子黒板） - 自分の生活を振り返り、節電の経験や方法について考える。 - 資料2 家庭からの二酸化炭素排出量 - 気付いたことをタブレット内のデータに書き込み、サーバー機に送信する。 - 考えを発表する。（電子黒板） - 学習の振り返りをする。	- タブレット 2人で1台 （資料の提示） - 教室内のみの無線LAN - サーバー機にデータを蓄積 - 電子黒板 - 資料1と同じ操作を行う。	- 資料をタブレット内に入れておく。 - 文字の書き込みは控え、注目させるための線や色付け程度とする。 - 加工後のデータを保存、印刷し、ノートにはることができるようにする。 ①電気の利用の仕方に興味・関心をもち、自分の生活を振り返っている。 （話し合いの様子、発言、タブレットへの書き込み）
2	- 身のまわりの電気製品を想起し、出し合う。（全体） - 電気の利用方法を考え、分類する。（個人） →光、音、熱、運動 - 班（4人）で考えを共有し、全体で発表する。	シンキングツール「フィッシュボーン」	- 初めて利用するツールなので、課題（頭）と4観点（中骨）のうち1つは全体で確認し、ルールを確認してからスタートする。 - 話し合って考えを広げられればよいので、4つに絞る必要はない。

	例  - 消費電力について考える。(全体) - 資料3 各家電機器が占める消費電力比率 - 資料4 家庭電気製品のおおよその消費電力 → 熱に変える製品は消費電力が多いね。 → まずは熱について調べてみよう。 - 学習の振り返りをする。		①電気の利用の仕方に興味・関心をもち、自分の生活を振り返っている。 (話し合い、発言) ⑧電気は、光、音、熱などに変えることができることを理解している。 (発言、ワークシート) ⑩身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があることを理解している。 (発言、ワークシート) - 自然と電気を熱に変えて利用する機器に注目できるように、資料を用意する。 - 資料3と資料4は印刷して配布する。
3	- 電熱線を組み込んだ回路を作る。(電源装置) - 回路に電流を流すと電熱線が発熱することを確認する。(1.5V) - みつろう粘土を紹介し、性質を確認する。 - より発熱させるにはどうしたらよいだろう。 → 電源を強くする。 → 電熱線を短くする、長くする。 → 電熱線を細くする、太くする。 など - 学習の振り返りをする。		- 既習事項の確認を丁寧に行う。 - 次時では、電熱線が2種類並んでいるものを使用するが、ここでは1種類の電熱線(細い方)だけで実験できるようにし、本時で太い電熱線を使用した時の驚きにつなげたい。 - 条件制御の考えや安全面に目を向けさせ、実験方法を話し合う。 ⑤電気の性質や働きを調べるための実験方法を考えることができる。 (発言の様子)
4	細い電熱線と太い電熱線では、どちらが発熱の量が大きいのだろうか。 電熱線の太さによる発熱の違いを調べる。 - イメージ図を活用し、個人の予想を立てる。 (資料10 ワークシート) → 細い電熱線の方が発熱しやすいのではないか。 → 太い電熱線の方が発熱しやすいのではないか。	- タブレット 静止画撮影 - サーバー機に画像送信	- 個人思考の時間をしっかりと確保する。 - 思考の違いを比較できるように、完成したイメージ図を撮影し、サーバー機に送信しておく。 ③電熱線の太さによる発熱の違いについて、根拠をもって予想や仮説をもち、表現している。 (ワークシート、発言)

・イメージ図をもとにした予想を発表し、様々な考えを共有する。 ・電子黒板を操作しながら発表する。 ・実験方法を話し合う。（比較方法） 1 みつろう粘土を溶かす（時間） 2 水を温める（温度） 3 発泡スチロールを溶かす（時間） 4 示温テープの色の変化（時間） 5 氷を溶かす（時間） 6 検流計で測定する（mA） など ※ 5 は条件制御が特に難しいこと、6 は既習内容で電流の大きさが発熱の量と結びついていないことから、今回は扱わない。 ・班で 1 つ実験方法を決め、実験の手順を確認する。 ・安全な機器の取り扱いについて確認する。（電源装置、電熱線、ストップウォッチ、タブレット等） ・実験に必要な物を話し合い、準備する。 各実験共通 電源装置 1 台 ワニロクリップ 2 本 タブレット 2 台（撮影用、時計測用） 1 みつろう粘土を溶かす 発熱実験装置 1 台 みつろう粘土 1 本 2 水を温める 電熱線 2 本（太・細 1 本ずつ） プリンカップ 2 個 水 20mL×2 （メスシリンダー、ピペットにより） ガラス棒 1 本 デジタル温度計 1 台 3 発泡スチロールを溶かす 発熱実験装置 1 台 発砲スチロール 2 本 4 示温テープの色の変化 発熱実験装置 1 台 示温テープ 1 枚	・電子黒板	・児童から出された様々な実験方法を大切ににする。 ・できる限り実験してみる方向で話し合うが、条件を揃えることと、その方法で本当に課題が解決するかどうかの 2 点に留意して実験方法を絞る。 ⑤電気の性質や働きを調べるための実験方法を考えることができる。 （発言、話し合い） ・なぜその実験方法を選んだのか、イメージ図と関連させて考えられるように声かけをする。 ・次時のために、イメージ図のデータをサーバー機に集めておく。 ・班ごとに実験方法が異なるので、内容を十分に把握し安全に配慮する。 ・タブレットを活用したいという考えが出ると予想されるため、用意しておく。 （各班が異なる実験を行うので、「他の班の実験結果を知るためにタブレットで動画撮影を行うことが有効である」という考えが出されると予想される。 ・実験を撮影する目的を確認し、どのような撮影方法が適切であるか、きちんと話し合う。 ・みつろう粘土、発泡スチロールは、実験の性質により、棒状のものを用意する。（電熱線に立てかけて溶かす）
---	---	--

5 本 時	・前時の課題・予想・実験方法を確認する。 ・実験を始める。 ・タブレットの活用 実験の様子を撮影しておき、実験が終わり次第、各班のタブレットから教室のサーバー機にデータを転送しておく。 ・考察する。(個人) 改めてイメージ図を活用し、思考の深まりや変容を捉える。 (資料 10 ワークシート) ・考察を班で共有する。 ・考察を全体化する。 発表者の班の実験の様子をディスプレイに映し出す。 実験の様子や実験前後のイメージ図と合わせて、自分の考えを発表する。	・タブレット 班に 2 台 →動画撮影用 →ストップウォッチ用 ・サーバー機に 動画送信 ・タブレット 教師 1 台 ・サーバー機で 再生した動画を電子黒板で視聴 ・実験前後のイメージ図を画面内で比較	・撮影の目的を確認し、自分たちの実験の様子や結果が、他の班の人に分かりやすいように撮影できるようにする。 →位置 実験者の邪魔にならないように。 結果がはっきりと伝わるように。 →タイミング 後で比較しやすいようにカウントダウンするところから。 ・撮影時間と実験時間が混同しないように、ストップウォッチの画面も映るように撮影する。時間の見やすさから、ここではタブレットに入っているストップウォッチを活用する。 ⑥電熱線の太さによる発熱の違いを調べ、その過程や結果を定量的に記録している。(ノート) ・思考の違いを比較できるように、完成したイメージ図を撮影し、サーバー機に送信しておく。 ・自分と友達の考えの共通点や相違点を考えながら話し合うことができるように声かけをする。 ・データの保存先に留意し、再生する。 ・前時のイメージ図(予想)と本時のイメージ図(考察)を並べて表示できるようにしておく。
----------------------	---	--	---

	・学習のまとめをする。		④電熱線の太さによる発熱の違いについて、自ら行った実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて推論し、自分の考えを表現している。 (ワークシート、発言) ⑨電熱線の発熱は、その太さによって変わること理解している。 (ノート、ワークシート)
	太い電熱線の方が、細い電熱線よりも発熱の量が多い。		
6 7	・自分でもいろいろな発電方法で発電できることを知る。 ・モーターで発電し、いろいろなものに電気を通してみる。 豆電球、発光ダイオード、プロペラ付きモーター、電子オルゴール など ・ゴム板や割り箸（ビニールテープを巻いたもの）でモーターを回す。 ・手回し発電機で、いろいろなものに電気を通してみる。 →ハンドルを回す速さによって発電される電力に違いがあるね。 →電気をを使う時に毎回発電するのは大変。電気をためられないかな。 ・蓄電、コンデンサーについて知る。 ・コンデンサーに電気をため、いろいろなものにつないでみる。 豆電球、発光ダイオード、プロペラ付きモーター、電子オルゴール など →ためた電気が、つないだものによって使える時間に違いがあるのはなぜだろう。 →つなぐものによって電気の消費量が異なるのではないかな。 →電流の強さを調べてみよう。		・発電することの大変さに気付くことができるようにする。 ・必要に応じて、ストップウォッチ等を出せるようにしておく。 ・熱については実験が終わっているので、熱以外の3つ（音、光、運動）に目を向けさせるようにする。 ・発光ダイオードと豆電球の比較などで、手応えの違いから電気を熱に変えるものの消費電力が高かったこと（第1時）などにつながるよう進めたい。
8 9	コンデンサーに電気をためて、つなぐものを変えたときに、回路に流れる電流の強さを調べよう。 検流計、手回し発電機、電子オルゴール 発光ダイオード、豆電球 など		①電気の利用の仕方に興味・関心をもち、自ら電気の性質や働きを調べようとしている。(観察) ⑤手回し発電機などを適切に使って安全に実験をしている。(観察) ⑦電気は、作りだしたり蓄えたりすることができることを理解している。(発言、ノート) ⑩身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があることを理解している。(発言、ワークシート) ・条件制御の考え方で、どのような実験方法が適切か考えられるようにする。

	・コンデンサーに電気をためるときに手回し発電機を回すタイミングを揃えるため、事前に用意した動画を見ながら発電を行う。 ・実験のまとめをする。 コンデンサーにためた電気が、つなぐものによって、使える時間にちがいがあるのは、流れる電流の強さがちがうから。	・タブレット 班で１台 (資料の提示)	⑤電気の性質や働きを調べるための実験方法を考えることができる。 (発言) ・手回し発電機を回すタイミングが班単位でそろえられるので、自分たちのペースで実験を行ったり、複数回実験を行ったりすることができる。 ⑥回路につなぐものを変えて流れる電流の強さを調べ、その過程や結果を定量的に記録している。(ノート) ⑦電気は、作りだしたり蓄えたりすることができることを理解している。(発言、ノート) ④回路につなぐものによって流れる電流の強さが変わることを、自分が行った実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて推論し、自分の考えを表現している。(ノート)
10 11 12	・風力発電機を作ってみよう。 ・発電した電気を何の力に変換して比較するかを話し合う。 ・どのようにしたらより発電量が増えるかを考え、手直しをしていく。 検流計 など ・ふりかえってみよう		・最終的には検流計で数値化することを意識させるが、活動を楽しむことができるように、目的をもたせたい。 ②電気の性質や働きを適用して、より発電量を増やすために工夫しながらものづくりをしている。(観察)

9 本時目標

電熱線の発熱は、電熱線の太さによって違いがあることを実験して確かめ、自分の予想と照らし合わせて推論したことを表現することができる。

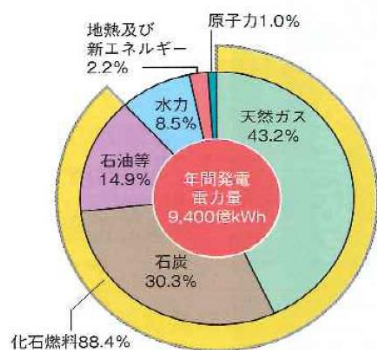
10 本時展開（5／12 時間）

学習活動	・教師の支援 ○評価
細い電熱線と太い電熱線では、どちらが発熱の量が大きだろうか。 1. 前時の課題・実験方法・予想を確認する。（比較方法） 3 分 1 みつろう粘土を溶かす （時間） 2 水を温める （温度） 3 発泡スチロールを溶かす（時間） 4 示温テープの色の変化 （時間） <u>＜細い電熱線の方が発熱の量大きい＞</u> 電熱線の広さ説 ・太い方が広いから、電熱線が発熱するまでに時間がかかる。 ・細い方がせまいから、電気が詰まっていくイメージで発熱しやすい。 電気のスピード説 ・太い方は広いから、電気が進む方向がバラバラで通り抜けるのに時間がかかる。 ・細い方はせまいから、電気がまっすぐに進み、すぐに通り抜ける。 <u>＜太い電熱線の方が発熱の量大きい＞</u> 電熱線の広さ説 ・太い方が広いから、電流が一度にたくさん流れる。 ・細い方がせまいから、一度に流れる電流が少ない。 電気のスピード説 ・太い方が広いので、すいすいと電流が流れる。 ・細い方がせまいから、スピードが出にくい。 2. 必要な道具を確認し、実験を始める。 10 分 電源装置、電熱線、示温テープ、みつろう粘土、発泡スチロールなど ・タブレットの活用 実験の様子を撮影しておき、実験が終わり次第、各班のタブレットから教室のサーバー機にデータを転送しておく。 ※ データ送信は 2 つ（太い電熱線、細い電熱線 1 つずつ） ・実験方法により時間差が生まれるが、早く終わった班は複数回実験を行うようにする。 ・2～3 回実験を行い、それでも時間が余る場合には個人の考察を	・班ごとに実験方法が異なるので、内容を十分に把握し安全に配慮する。 ⑥電熱線の太さによる発熱の違いを調べ、その過程や結果を定量的に記録している。 （ノート） ・タブレットは班に 2 台 撮影の目的を知らせ、自分たちの実験の様子や結果が、他の班の人に分かりやすいように撮影できるようにする。 →位置 実験者の邪魔にならないように。 結果がはっきりと伝わるように。 →タイミング 後で比較しやすいようにカウントダウンするところから。

始める。	・撮影時間と実験時間が混同しないように、ストップウォッチの画面も映るように撮影する。時間の見やすさから、ここではタブレットに入っているストップウォッチを活用する。 ⑥電熱線の太さによる発熱の違いを調べ、その過程や結果を定量的に記録している。 (ノート)
3. 考察する。(個人) 7分 改めてイメージ図を活用し、予想と比較しながら思考の深まりや変容を捉える。 (資料 10 ワークシート) ・太い方がたくさん電流が流れるから、発熱の量が大きい。 ・太い方がたくさん電流が流れるから、消費電力が大きい。 4. 考察を班で共有する。 8分 予想と比較して考えたことを班の友達に伝える。 5. 考察を全体化する。 15分 発表者の班の実験の様子をディスプレイに映し出す。 実験の様子や実験前後のイメージ図と合わせて、自分の考えを発表する。	・思考の違いを比較できるように、完成したイメージ図を撮影し、サーバー機に送信しておく。 ・自分と友達の考えの共通点や相違点を考えながら話し合うことができるように声かけをする。 ・データの保存先に留意し、再生する。 ・前時のイメージ図(予想)と本時のイメージ図(考察)を並べて表示できるようにしておく。 ・イメージ図が予想と変化した児童だけではなく、実験を通して自分の考えをもつことができた児童に注目したい。 ④電熱線の太さによる発熱の違いについて、自ら行った実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて推論し、自分の考えを表現している。 (ワークシート、発言) ⑨電熱線の発熱は、その太さによって変わることが理解している。 (ノート、ワークシート)
7. 学習のまとめをする。 2分 太い電熱線の方が、細い電熱線よりも発熱の量が大きい。	
8. 次時以降の学習を確認する。	

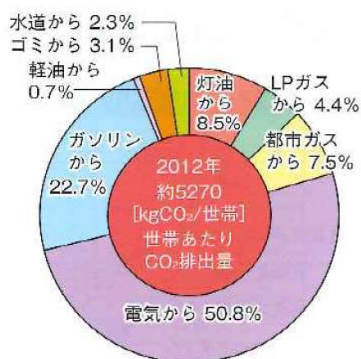
第 1 時

資料 1 (指導書より)



発電方式別発電量比率
(2013 年時点)

資料 2 (指導書より)

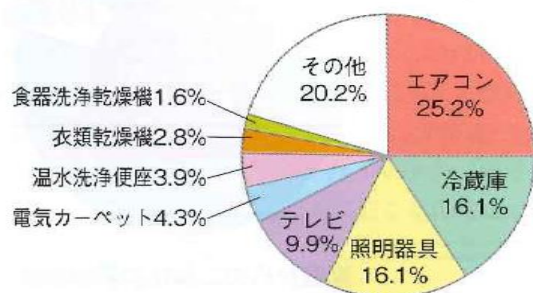


家庭からの二酸化炭素排出量

第 2 時

資料 3 (指導書より)

■各家電機器が占める消費電力比率



資料 4 (指導書より)

家庭電気製品のおおよその消費電力

電気製品名	消費電力 [W]	電気製品名	消費電力 [W]
照明器具	50	電話機 (親機)	3
オーブントースター	1000	ヘアードライヤー	900
電動車いす	240	エアコン	800
音楽プレーヤー	5	電子レンジ	1000
扇風機	50	冷蔵庫	300
電気ストーブ	1500	洗濯機 (乾燥機付)	900
テレビ (52 型液晶)	200	ノートパソコン	20

資料5 (「シンキングツール」 黒上晴夫、小島亜華里、泰山裕より)

・矢印と囲み



- ・順番, 順序
- ・関係, 関連
- ・理由, 根拠
- ・因果 などを示す



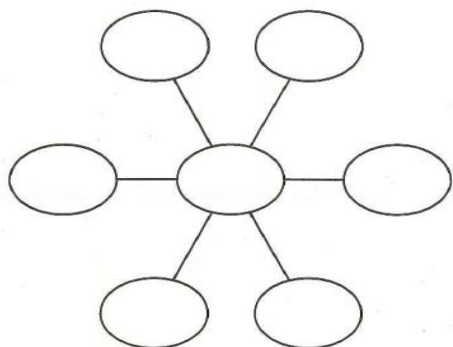
や



など

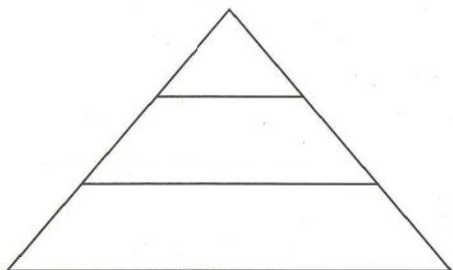
- ・同じ意味
- ・同じ種類
- ・まとまり などを表す

・イメージマップ



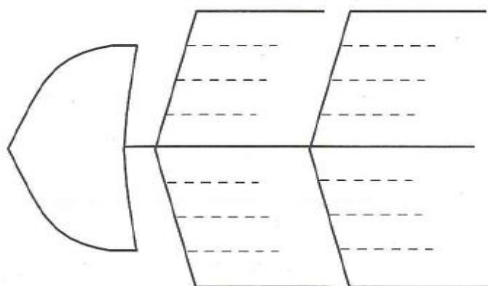
- ・アイデアを出す
- ・広げてみる
- ・関係づける
- ・関連づける
- ・評価する

・ピラミッドチャート

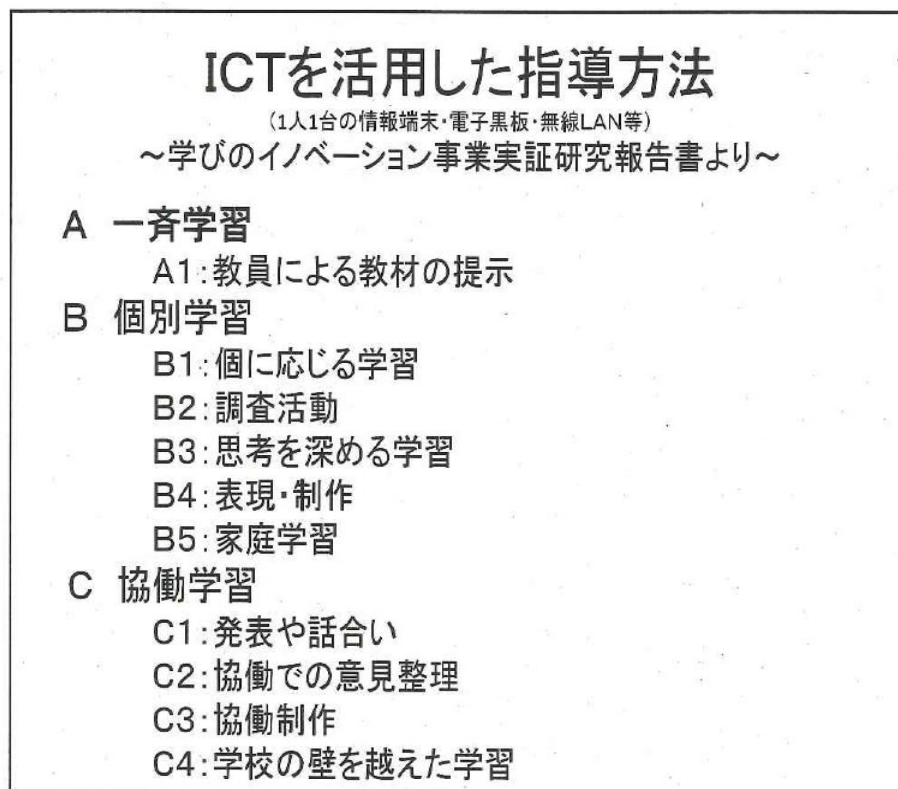
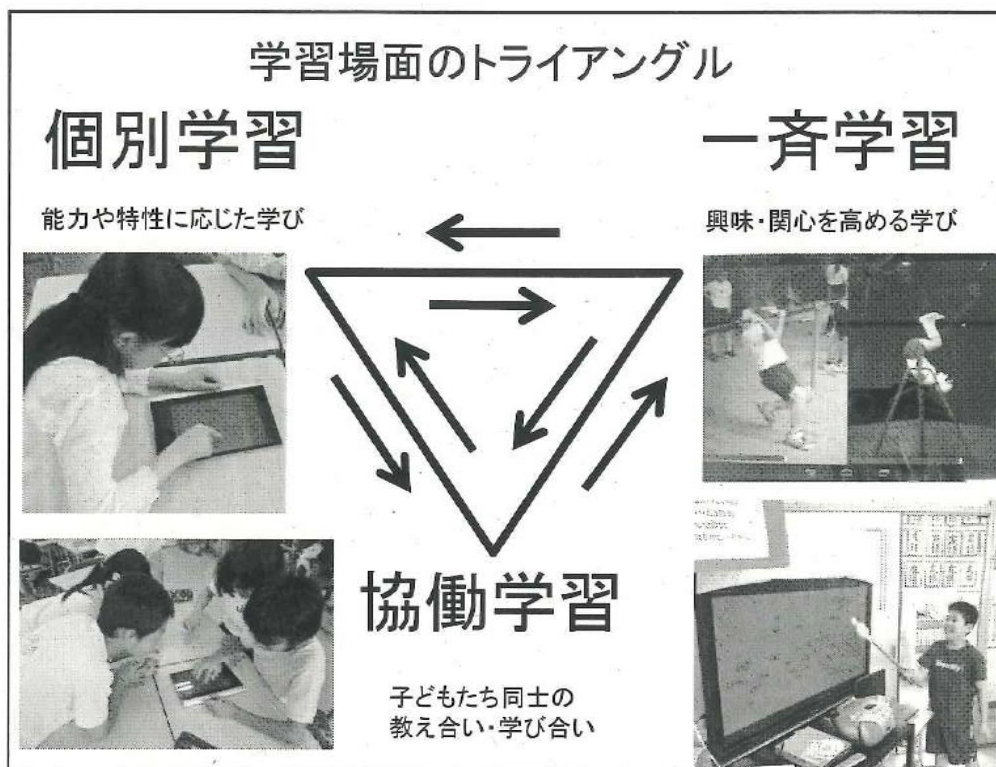


- ・焦点化する
- ・構造化する

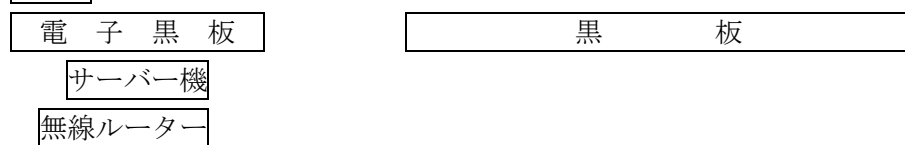
・フィッシュボーン



- ・分析する
- ・焦点化する
- ・構造化する



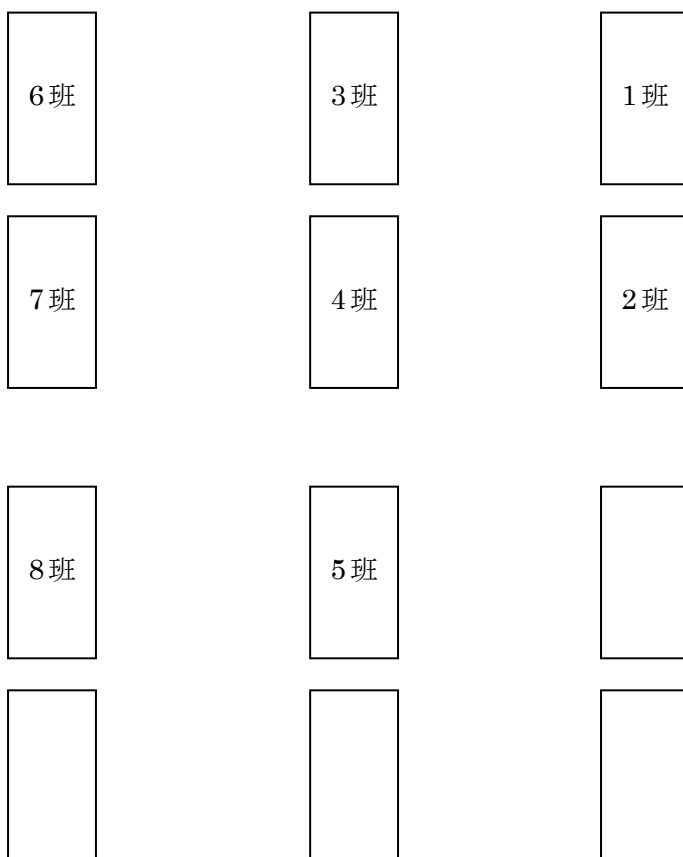
資料 8 場の設定



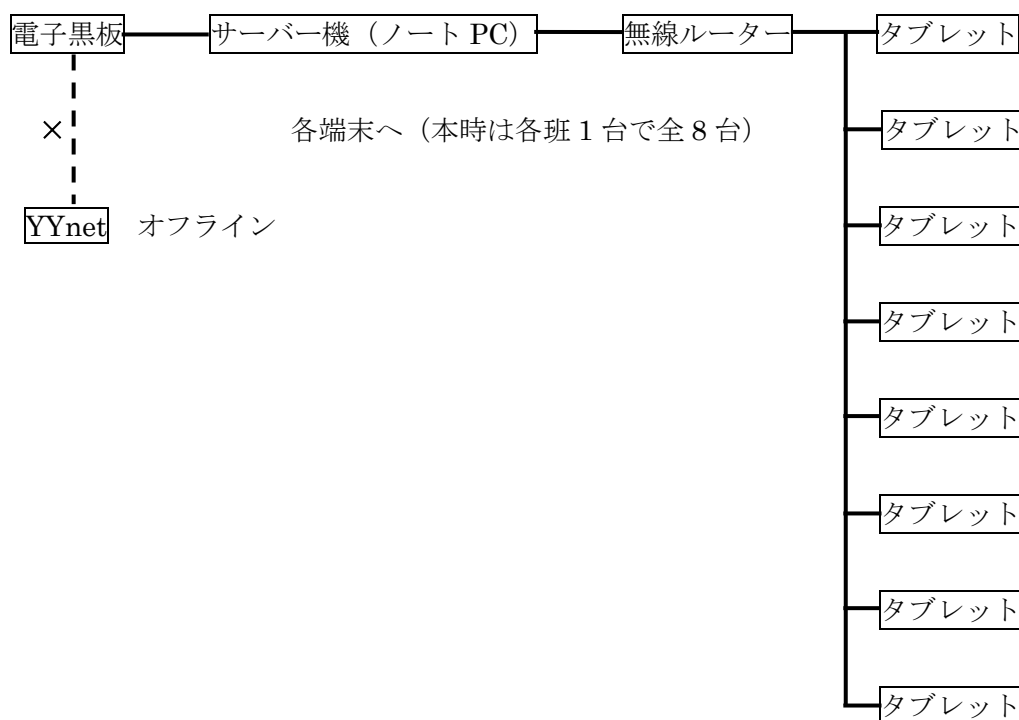
各班 4 人

5 班のみ 3 人

タブレット班で 1 台



資料 9 ネットワーク構成図



資料 10 ワークシート（イメージ図）

名前 _____

絵や記号、言葉を使って、電熱線の中の電気の流れをイメージ図に表そう。

太い電熱線

細い電熱線

Ⅵ 横浜市小学校教育研究大会・二次大会

平成28年2月10日

神奈川近代文学館

平成27年度横浜市小学校教育研究大会・二次大会 情報・視聴覚教育研究大会

1 はじめの言葉 宇佐美公敏 校長（茅ヶ崎台小）

2 研究会挨拶 田中公明 校長（森の台小）

3 役員紹介

運営：吉田圭一（東汲沢小）

司会：東森清仁（常盤台小）

記録：細野友貴（新鶴見小） 藤原直樹（西富岡小）

講師：横浜市教育委員会 指導主事室 平野大二郎

4 研究討議

（1）授業デザイン部会

「ICTを活用して思考力アップ」

鴨志田緑小 武井三也

4月の中川先生（放送大学）の講演「タブレット活用と21世紀型コミュニケーション能力の育成」を受け、「21世紀型能力」の思考力育成を目的とした4つの授業デザインの視点を設定し、研究を行った。

授業デザインの視点

- ① ICTを活用して情報提示するなどして子どもの意欲を引き出す。
- ② 子どもが情報を収集し、目的意識・相手意識を明確にした切実感のある問題づくりを行い、教科のねらいに沿ったゴールを見通す。
- ③ 子どもが問題解決に向けて収集した情報を整理し判断する場面では、思考ツールを用いる。
- ④ 教師は、子どもが互いの思考を共有し、協働的に問題を解決していくことを支援し、新たな情報を創造し、発信・伝達していく場面を設定する。

5～7月には授業デザインの視点を意識した実践の報告と研究協議を行った。

藤原実践「わたしたちの学校行事」（3年国語）では、視点②③に焦点を当てた授業デザインを行った。タブレット端末と思考ツールの活用により、子どもが相手意識・目的意識を明確にもちながら意欲的に学習に取り組む姿が見られた。具体的には、ループリックの活用により、子ども自身がめあて到達

の具体的な姿をイメージし、共有できたことが相手意識・目的意識の明確化につながった。また、思考ツールの特性を理解した上で、教科のねらいを踏まえてツール自体の選択や活用の仕方を吟味することの重要性も明らかとなった。実践では、学校の内容についてマッピングを用いて思考を広げ、ピラミッドチャートで順位づけ、ステップチャートでの構造化を行った。

細野実践「新聞を読もう」（５年国語）では、視点③④に焦点を当てた授業デザインを行った。見出しを隠した新聞記事を提示し、グループで記事に合う見出しを考えた。話し合いの場面では、記事を読んで自分が重要と考えるキーワードを書いた付箋紙を持ち寄り、分類・整理しながら最適解の追究を行った。協働学習と付箋紙の移動できる特性を生かして、互いの思考の「からみ」を生んだ。

山口実践「わたしたちの大好きなまち」（３年社会）では、視点③④に焦点を当てた授業デザインを行った。Xチャートを持ってまち探検に出かけ、情報の収集と分類・整理を同時に行った。探検をする際の視点が明確になり、収束を意識した活用がなされていた。また、外国につながる児童が多い実態があるが、他者の思考が視覚的に見えるという思考ツールの良さが感じられた。

【成果と課題】

授業デザインの４つの視点を踏まえて、「２１世紀型能力」の思考力を育成する授業デザインについて研究を進めることができた。横浜市では、来年度よりタブレット端末の導入（各校１１台）が始まるため、タブレット端末の活用を中心とした授業・実践提案を行いながら、思考力についての系統性を明らかにし、実践力に高めていくことを課題とする。

（２）スキルアップ部会

「教員のＩＣＴ活用能力のスキルアップをめざして」

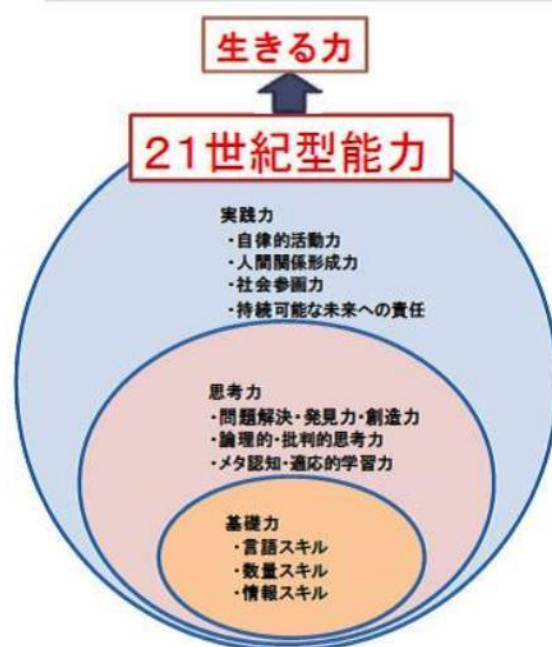
今宿小 伊藤裕哉

「２１世紀型能力」の基礎力育成と、教員のＩＣＴ活用のスキルアップを目指して研究を行った。

５～６月には東京書籍、光村図書の協力でデジタル教科書を使った授業づくりの研修を行った。新機能や活用事例の紹介を聞き、教師や児童がデジタル教科書を活用する場面を想定しながらその可能性について検討することができた。

７月はタブレット端末の先行導入校の活用事例についての紹介と、実際にタブレット端末を活用したワークショップを行った。

９月は、NTT コミュニケーションの方から２０２０年に向けた教育の情報化政策に関する話を聞き、グループディスカッションを行った。今後、いつでもどこでも学習者がほしいコンテンツを得られるような環境が進展した際に起こりうる問題について出し合った。コンテンツの内容や操作性について吟味できる教員の能力向上が一層求められることを再確認した。



【成果と課題】

公開授業研の指導案検討、反省をもとに来年度の研究の方向性を見出すことができた。教員の ICT 活用のスキルアップが児童の基礎力育成にどのように関わってくるのか、具体的事例を通して明らかにしていくことが今後の課題である。

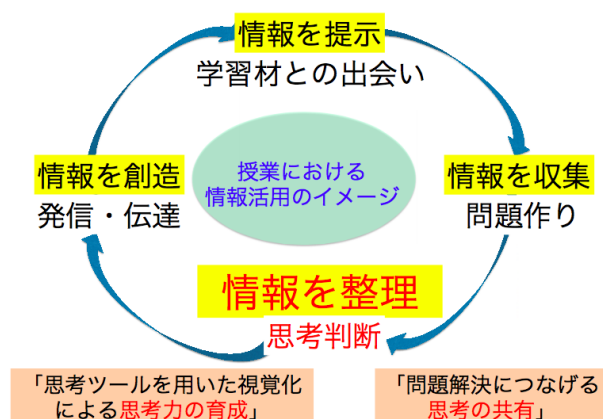
（３）一斉授業研について

港北小 近藤睦

第２期横浜市教育振興基本計画を受けて、今年度よりタブレット端末の先行導入が始まった。本研究会の「情報活用能力を育成し、問題解決する子どもの育成」というテーマは、市の「自ら考え、情報を活用し発信できる能力を児童、生徒に習得させる」という方針と一致している。

本研究会では、授業における情報活用のイメージを「情報を提示」「情報の収集」「情報の整理」「情報の創造」と提示している。このサイクルにより情報活用能力が育成されていくと考える。授業デザイン部会では、特に「情報の整理」の段階において、思考ツールを活用することと、問題解決につながる思考共有を図ることによって思考力・判断力が育成されると仮定している。

以上のことを踏まえて、一斉授業研では、３つの実践が行われた。



佐野実践（５年総合）「三ツ境 CM 隊！」

＜ねらい＞ ・情報の収集・判断・表現・処理・創造 ・受け手の立場を踏まえた発信・伝達
・社会に開かれた教育課程の創造

「社会に開かれた教育課程の創造」に関して、子どもたちが制作した学校の紹介番組を NHK のホームページに掲載し、多くの人の目に触れる機会を得た。このことは、子どもたちのモチベーションを高め、相手意識・目的意識を明確にすることとなった。番組を見る人がよりわかりやすい言葉や映像について協働的に吟味する姿が見られた。

吉田実践（６年理科）「電気と私たちの生活」

＜ねらい＞ ・イメージ図による思考の可視化 ・見通しをもった観察・実験
・知識・技能の定着

ICT 活用の場面では、グラフや動画など様々な表現で実験の様子を協働的にまとめる活動を行った。伝える相手を意識し、実物や映像、言語を往復しながら知識の再構成を行う姿が見られた。

近藤実践（３年総合）「妙蓮寺タウンじょうほう」

＜ねらい＞ ・情報の収集・判断・表現・処理・創造 ・受け手の立場を踏まえた発信・伝達
・社会に開かれた教育課程の創造

タブレット端末を使うことにより、１年間のデータを蓄積できた。そのため、必要に応じて写真等必要なデータを活用することができ、単元の連続性を支える効果が感じられた。

5 指導講評

「情報活用能力を生かし、問題解決する子の育成」

横浜市教育委員会 指導主事室 平野大二郎

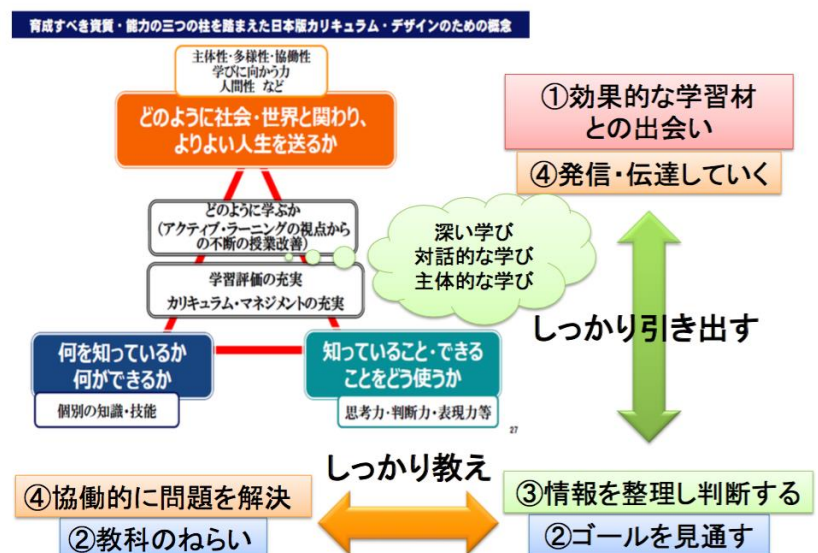
授業デザインの4つの視点を軸に、「情報活用能力を生かし、問題解決する子の育成」というテーマに沿った研究がなされていた。

①の視点に関して、教師がICTを用いて情報を提示することにより、子どもの意欲を引き出し、「深い学びへ」と導く活用がなされていた。吉田実践では、教師がタブレット端末で子どものノートを撮影して電子黒板に映し出し、書き込みながら説明する活用の様子が見られた。子どもの思考を可視化し共有することで、一人ひとりの思考にさらなる深まりを生んだ。

視点③に関しては、問題解決に向けマッピングやイメージ図等の思考ツールが活用されていた。思考ツールを活用することにより、指導と評価を一体化できる良さもある。また、思考の可視化がなされ、それを共有することで「対話的な学び」が生まれていた。(④の視点) さらに、NHKのホームページに自分たちの制作した動画が掲載されたり、クラスで考案したお菓子をお店で売ってもらったりするなど、社会と関わることで子どもの意欲を引き出す授業デザインがなされ、「主体的」な学びが展開されていた。

これからの「深い学び」「対話的な学び」「主体的学び」は、平成27年8月に提示された「特別課程企画特別深いにおける論点整理について」の報告に盛り込まれている「アクティブラーニングの視点からの授業改善」「学習評価の充実」「カリキュラム・マネジメントの充実」にも関連する授業デザインの観点である。特に、カリキュラム・マネジメントの充実においては、中学校と連携を図り、中学校の教育課程を踏まえたスタンダードを作成するなどの具体的な対策が求められる。

また、これまでのICT活用は、教師が中心となることが多かった。昨年度の横浜市ICT活用指導力の調査では、85パーセント以上の教員が授業でICTを活用することができると回答していた。一見、十分な活用がなされているようだが、6年間の小学校教育のうち一年間はICT活用しない先生から教育を受けることになる。さらに、子どもがICTを活用するような授業を行うことができるという回答は全体の約66パーセントであり、6年間のうち2年間は全くICTを活用していないということを示している。このように考えると、決して十分な数値であるとは言えない。これからは、教師も子どもも一層、主体的にICTを活用できるようにしてほしい。



6 終わりの言葉 平野成昭 校長 (希望ヶ丘小)

VII 各区の研究活動

泉区情報・視聴覚教育研究部会

1 研究主題

「視聴覚・情報メディアを効果的に活用し、児童が主体的に学習する姿をめざして」

2 研究経過

	内 容	会 場
4/15	役員紹介、組織年間計画	中和田南
5/27	実践提案① 理科「あたたかくなって」（季節と生きものの様子）デジタルカメラの活用 実技研修① ポプラディアネットの利用	新橋
6/24	実践提案② 算数「あわせていくつ ふえるといくつ」 実技研修② 授業で使えるインターネットコンテンツ 情報交換会①	緑園東
7/15	実践提案③ 算数「ひき算のしかたをかんがえよう」 実技研修③ 資料附属のROMについて	中和田
8/18	実技研修④ 一斉授業研究会に向けての合同教材研究 情報交換会②	飯田北いちよう
9/16	一斉授業研究会 指導案検討①	葛野
10/21	一斉授業研究会 指導案検討②	葛野
11/18	一斉授業研究会 1年 体育：表現遊び「わくわく生きもののランド」 4年 国語（書写）：「文字の組み立てはどうなっているのだろうか」 5年 特別活動：「『星団』をつくろう」	葛野
12/16	実践提案④ 総合「GO！米作り！」：1年間の生産活動の記録にあたって 実技研修⑤ ジャストスマイルを使った情報モラル実践教材	中田
1/27	実践提案⑤ 社会「火事をふせぐ」：社会科における視聴覚資料 実技研修⑥ マナボードを使った授業の提案	伊勢山
2/24	研究のまとめ、次年度に向けて	東中田

3 まとめ

◆一年間の研究の成果及び課題

〈成果〉

「子どもが ICT 機器を活用する」だけでなく、教師側の効果的な活用により、子どもの主体的な学習が深まるという内容なので幅が広がった。機器を使うだけでなく、様々な場面において、どのように情報提示（資料を使うのか ICT 機器を使うのか）をすればよいかを考えることができた。新しいものばかりを扱うのではなく、どの学校でも伝えるという視点で実践提案、実技研修をすることで、授業や業務ですぐに実践・活用することができた。さらに、情報交換会では、学校のネットワーク環境や、機器の導入などお互いの学校事情を知ることができた。迷った時には、先に導入している学校の様子を知ることができたので、有意義な時間となった。

〈課題〉

「主体的に学習する姿」をもっと具体的に話し合うことで、さらに研究が深まったと考えられる。目指す子共達の姿を明確にするような話し合いの場を設ける必要がある。また、実技研修の内容が似たものになってきていることから、取り扱う内容についてもさらに工夫をして研究会を進めていく必要がある。今後は、これまでの機器に加え、タブレットの導入も計画されているため、タブレットの管理や活用方法も話し合う必要が出てくると考えられる。

東中田小学校 峠坂 枝里子

平成27年度 瀬谷区情報・視聴覚研究会

1、研究主題

自ら学ぶ力を育てるための学習の展開

～多様なメディアを活用した情報活用能力の育成～

2、主題設定の理由

『教育の情報化』は、国の政策として取り上げられ、様々な施策が展開している。新世紀の高度情報化社会にあたって、情報機器は課題を発見し、情報を収集して、判断し、その情報を発信しながら課題を解決していける能力や資質を養う必須の道具である。未来を担う子供たちを育てるために、今後も、情報化社会に対応した教育のあり方がますます重要となっていくことだろう。

また、横浜市では「自らを高める児童の育成、共に生きる児童の育成、活力ある児童の育成」を目標として掲げている。その具現化のために、施策の一つとして新しい時代に対応した横浜らしさを大切にしたい教育の推進を図り、国際化や情報化の進展に対応した教育を小学校の時代から受けることができるよう教育環境を整えていくことを目指している。

これらをふまえ、今年度も本研究会では、いままでの研究の蓄積を生かしながら、来るべき社会に主体的に対応できるよう「自ら学ぶ力」をもった子どもの育成を目指しての研究を推進していきたい。「自ら学ぶ力」の育成のために、視聴覚教育に果たすべき役割、可能性は限りないものがある。小学校のカリキュラムの中で多様なメディアを授業にどう生かし活用能力を育成していくかを探っていきたい。

また、子どものコミュニケーション力の向上の一助とするためのメディア活用についても探っていきたいと考える。

様々なメディアを効果的に活用するためには教師の知識技能の向上が課題となる。実践提案と授業研究会と併せて、実践的な実技研修を行いながら本年度も研究を進めていきたい。

以上のような考えから、上のような研究主題を設定した。

3、研究経過

月	日	内容	提案校
4	15	年間計画作成 役員決定 役割分担	瀬谷第二小
5	27	道徳の授業におけるパワーポイントの活用	二ツ橋小
6	24	タブレット端末やキューブキッズを使った各教科指導の実例	三ツ境小
7	15	国語科の学習を通じた、児童用デジタルカメラの活用	南瀬谷小
8	18	ダウンロードプリントの活用方法と阿久和小の実例	阿久和小
9	16	算数科3年「円と球」の学習における、デジタルカメラとパワーポイントの活用	上瀬谷小
10	21	実物投影機を活用した、理科の授業の実例 フラッシュコンテンツを活用した、算数の授業の実例	瀬谷さくら小
11	18	区一斉授業研究会指導案検討①	相沢小
12	16	区一斉授業研究会指導案検討②	相沢小
1	27	区一斉授業研究会	相沢小

平成27年度 戸塚区情報・視聴覚教育研究部 研究活動報告

1. 研究テーマ

「一人ひとりが情報を活用し、主体的に学び、関わり合う子の育成」
～学習の支援としての ICT 機器・情報の効果的な活用～

2. 研究テーマについて

本研究部はこれまで、ICT 機器や情報を活用し、子どもたちが主体的に学習に取り組み、互いの思いや考えを伝え合うことができるよう研究を重ねてきた。その中で、子どもたちが授業の中で互いに学び合い・高め合うことのできる場面を生み出すためには、ICT 機器や情報の活用が有効であるということが検証されてきた。

そこで今年度も引き続き、子どもたちがより主体的に学習に取り組み、互いの思い・考えを伝え合うことができるようにするための ICT 機器や情報活用の研究を進めていきたい。子どもたちにどんな力をつけさせたいかをはっきりとさせながら研究に取り組んでいくことで、主体性を育てていきたい。

また、ICT 機器や情報を、学びを活性化させるための一つの手段として捉え、子どもたちの主体的な学びの場面を創り出すための工夫も探っていきたい。機器を日常的に利用したり、子どもたち自身が機器を活用することができるようにしたりするための環境整備の工夫や指導法などについても考えていきたい。同時に、情報モラルの指導法についても研究していくことが必要である。

教員が主体的に学ぶことによって、子どもたちの教育に生かしていけるように研究を重ねていきたいと考える。

3. 研究成果と課題

本研究部では、数年前までの機器を使うことを優先した研究から、単元の目標を達成するための支援としての情報・視聴覚のあり方を探るため方向へ、少しずつ変換をはかっている途中である。近年多用されるようになってきたデジカメを筆頭に、CDラジカセ・テレビからコンピュータ・タブレットまで、対象となる機器は多種多様である。また、情報モラルやSNSへの対応など、時代によって考えていかなければならない案件も増えつつあり、教師自身が知識やスキルを高めていかなければとても対応できないならない状況になりつつある。しかし、肝要なのは、私たちが考えていかなければならないのは学習についてが主であることを忘れないよう、研究を進めてきた。

毎月の研究会では、いろいろな教科・領域での実践が提案された。活用された機器は、コンピュータを中心として比較的操作が簡単な書画カメラまで、多種に渡った。また、提案の際は、学習に使った機器やメディアなどを用意してもらい、実際に操作したり触れたりできるよう心掛けた。提案の内容は、学習への効果を第一義に考えてプランを立てたものが多くなっている。また、新しい・古いにとらわれることなく、効果的な活用を心掛けての提案も多くなっている。たとえば、書画カメラと画面にビニールシートを貼ったテレビを活用し、電子黒板的に資料を扱う方法など、誰にでもできる簡単で優れた方法である。

8月は、各校のPC教室に配当されているコンピュータにインストールされている、ジャストスマイル5の機能を学び、教師のスキルを高める研修を行った。配当はされているものの、実際にはほとんど使われていない映像・画像の編集ソフトや、作曲もできる音楽ソフトの使い方など、有意義な研修を行うことができた。

どの学校にもあり、誰もが使うことができるICTの資産が、活用されことなくホコリをかぶっている状況もあるように聞く。また、タブレットも、ここ数年うちには全校に配備されるようである。新しい機器への対応と、今までの資産の活用、これが本研究部の重要な研究課題である。そして、共有した知識・スキルを生かして学習を支援し、子どもたちの学習の活性化をはかるため、今後も研究を進めていかなければならないと考えている。

神奈川区情報・視聴覚教育研究部

1 研究テーマ

「情報・視聴覚教材・機器に親しみ、互いに伝え合い、高め合いながら学ぶ子の育成」

～言語活動の充実の手立てとしての情報・視聴覚機器の活用～

2 研究経過

月・日	会場	内容
4月15日	二谷	○役員選出、年間計画検討
5月27日	浦島	○実践提案（浦島）「デジタルカメラを活用した図画工作科の授業展開」 ○情報交換（大口台）「共有フォルダの活用について」
6月24日	子安	○実践提案（南神大寺）「算数の教科書をPDF化して活用する」 ○情報交換（子安）「校内メールシステムと付随機能の紹介」
7月15日	神大寺	○実践提案（二谷）「電子黒板とパソコンソフトを使った実践例」 ○情報交換（神大寺）「学校保健委員会による、インターネットやスマホによる危険性」
8月18日	白幡	○実技研修 「（株）LINEによる情報モラル教育に関する講演」
9月16日	幸ヶ谷	○指導案検討
10月21日	幸ヶ谷	○指導案検討
11月18日	幸ヶ谷	一斉授業研 4年道徳「コンピューターや携帯電話などをどのように使えばよいのでしょうか」 5年国語「『秋』を俳句で表そう」
12月16日	大口台	○実践提案（神橋）「1年生でもデジカメが学習で使えるように」 ○情報交換（池上）「共有フォルダ階層について」
1月28日	三ツ沢	○実践提案（羽沢）「NHK for school 「ココロ部」の活用」 ○情報交換（菅田）「ミライムの活用について」
2月25日	二谷	○まとめ、次年度の研究体制について

3 まとめ

今年度の実践提案では、主に視聴覚機器の活用をテーマに提案を行ってもらった。各校で様々な教科・分野の提案をしていただき、情報・視聴覚研究部員の日々の実践に生かせる有意義な研究となった。

情報交換では、各校の校務での工夫・校務で困っていることを中心に取り上げた。各校の職員室の紹介などをしやすくするため、会場は情報交換を担当する学校にした。校務システムも徐々に職員に浸透し、校務用パソコンも定着した反面、共有フォルダ内のデータが煩雑化するなどの新たな問題も現れた。それらの対策について情報交換ができたことに価値があった。

授業研究では、実践提案で研究してきた視聴覚情報機器の活用という観点と情報モラル教育という観点で授業を行ってもらった。タブレットの活用とモラル教育というこれから取り組んでいかなければいけない内容について授業を行ってもらい研究できたことに非常に価値があった。

来年度も「研究授業に役立てる」「すぐに実践できる」という視点で実践提案や情報交換を行い、参加者が授業や校務に生かせる内容の研究をしていきたい。

斎藤分小学校 山路 巖

平成27年度 西区情報・視聴覚研究会 研究報告

1 研究主題

『主体的な学びにつながる情報機器の活用』

前年度は、同様の主題のもと、情報機器が授業のどの場面で使用されるのか、情報機器が活用されることで、子どもがどのように変わるのか、どのような効果があるのかを、実際の授業をもとに考えた。

今年度は、「主体的な学びにつながる」ことを意識して、前年度の情報機器の活用場面をより具体的にしていき、理解を深めるための活用、コミュニケーション能力を高めるための活用など、情報機器の利用方法や目的、使用するタイミングを模索していくことで、子どもたちの主体的な学習につなげていくことができるのではないかと考え、研究主題を設定した。

さらに、近年の情報化社会の中では、小中学生の携帯電話やインターネットの利用が高まり、問題も生じている。あふれる情報の中で子どもたちが情報によって被害に遭わないために、また、加害者にならないためにも、情報モラルについての研修、情報の共有を進めてきた。

2 研究経過

月	研究内容	提案校	提案内容
4月	研究主題・研究計画		今年度の研究主題・研究仮説の決定
5月	研究計画確認		研究計画の確認 本年度の研究計画および授業研究会に向けての意見交換
6月	実践提案①	一本松小・浅間台小	・西区合同発表会での映像と音楽の処理について ・デジタルカメラを活用した授業実践（理科）
7月	実践提案②	平沼小 宮ヶ谷小	・情報モラル（携帯電話会社制作の資料活用） ・PCソフトなどを使用している視力についての健康総合単元
8月	実技研修		（講師）東芝機器株式会社 Windows タブレット端末を活用した学校向けICTソリューションの実技研修
9月	実践提案③	稲荷台小・東小	・Microsoft PowerPoint を活用した授業実践（算数） ・情報モラル（ネット中毒）
10月	実践提案④	富士見台小・西前小	・情報モラル（ゲーム依存） ・情報モラル（ゲーム会社制作の資料を活用）
11月	指導案検討①（西区のみ）	戸部小	・2年生活科 ・5年情報モラル（道徳）
12月	指導案検討②（西区・中区合同）	同上	同上
1月	一斉授業研究会	同上	同上
2月	研究のまとめ		・研究成果と課題、次年度に向けて

○各校1回ずつ実践提案を行い、子どもが学習への理解を深めたり意欲を高めたりする教師の活用方法を中心に検証を進めた。

○今年度は情報モラルに関する提案が多かった。

3 まとめ（○成果 ●課題）

○子どもが課題解決をする効果的な手立てとして、教師が視聴覚機器を提示したり活用したりすることができた。

○情報モラルを取り上げる授業実践を通して、正しい知識を身につけ、そこから思考力や判断力を高め、日常生活に生かしていこうとする子どもと姿が見られた。

○今後の導入が予定されているタブレット端末を学習にどう活用するか、講師を招いての実技研修を通して具体的なイメージを持つことができた。

●やや、情報モラルに関する実践提案が多く、児童が視聴覚機器を活用するような実践提案が少なかった。

平成27年度 都筑区情報・視聴覚教育研究会

1. 研究主題

「主体的に情報をつかみ、情報を生かして学び合う子の育成」
～豊かな学びにつなげる ICT 機器の活用と情報モラルの育成～

2. 研究経過

月 日	提案（担当校）	内容
4 / 1 5	年間計画・役割分担	役割分担
5 / 2 7	☆実践提案1 （ 折本小 ）	パワーポイント・Google earth を活用した授業
6 / 2 4	☆実践提案2 （ すみれが丘小 ）	国語科・社会科における視聴覚機器の活用法
7 / 1 5	☆実践提案3 （ 荏田小 ）	デジタル教科書を使った授業づくり
8 / 1 8	★講演 （ 都田西小 ） 教育政策推進課 指導主事 佐藤 正淳 先生	学校広報の価値と可能性
9 / 1 6	☆実践提案4 （ 茅ヶ崎小 ）	パソコンにふれてみよう（1年） 伝える力PRESSを活用した新聞づくり（4年） 情報提供 国語デジタル教科書 まなボード
10 / 2 1	☆実践提案5 （ 都田小 ）	土曜参観で行う情報モラル教育 安心・安全な使い方とは
11 / 1 8	☆実践提案6 （ 中川小 ） 指導案検討① （ 川和東小 ）	情報モラル教育 「インターネットのルールを考えよう」
12 / 1 6	指導案検討② （ 川和東小 ）	算数 タブレットを活用した授業（1年） 体育 Replay Cam（動画リプレイ）を使った授業（4年）
1 / 2 7	一斉授業研究会 （ 川和東小 ）	算数 タブレットを活用した授業（1年） 体育 Replay Cam（動画リプレイ）を使った授業（4年）
2 / 2 4	年度のまとめと次年度の方向性について	

3 まとめ

本年度も研究テーマのもと、学習場面に焦点を当てて子どもたちがより主体的に学習できるように効果的な ICT 機器の活用や、子どもたちが生活環境の中から、自ら情報を得たり、それらを選択・活用したりする等の能力を育てていけるような方法についての研究を進めてきた。どの場面でどのように ICT 機器を活用していくことで子どもの学習や活動の深まりにつながるかを検討するなど、とても有意義な研究を行うことができた。今後も変化し続ける情報環境に対応しながら情報を共有していきたいと思う。そして、子どもたちの学びを深め、高めることができるように、「人と人とのつながり」や「学びと学びのつながり」を大切にしたい学習の狙いを達成するために ICT 機器を効果的に活用していきたい。さらに、情報モラルの育成について、実践提案や情報交換等を通して来年度も研究を進めていきたい。

1 研究主題

子どもが学習に興味・関心をもち、学習の効果を高める視聴覚教育

～ より身近で手軽に誰でも使用できる ICT 機器活用 ～

2 研究経過

	月 日	研究・研修内容	会 場
①	4月15日(水)	役員選出、研究テーマ確認、年間計画検討	希望が丘小学校
②	5月27日(水)	年間研究計画確認 講演「先生も子どもも使える ICT 日常化のヒント」 ～VOD システムの導入を通して～ 講師：上白根小学校 横山 美明 校長先生	希望が丘小学校
③	6月24日(水)	実践提案① 善部小学校 上西 真紗子 先生 「長さのたんい ～長さをはかろう～」	希望が丘小学校
④	7月15日(水)	研修「DNP デジタルペン授業支援システムについて」 今宿小学校 伊藤 裕哉 先生	今宿小学校
⑤	8月18日(火)	区一斉授業研に向けての方向性 講師：上白根小学校 横山 美明 校長先生	希望が丘小学校
⑥	9月16日(水)	区一斉授業研指導案検討 白根小学校	白根小学校
⑦	10月21日(水)	区一斉授業研指導案検討 白根小学校	白根小学校
⑧	11月18日(水)	区一斉授業研究会 第3学年 中野 龍之進 先生 「働く人とわたしたちのくらし」 第6学年 富澤 尚人 先生 絵を読んで言葉にしよう！ みんなで解説「鳥獣戯画」	白根小学校
⑨	12月16日(水)	実践提案②(若葉台小学校)	希望が丘小学校
⑩	1月27日(水)	実践提案③(今宿南小学校)	希望が丘小学校
⑪	2月 24日(水)	年度末反省・次年度の方向性について	希望が丘小学校

3 まとめ

今年度は、今ある学校の情報機器を中心に日々の授業実践につながるICT活用を意識して、実践提案や実技研修を進めてきた。毎月、多くの先生が発言し、活発な話し合いがされてきた。また、各学校との情報交換を密に行い、情報共有を行ってきた。

研究の視点として常に以下の三点を意識して研究を進めた。特に一斉授業研では、①と②の視点について追究することができた。

① 学習意欲を高める教材の提示 ～ 喜びや感動を生み出す教材提示 ～

② 学習効果を高め、学びを支援する視聴覚機器や教材の活用 ～ 視聴覚機器の効果的な利用 ～

③ 学習の個別化と視聴覚機器の利用

平成27年度 港北区情報・視聴覚教育研究部 年間活動報告

1. 研究主題

「わかる・楽しい授業のための教育メディアの効果的活用法を探ろう」
～学びを深め、広げる情報・視聴覚教育～

2. 研究経過

月	日	内容	会場校
4	15	総会(研究テーマ・年間活動計画・役員選出) 役員打合せ・引き継ぎ	綱島小
5	27	情報交換 各校の情報系クラブ・委員会の実践	綱島小
6	24	実践提案① 提案校(日吉台小) インターネットを活用した調べ学習等	綱島小
7	15	実技研修会① 企画校(駒林小) フラッシュ型教材の活用 校内の情報セキュリティ	綱島小
8	18	実践提案・実技研修② 提案校(港北小) タブレット端末を活用した授業	港北小
9	16	指導案検討会①	日吉南小
10	21	指導案検討会②	
11	18	区公開授業研究会(日吉南小)	日吉南小
12	16	実技研修会② 企画校(新吉田第二) デジタルペンの活用	綱島小
1	27	実践提案③ 提案校(新羽小) インターネットを活用した天気の授業等	新羽小
2	24	1年間のまとめ・次年度の活動についての確認	綱島小

3. まとめ

昨年度末にとられたアンケートにもとづき、「研究主題が適切であった」との多くの声により、今年度もこれまでと同じ研究主題を設定し、引き続き研究を深めていくことにした。フラッシュ教材やデジタルペン、タブレット端末を活用した授業など、有意義な実技研修を行えた。実践提案は、インターネットを活用した授業や情報モラル指導など、すぐに実践できるものばかりだった。提案をもとに、各校での実践を紹介するなど、情報交換もできた。

H 2 7 年度 港南区視聴覚・情報教育研究部

1. 研究テーマ

「子どもが情報を活用し、主体的に学ぶ姿を目指して」

2. 研究経過

今年度は6校の実践提案、2校の実技研修、講演会を行った。実践事例の提案後は情報交換の時間を設け、各校の状況を参考にする時間とした。

月日	会場	活動内容	提案	司会	記録
4月15日	桜岡	年間計画検討 役員決め	前年度役員	前年度役員	前年度役員
5月27日	桜岡	「P C・大型テレビの活用」 理科「虫の観察」(実践提案)	芹ヶ谷 上大岡	永野	下野庭
6月24日	桜岡	国語「仕事リーフレット」	永谷 日野	丸山台	丸山台
7月15日	野庭すずかけ	講演「情報モラルについて」 講師 平野大二郎指導主事	研修担当 野庭すずかけ		港南台第二
8月18日	日野南	ジャストスマイルの活用	研修担当 日野南		永野
9月16日	小坪	区一斉研指導案検討①	小坪	下野庭	芹ヶ谷南
10月21日	小坪	区一斉研指導案検討②	小坪	下永谷	永谷
11月18日	小坪	区一斉研究授業	小坪	吉原	吉原
12月16日	南台	講演「学校教育における著作権」 講師 平野大二郎指導主事	南台	南台	永谷
1月27日	桜岡	リフレクションビデオを通 じた地域との交流 情報モラル教育(実践提案)	相武山 日限山	芹が谷南	日限山

3. まとめ

今年度も昨年度に引き続き、「子どもが情報を活用し、主体的に学ぶ姿を目指して」をテーマに研究を進めてきた。今年度はその研究内容に昨今の子ども達をめぐる情報機器の状況を考慮し、多くのそうした機器がある中でどのようにその有効性を示し、また危険性を教えるのかが重要ではないかと考え、研究を進めてきた。子どもが情報を受け取り、いかに活用して思考を深めるのか、どのように新たな情報を発信するのか。そして、それを支援するための教師の役割やICT機器の活用について、具体例をもとに話し合うことができた。課題も多いが、「明日から取り組むことのできる」研究ができたように感じる。また、各校の情報・視聴覚機器の管理・設定・運用方法などについても話し合う時間を設け、情報の取り扱いや校務システムの運用状況について意見交換を行うことができた。

また、今年度は2回にわたって、指導主事である平野大二郎先生に講演を行っていただき、7月には「情報モラル」12月には「学校教育における著作権」についてお話しいただきました。学校現場における具体的な例を基にお話しいただき、自分たちが行っている教育活動の中でも情報の取り扱い方として、見直していかなければならないことがあることを考えることとなる大変貴重な時間となりました。

平成27年度 青葉区 情報・視聴覚教育研究部活動報告

1年のまとめ

1 研究テーマ

児童自ら学び取る力をつけるための情報メディアを生かした学習のあり方

～ICT 機器の効果的な活用と、情報モラルの育成～

2 研究経過

今年度も、昨年度までの研究を生かし、テーマに沿った実践・提案・実技研修を進めることができた。特に実践提案では、すぐに実践できるものが多く、「児童自ら学び取る力」の育成につながる研究となった。そのため、今年度は、研究課題をより焦点化し、「情報モラル」について研究を深めた。

研究の過程で、タブレット端末の利用や、校務用パソコンの更新、児童を取り巻く環境の変化に応じた情報モラルの教育など、次々と多くの課題が見えてきた。今年度の研究成果が各学校にて実践的に生かされることを望みたい。

日程	内容①実践提案または実技提案	内容② 現状報告・情報交換	司会 記録
4/15 (水)	役員引継ぎ 年間計画 新役員紹介 日程 研究主題 (もえぎ野小)		部長校担当
5/27 (水)	講演会『タブレットやってくる』～すぐそこまでやってきた！未来の横浜の教室～ 講師 指導主事室情報教育担当指導主事 平野 大二郎先生		部長校担当
6/24 (水)	実践提案 (新石川) 家庭科 はじめてみようクッキング	実践提案 (新石川) 家庭科 はじめてみようクッキング	美しが丘小 山内小
7/15 (水)	『タブレット端末を用いた授業スタイルの可能性』(市が尾)		市が尾小
8/18 (木)	実践提案 (荏田西)	実践提案 (荏田西)	青葉台小 つつじが丘小
9/16 (水)	実践提案 (あざみ野第二) ・学校情報委員会の取り組み (荏子田) ・人や動物の体	実践提案 (あざみ野第二) ・学校情報委員会の取り組み (荏子田) ・人や動物の体	谷本小
10/21 (水)	実践提案 (黒須田) ・情報委員会の取り組み ・『一つの花』国語 ・「かげと太陽」理科	実践提案 (黒須田) ・情報委員会の取り組み ・『一つの花』国語 ・「かげと太陽」理科	鉄小 すすき野小
11/11 (水)	実践提案 (さつきが丘) ・月の形と太陽 理科	現状報告 (鴨志田緑) ・「いじめをノックアウト」 ・NHK for School の活用について	榎が丘小 田奈
12/16 (水)	一斉授業研 指導案検討 (嶮山)	一斉授業研 指導案検討 (嶮山)	一斉研 担当幹事校
1/27 (水)	一斉授業研	一斉授業研	一斉研 担当幹事校
2/24 (水)	まとめ/年間反省・次年度役員選出 (もえぎ野)		部長校担当

3 まとめ

青葉区情報・視聴覚教育研究会では「児童自ら学び取る力をつけるための情報メディアを生かした学習のあり方」をテーマに研究を行ってきた。子どもたちが情報社会の危険性を理解し、情報社会を主体的に生き抜く力を身につけられるような実践提案がなされ、多くの議論を通して、研究を深めることができた。校務システムについては、校務における情報のスキルアップへとつながられるように、研究会を現状報告や意見交換の場として存分に活用し、情報の共有化を図ることができた。

緑区情報・視聴覚教育研究会活動報告

1. 研究主題

自ら学び続ける子どもを育てるための、情報・視聴覚教育メディアを生かした学習の推進
～明日の授業に役立つ教材・機器の活用～

2. 研究経過

月／日	主な内容	提案(D)	実技研修 (C)	司会(A)	記録(A)	会 場
4／15	研究主題検討 年間活動計画検討	区幹事		区幹事	区幹事	森の台
5／27	実践提案・情報交換（運動 会放送）	東本郷		緑	長津田第二	森の台
6／24	実践提案・情報交換（校内 組織・視聴覚部業務）	霧が丘		長津田第二	新治	森の台
7／15	実技研修・情報交換		三保	新治	上山	森の台
8／18	実技研修・情報交換		長津田	上山	緑	長津田第二
9／16	実技研修・情報交換		鴨居	緑	長津田第二	鴨居
10／21	実践提案・情報交換	山下 中山		長津田第二	新治	森の台
11／18	第1回区一斉授業研指導 案検討（活動計画）			新治	上山	いぶき野
12／16	第2回区一斉授業研指導 案検討（本時展開）			上山	緑	いぶき野
1／27	区一斉授業研究会			山下みどり台	竹山 受付：十日市場	いぶき野
2／24	研究のまとめ・反省 来年度役割分担確認	区幹事		区幹事	区幹事	森の台

3. 研究経過

〈成果〉

今年度は外部講師も積極的に依頼し、メディアリテラシーについても考えを深めた。各校が提案した内容や資料についても共有化を図り、「明日の授業に役立つ」内容となった。また、新しい形の授業支援ツールであるデジタルペンを使った研修を行ったことから、区一斉授業研究会の授業での活用につながり、その操作性や可能性について検討することができた。

〈課題〉

情報・視聴覚機器の活用は研修や情報共有によって図れていたが、実際に取り組む児童の様子の変容にも着目し話し合うことで、「自ら学び続ける子ども」を育てることにつながっていくと考えられる。より主題に迫ることができるよう、実践提案の方法についても検討し、今後の研究を進めていきたい。

森の台小学校 齊藤 南海子

平成27年度

鶴見区情報・視聴覚研究会

1. 研究主題

「視聴覚機器の積極的活用・情報活用の実践力を高める学習」のあり方

～ICT 教育の環境整備を通して～

2. 研究経過

月 日	内容	提案校
4/15	組織作り 年間計画検討	
5/27	年間計画の決定 情報交換	
6/24	実技研修①	生麦小学校 「タブレットの活用」
7/15	実践提案①	獅子ヶ谷小 「クラブ活動の紹介」 東台小学校 「クラブ活動におけるデジカメ・ ジャストスマイルの活用を通して」
8/18 夏 期	実践提案②	旭小学校 「学習活動におけるコードレス実物投影 機の使用」 駒岡小学校 「定点カメラの活用」
9/16	鶴見区公開授業研究会指導案検討①	汐入小学校 5年 「暮らしを支える情報」
10/21	鶴見区公開授業研究会指導案検討②	
11/18	鶴見区公開授業研究会	
12/16	実技研修②	下野谷小 「デジタル教科書の活用」
1/27	実践提案③	末吉小「パワーポイントを使った授業実践」 潮田小「タブレット端末を使った体育学習での個 の支援」 「動画を使った国語『お手紙』の導入」
2/24	研究のまとめ 役員選出	
28年4/	28年度 年間計画・部員紹介等	

3. まとめ

「視聴覚機器の積極的活用・情報活用の実践力を高める学習」のあり方を主題に、1年間研究を積み重ねてきた。視聴覚機器が日々進化を続けていく中、今年度タブレット機器を中心として新しいネット環境が導入されることが示され、視聴覚研究部の役割が重要性を増してきた。同時に、区の授業研究会においては、「どのような課題を児童の発達段階に合わせて設定するか」という難しさや、悩みが聞かれ、今後の研究において視聴覚部員が積極的にその活用方法を自分の学校の職員に伝えていくことの必要性が感じられた。今後の研究においても機器の使い方だけに習熟するのではなく、どのように活用することが児童にとってより分かりやすい授業になるのかを意識して授業を作っていくことが課題となると思われる。

鶴見小学校

畠山 耕

栄区 情報・視聴覚教育研究部

1 研究主題

一人ひとりの子どもが、主体的な学びを高めるための情報・視聴覚教育

～考える力・表現する力を育む情報教育のあり方～

昨年度の研究を受け、今年度も引き続き、情報・視聴覚機器を活用し子どもの思考力、表現力の育成していくことに焦点化して研究を進めてきた。思考力や表現力については、その重要性が叫ばれるようになって久しい。各教科研究においても様々な実践が行われ、その成果が報告されているところである。そうした各教科における研究成果を参考にしながら、そこに情報・視聴覚機器をプラスすることによって、より効果的な学習活動を展開することができるであろう。機器の特性に基づいた活用方法・活用場面など、本研究部がこれまで蓄積してきた研究成果や、研究会員各位の知識・経験を基に、子どもの思考力・表現力を充実させるための研究を進めてきた。

また、「校務システム」についても、各校で実際に運用する中で発生する疑問点や課題点について情報共有しながら、必要に応じて講習会、研修会などを適宜設定し、情報・視聴覚担当職員の互助支援の場となるようにしていきたいと考えている。

2 研究経過

月 日	活動予定	担当	司会	記録	会場
4月15日	・ 研究組織づくり ・ 研究主題、年間活動計画の検討	上郷	上郷	笠間	本郷
5月27日	・ 視聴覚・情報教育機器、教材、情報教育指導計画についての情報交換	上郷	小菅ヶ谷	豊田	本郷
6月24日	・ 実践提案・実技研 (① 本郷台) (② 桜井)	上郷	庄戸	小山台	本郷
7月15日	・ 区一斉研指導案検討①	上郷	西本郷	小菅ヶ谷	本郷
8月18日	・ 夏季実技研修会	飯島	豊田	庄戸	本郷
9月16日	・ 実践提案・実技研 (③ 本郷) (④ 公田)	上郷	小山台	西本郷	本郷
10月21日	・ 区一斉研指導案検討②	上郷	小菅ヶ谷	豊田	千秀
11月18日	・ 区一斉授業研究会 千秀小学校	幹事校	幹事校	幹事校	千秀
12月16日	・ 区一斉授業研振り返り	上郷	庄戸	小山台	本郷
1月27日	・ 次年度の研究方針検討 ・ 情報収集等	上郷	西本郷	小菅ヶ谷	本郷
2月24日	・ 研究のまとめ ・ 次年度の研究方針検討	上郷	豊田	庄戸	本郷

3 まとめ

今年度は、児童の思考を可視化できる手立てとしてICTがどのように寄与していけるかについて焦点を当てて研究を進めてきた。区一斉授業研究会もこの点に焦点を当てて指導案検討をしてきた。区一斉授業の低学年では、タブレットを使用して、いつもなかなか言葉で自分の思いを表現しきれない児童なども、新たにせりふや場面の絵を工夫して考えていくことで、さまざまな表現の仕方があることが分かり、意欲的な姿が見られた。

高学年では、「書き込み式ボード」を活用してグループで相談する時間を設け、お互いの意見や考えを交流させながら学習に深まりをもたせて活動を行った。児童の思考を可視化できる手立てとしてICTがどのように寄与していけるかについてはまだ課題が残るが、子どもたちがどのように課題解決に向けて考え、表現していたのかを中心に細かく全部員で討議することができた。

また、研修や提案に加えて、情報・視聴覚担当職員の互助支援の場として校務システムを中心とした情報交換の場を多く設定した。運営・活用していく中での悩みや活用法を共有することができた。

(横浜市立上郷小学校 澁澤 登)

平成27年度 中区視聴覚・情報教育研究部

1. 研究テーマ

子どもが意欲的に学習に取り組むための
効果的な視聴覚機器の活用をめざして

「視聴覚機器」を使うことで学習効率が上がる場面を中心に研究を進めてきた。実際の学習の場面で視聴覚機器を使用することによって、どのような効果があり、児童の理解が深まったかについての提案が多くあった。また、情報モラル教育についての実践も数多くあり、各校に広めることができた。加えて、視聴覚機器の管理や、校務システム、パソコンクラブ・放送委員会などについての各校の取り組みを、情報交換し共有することで、自校の学校運営に生かすことができた。

2. 研究経過

月・日	内 容	提 案 校	司会・記録	会 場	月・日	内 容	提 案 校	司会・記録	会 場
4・15	研究計画・組織	元部長校	幹事	北方	10・21	実践提案 実技研修など	元街小学校 附属小学校	北方 本牧	附属
5・27	実践提案 実技研修など 職員室用PC・デ ジカメの管理につ いての情報交換	山元小学校	本牧南	山元	11・18	実践提案 実技研修など	北方小学校	山元	北方
6・24	実践提案 実技研修など 校務システム・ホ ームページについ ての情報交換	本牧南小学校	大鳥 立野	本牧南	12・16	西・中合同授業 研究会指導案検 討	戸部小学校	西区幹事	戸部
7・15	実践提案 実技研修など	大鳥小学校 立野小学校	間門	立野	1・27	西・中合同授業 研究会	戸部小学校	西区幹事	戸部
8・18	実践提案 実技研修など 情報モラル教育 の情報交換	間門小学校	本町	間門	2・24	まとめ	幹事校	幹事	大鳥
9・16	実践提案 実技研修など 教法教育の計画 の情報交換	本町小学校	元街 附属	本町					

3. まとめ

〈成果〉

昨年度に引き続き、同じ研究テーマのもと、「視聴覚機器」を使うことで学習効率が上がる場面を中心に研究を進めてきた。情報モラル教育についても取り上げ、情報交換が行えた。また、パソコンクラブや放送委員会、視聴覚機器の管理についても各校の取り組み情報交換でき、他校の取り組みを参考にすることができた。

〈課題〉

タブレット端末の導入が始まるので、効果的な活用の場面を研究する必要がある。

27年度 保土ヶ谷区 情報・視聴覚研究会

研究主題

「使う 深める 活用する情報教育」～情報活用能力の高まり～

- 1、 情報・視聴覚機器が学習の場でどのように活用できるかを研究の主題として取り組んできました。研究主題と照らし合わせて、成果と課題について

○成果

- ・児童が ICT を活用することで、意欲的に学習するようになった。
- ・実践・実技提案で、どの場面でどの危機の活用ができるのが分かりよかった。
- ・授業研究会では、情報機器を用いて記録をとり、実験結果を何回も確認でき、「活用する」ことができた。
- ・視聴覚機器を効果的に活用しながら学習が深められた。学習の環境が整えられていたこともよかった。

○課題

- ・教師ではなく、児童も ICT を使いこなせるようになるための支援や活動が必要。
- ・一部の教師しか ICT を十分に活用できていない現状がある。もっと手軽に、少ない負担で活用できるようにしたい。
- ・機器の不足を感じるがあった。使用するだけでなく、深め、活用することを目指すためにも使用する機器についてよく調べ、活用するタイミングを精査していく必要がある。
- ・今後も機器中心とならないような活用の仕方を研究できるとよいと思います。
- ・機器を使用しない方が効率的に学べる場面もあるため、一斉研の授業に向けての指導案検討ではよく考え合う必要がある。
- ・子ども達が機器の操作を覚えてだけでなく、その危機を使ってできることを子どもたち自身で考え実行できるようにしていきたい。

2、平成27年度 保土ヶ谷区情報・視聴覚研究部 研究日程及び活動内容

月 日		活動の種類や名称	役割		会場
			司会	記録・広報	
4	15	年間計画	部長		帷子
5	27	実技研修①（新井） 実践提案①（常盤台）	副部長②	権太坂	帷子
6	24	実技研修②（岩崎） 実践提案②（上菅田）	副部長②		帷子
7	15	実技研修③（瀬戸ヶ谷） 実践提案③（星川）	副部長②	今井	帷子
8	18	夏季研修	副部長		帷子
9	16	指導案検討①（保土ヶ谷）	副部長①	坂本	保土ヶ谷
10	21	指導案検討②（保土ヶ谷）	副部長①		保土ヶ谷
11	18	区一斉授業研究会 （保土ヶ谷）	副部長①	上星川	保土ヶ谷
12	16	実践研修④（笹山） 実践提案④（初音）	副部長②		帷子
1	27	実技研修⑤（藤塚） 実技研修⑥（境木）	副部長②	帷子	帷子
2	24	年間のまとめ			帷子

金沢区情報・視聴覚教育研究部

研究テーマ

主体的に情報をつかみ、意欲的に情報を生かして学習していく児童を目指して

研究経過

日時	内 容	会場校	提 案
4 / 1 6	○年間計画・役割決め	釜利谷東小	役員
5 / 2 7	○授業でのＩＣＴ活用 機器の使用場面や特性について	八景小	金沢小
6 / 2 4	○３年生理科「かげと太陽」 定点で設置したカメラを使った観察について	八景小	釜利谷小
7 / 1 5	○書画カメラの有効活用と活用場面の考察 実技を伴った研修と考察	八景小	能見台小
8 / 1 8	○情報視聴覚機器の具体的な利用 大型テレビの活用、フラッシュ教材等	八景小	富岡小
9 / 1 6	○低学年の生活科における視聴覚機器の使用	八景小	六浦小
1 0 / 2 1	○教師用指導資料ＤＶＤ「小学校体育（運動領域）」 デジタル教材の活用 ○「Finale」～楽譜作成ソフト～を使った授業実践	八景小	大道小
1 1 / 1 8	○ミニホワイトボードを活用した算数科授業 ○区一斉研指導案相談会	八景小	文庫小
1 2 / 1 7	○区一斉研指導案検討	西柴小	西柴小
1 / 2 8	○区一斉研授業研究会 2 年 国語「あったらいいな こんなもの」 3 年 算数「棒グラフ」	西柴小	西柴小
2 / 2 5	○一斉授業研の反省 ○研究のまとめ ○次年度へ	八景小	役員

まとめ

〈成 果〉

児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しむことができるよう、視聴覚機材や教育機器などの教材・教具の活用方法を研究してきた。普段の授業で活用することの多い「書画カメラ」について実技を伴いながら詳しく学んだことが収穫であった。区一斉授業研究会では、タブレット端末を用いた授業を行い、よりよい活用について話し合うことができた。また、放送大学の中川一史教授を招き、授業の中でのＩＣＴの位置づけについて理解を深めることもできた。

〈課 題〉

子どもたちが自分にとって必要な情報を主体的に収集・判断・処理し、発信・伝達できる能力を身につけていくために、ＩＣＴの力を借りるとよいことは私たち指導者が得てきた実感である。とはいえ、現状、まだまだ一部の教員が授業で利用しているのが現状である。文部科学省が実施している学びのイノベーション事業において提唱されている「一人一台の情報端末や電子黒板、無線 LAN 等が整備された環境」を実現していくために、それらが導入された時に備えて、従来の授業のどのような場面で活用していくかについて、さらなる研究を深めていく必要がある。

横浜市立八景小学校 中村 栄一起

1. 磯子区 情報視聴覚教育研究会 研究主題
「児童の情報活用能力を高める指導のあり方」

2. 研究経過

月	日	研究会内容（提案校）	会場校	参加人数	配布物
4	15	・幹事紹介	山王台小	28	
5	27	・運営方針/年間計画 提案	洋二小	18	年間計画
6	24	・実践提案 「いじめをノックアウト」を 視聴して（杉田小学校） 「情報モラル指導」（磯子小学校）	屏風浦小	20	提案資料
7	15	・実践提案 「善悪の判断、勇気」（浜小学校） 「一太郎スマイル・発表名人」（根岸小学校） 「インターネットによる、 人とのつながりを考えよう」（洋一小）	屏風浦小	22	提案資料
8	18	「ネット利用の危険性と注意点について」 神奈川県警察本部 少年相談・保護センター	洋光台 第二小	21	
9	16	一斉授業研究会に向けての指導案検討	さわの里小	23	指導案
10	21	一斉授業研究会に向けての指導案検討	さわの里小	18	指導案
11	18	一斉授業研究会 ・「3年1組にクラブがってんリーフレットで クラブ活動の楽しさを伝えよう」：4年 ・「真の友情」：5年	さわの里小	39	指導案
12	16	・実践提案 「おいしいさつまいものおやつの作り方教えるよ」 （梅林小） 「NHKforSchoolの活用」（滝頭小） 「インターネットでのやりとりについて考えよう」 （汐見台小）	屏風浦小	23	提案資料
1	27	・実践提案 「まるい形を調べよう」（岡村小） 「はむはむの森を守る会」（屏風浦小）	屏風浦小	21	提案資料
2	24	平成27年度 研究のまとめ	屏風浦小		

3. まとめ

- ①実践提案を通して意見交換を行い、児童の情報活用能力を高めるための指導力向上を目指して研究を進めてきた。
- ②夏季研修では、磯子区警察署の方にお越しいただき、スマホやインターネットによる具体的なトラブルやその対策についての講義を聞き、情報モラルについての理解を深めた。
- ③「11月の一斉授業研究会」
 - ・写真という情報を子どもがどのように選択し、それを活用する能力を身につけさせるためにはどのような指導が必要か討議し、意見交換し合うことができた。
 - ・5年生では道徳教育でケータイマナーを含む情報モラルの指導のあり方について話し合いを行い、学校全体での情報モラルの指導について考えることができた。

平成27年度南区情報・視聴覚研究会

1. 研究主題

「ICT 機器を活用した、子どものわかりやすい授業をめざして」

2. 研究経過

月 日	内容	提案校
4/15	役員選出・年間計画等検討役員	六つ川西小学校
5/27	年間計画等確認（役員） 情報モラル授業、視聴覚機器の整備の現状についてなどの情報交換	六つ川西小学校
6/24	実技研修①（藤の木） 校務システム、年間指導計画などの情報交換	藤の木小学校 「クイックイズソフト」の活用
7/15	実技研修②（六つ川台） パソコン室や委員会活動の情報交換	六つ川台小学校 「アニメーションソフト」の活用
8/18 夏 期	実技研修③（中村） 南区公開授業研究会指導案検討（相談会①）	中村小学校 「プラネタリウムソフト」の活用
9/16	実践提案①（日枝） 南区公開授業研究会指導案検討（相談会②）	日枝小学校 「国際理解教室におけるタブレット端末」の活用
10/21	南区公開授業研究会指導案検討	南小学校
11/18	南区公開授業研究会（南小）	南小学校
12/16	実践提案②（大岡小）	大岡小学校 「タブレット端末」の利活用
1/27	実践提案③（井土ヶ谷小）	井土ヶ谷小学校 「タブレットアプリ」の紹介 「実物投影機」の利活用
2/24	研究のまとめ （研究集録作成、成果と課題等）	六つ川西小学校

3. まとめ

学校に配当されたり、または各校で購入したりした校務用パソコンや書画カメラ、デジタルカメラ、フリーソフトなど、様々な機器をどのように活用すればテーマに迫ることができるか研究を深めた。

各校から提案された内容は、すぐに実践できるものが多く、有意義な研究会になった。

11月の授業研究会では、算数科でパワーポイントを、音楽科で大型テレビとDVDの映像を使った授業が提案された。3年生の算数科の授業では、指導者自作のパワーポイント教材を用いて、「円」の概念が理解できるようにした。1年生の音楽科においては、アニメーションの映像を大型テレビに投影し、児童全員が共有することで、そのイメージをもとに音楽作りができた。どちらの授業からも、身近にあるICT機器を指導者が普段から日常的に使うことによって、よりわかりやすい授業につながることははっきりとした。また、普段から、児童がICT機器を使い慣れていることにより、さらに学習効果が図れることははっきりとした。

今後も日々変化していく情報機器の活用や情報モラルの指導などについて研究を進めていきたいと考える。

六つ川西小学校

高田 健太郎

メディアワールド

研究主題

情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成

定期総会

新年度役員選出
研究計画
予算案 等

講演会

「タブレット活用と
21世紀型コミュニケーション力の育成」
放送大学 教授 中川一史

部会オリエンテーション

各部会研究テーマ
役割分担

横浜市立小学校

情報・視聴覚 研究主任様

横浜市小学校教育研究会

情報・視聴覚教育研究部会員様

平成27年度 4月号

[発行]

横浜市小学校教育研究会

情報・視聴覚教育部会

会長 田中 公明

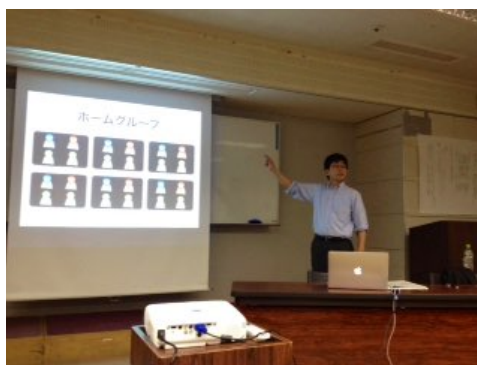
4月22日（水）に技能文化会館にて、平成27年度定期総会が行われました。

研究会長挨拶では、昨年度に公開された横浜市第二期教育振興計画に触れ、本市ではタブレット端末などのICT機器の整備や情報教育に力をいれて取り組んでいくことから、本研究会でも、横浜市の教育研究会の一つとして、全市の学校現場に先駆けて機器の活用や授業づくりについて先進的に研究を進めていくこと、現場の教職員のニーズに合わせて誰もが情報機器の活用ができるようになるように、ICT教育の裾野を広げていく活動について取り組んできていることを話されました。

市教育委員会挨拶でも、横浜市第二期教育振興計画について述べられ、ICT機器の整備によって、現場の教職員が子供達の育成、魅力ある授業、学力の向上などに力を発揮していけることに願いを込めて語られました。

講演会では、冒頭、学習者用デジタル教科書・教材についての最新情報に触れ、タブレット端末を用いたこれからの学習スタイルについて話されました。

「タブレット端末が学校に教室に入ったときに、我々教員がどのような授業をデザインするかをしっかりと見極める必要がある。『21世紀型スキル』『協働学習』『アクティブ・ラーニング』など様々な動きがあるが、結局のところ、教師が授業をどうデザインするかが大切。学習の中で、子どもたちの話が互いに『からみ』合い、その中で思考が『ゆらぐ』ことで思考力を育む授業をデザインし、子どもの学び（思考）の『確認・整理』を的確に行う教師の出が大切である。」と話されました。タブレット端末がそれをしてくれるわけではなく、教師がどう使うかを見極めていく必要があることを強調されていました。



各部オリエンテーションでは、昨年度の成果と課題から導いた、今年度の研究テーマについて説明がありました。

〈授業デザイン部会〉

部会研究主題「ICTを活用して、子どもたちの思考力アップ」を掲げ、昨年度に引き続き、今年度もタブレット端末を使って継続的な研究に取り組むことを説明しました。タブレット端末を含むICT機器を使って、「視覚化による「思考力」の育成と思考の可視化」と「協働学習のさらなる追究」の二つを柱にして研究を推し進めていくことを話しました。

〈スキルアップ部会〉

部会研究主題「ICTを活用して、基礎力アップ」を掲げ、思考力の土台となる基礎力の育成にICT機器がどう寄与できるか、そしてそのためには教員の基礎力のスキルアップ必要であることから、「タブレット端末の環境整備や実践を通じた基礎力の育成」「校内のICT機器の管理と運用方法」「情報モラル教育」を研究の柱にすることを話しました。

次回予告

フォーラム南太田

2015年5月13日水曜日 15:30～

各部会による会員研究が行われます。今回は研究の方向性の確認と実践提案などが行われます。多数の参加お待ちしております。



研究会HP QRコード



研究会HP <http://www.edu.cityyokohama.jp/sch/enkyu/es-ict/>

[編集] 紀要・広報担当 藤原 直樹（金沢区 西富岡小学校）

メディアワールド

研究主題

情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成

横浜市立小学校

情報・視聴覚 研究主任様

横浜市小学校教育研究会

情報・視聴覚教育研究部会員様

授業デザイン部会

実践提案 3年国語「わたしたちの学校行事」

スキルアップ部会

部会研究 算数科デジタル教科書（東京書籍）について

平成27年度 5月号

〔発行〕

横浜市小学校教育研究会

情報・視聴覚教育部会

会長 田中 公明

5月13日（水）にフォーラム南太田にて各部会による会員研究行われました。

＜授業デザイン部会＞

提案者：藤原直樹先生（西富丘小学校）

提案内容：3年国語「わたしたちの学校行事」

国語の話すこと・聞くことの学習として、1年生に学校の先生を紹介するという言語活動に取り組みました。タブレット端末を使い、1年生に画面を見せながら、取材をした先生の仕事や思いなどについて紹介をしました。

紹介活動に至るまでの手立てとして、思考ツールや学習形態の工夫をされており、PAI表を使ってグループごとに授業分析を行いました。



思考ツールと教科のねらい

今回の実践では「マッピング」「ピラミッドチャート」「ステップチャート」と、3つの思考ツールが使われていました。誰に何を伝えたいか、一人ひとりが自由にアイデアを出し合っ、絞り込み（話・聞ア）それを分かりやすく伝えるために内容を構造化する（話・聞イ）など、それぞれのツールがもつ特性を教科のねらいと関連付けて、どのツールを使うか吟味することが重要であると分かりました。



＜スキルアップ部会＞

算数科デジタル教科書（東京書籍）

について

東京書籍の方を招いて、新機能や活用法について説明を聞きました。

【変更点】

指導者用だけでなく、特別支援用、学習者用のデジタル教科書を作成している。

【良い点】

- ・簡単に文章を変更できる機能がある。
- ・動画がある。時計の針の軌跡が捉えられるなど、静止画より子どもがイメージしやすい。
- ・立体図形が飛び出して見えるAR機能がある。
- ・教材準備の時間が短縮される。

相手意識・目的意識の明確化

「誰に、何を紹介するか」という相手意識・目的意識を子どもが考え、話し合って決めることから学習活動が始まっています。一人ひとりの思いを出し合い、ピラミッドチャートで絞り込んでいきました。「1年生は先生のことをよく知らないだろう。だから紹介したい。」という思いを共有することで、みんなが明確なゴールに向かって取材や発表の準備を進めることができました。また、ルーブリックを作成したことにより、子ども自身がこの学習で何ができるればよいかを理解できたという意見も出ました。

次回予告

フォーラム南太田

2015年6月10日水曜日 15:30～

各部会による会員研究が行われます。

多数の参加お待ちしております。



研究会HP QRコード



研究会HP <http://www.edu.cityyokohama.jp/sch/enkyu/es-ict/>

〔編集〕 紀要・広報担当 細野 友貴（鶴見区 新鶴見小学校）

メディアワールド

研究主題

情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成

横浜市立小学校

情報・視聴覚 研究主任様

横浜市小学校教育研究会

情報・視聴覚教育研究部会員様

授業デザイン部会

実践提案 5年国語「付箋紙の活用と協働学習
～「新聞を読もう」の実践から考える～」

スキルアップ部会

部会研究 デジタル教科書を使った授業づくり②

平成27年度 6月号

[発行]

横浜市小学校教育研究会

情報・視聴覚教育部会

会長 田中 公明

6月10日（水）に西公会堂で、各部会による
会員研究が行われました。

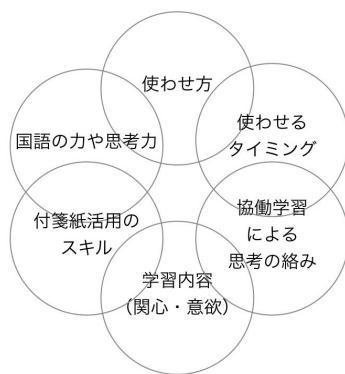
＜授業デザイン部会＞

提案者：細野友貴先生（鶴見区 新鶴見小学校）
提案内容：5年国語「付箋紙の活用と協働学習～
「新聞を読もう」の実践から考える～」

根拠をもって話し合う

本提案では、新聞の記事の中に散りばめられた
「記者が伝えたいキーワード」を抜き出し、付箋
に書いたキーワードを互いに共有化して、見出し
を考える学習活動をとっていました。付箋にキー
ワードを書き出すことで、情報が取り出され、情
報を「移動する」「交換する」「整理できる」こ
とで、子どもが思考する場面を作っていました。
研究会では、参加者も提案と同じ学習活動を行い、
付箋紙活用のよさをみんなで考えました。

「見出し」と「要旨」の違いをしっかりと教師
が捉えておく必要があるという課題がでたものの、
子どもが自分の考えを互いに出し合い、同じ土俵
で話し合いをする
中で最適解の追究
を行っていく協働
学習についてや、
今後一層求められる
汎用的な能力を
育む授業づくりの
実践について、参
加者で考えること
ができました。



＜スキルアップ部会＞

提案者：伊藤裕哉先生（旭区 今宿小学校）

提案内容：デジタル教科書を使った授業づくり②

今のデジタル教科書って、何ができるの？

光村図書「『デジタル教科書国語』新しい27年
度版デジタル教科書」を用いての授業づくりや授
業での活用法について会員で学びました。

現在のデジタル教科書の現状と、仕様の変更点
などが紹介されました。

- ・本棚構成
メーカーと各教科書会社で共同のビューワー方式を採用したこと
で、他の教科書会社のものも同じ本棚に並ぶようになった。
- ・操作機能
教師の立ち位置によりボタンの位置を変えられるようになった。
範囲指定拡大もできるようになった。
- ・内容の充実
ワークタブに、資料や学習の手引きを進めやすいワークシートの
充実された。
挿絵タブで、ページの離れた絵やグラフ、写真を拡大して表示す
ることができ、その状態で印刷もできるようになった。
漢字タブでは、一覧で単元の漢字が選べ、書き込みもできるよう
になり、漢字読みカードが加えられた。
ワークシートとしてPDF出力もできるようになった。

現在の最新版デジタル教科書に触れてみて、会
員からは、操作が同じビューアーであることや会
社が違う教科書でも、同じプラットフォームで操
作できるよさを感じていました。

また、映像がより綺麗に、操作が直感的になっ
たこと、大きく表示したり色分けすることで子ど
もたちにとって分かりやすくなるとの声がありま
した。サーバーに入れて、校内で使ってみたいと
要望が高まっていました。

次回予告

西公会堂（西区岡野 1-6-41）

「横浜駅」より徒歩10分

2015年7月1日水曜日 15:30～

各部会による会員研究が行われます。

授業について一緒に学びませんか。

多数の参加お待ちしております。



研究会HP QRコード



研究会HP <http://www.edu.cityyokohama.jp/sch/enkyu/es-ict/>

[編集] 紀要・広報担当 藤原 直樹（金沢区 西富岡小学校）

メディアワールド

研究主題

情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成

横浜市立小学校

情報・視聴覚 研究主任様

横浜市小学校教育研究会

情報・視聴覚教育研究部会員様

授業デザイン部会

実践提案 3年社会「わたしたちの大好きなまち」

スキルアップ部会

実践提案 「教室にタブレット端末がやってきた」

平成27年度 7月号

〔発行〕

横浜市小学校教育研究会

情報・視聴覚教育部会

会長 田中 公明

7月1日（水）に西公会堂にて各部会による会員研究行われました。

＜授業デザイン部会＞

提案者：山口晃史先生（南区 南吉田小学校）

提案内容：3年社会

「わたしたちの大好きなまち」

外国につながる児童が多いという実態に応じて、授業のユニバーサルデザインにICTや思考ツールがどのように寄与するのか、その可能性を考えることができました。

まち探検の導入では、Googleマップのストリートビューを見ながら、気になったことを出し合いました。東西南北を意識しながらまち探検に行き、気づいたことをXチャートに記録しました。Xチャートを使うことで視点が明確になるため、子どもたちが何を見たらよいか分かり、情報を集めすぎることもなくなります。

また、学校に戻ってからデジカメで撮影した写真を見合うことで、言語コミュニケーションが難しい子も、土地の様子や建物などまち探検での発見を共有することができます。

Xチャートを使いながら情報を分類整理することによって、どのようなまちの特徴が見えてくるのか。教師がきちんと教材分析をし、見通しやねらいを明確にもってツールを使うことが重要であると分かりました。



＜スキルアップ部会＞

提案者：佐野幸彦先生（瀬谷区 三ツ境小学校）

提案内容：教室にタブレット端末がやってきた

三ツ境小学校でのタブレット端末活用を紹介していただき、その後実際にタブレット端末を使ったワークショップを行いました。

【活用の紹介】

6年国語「『鳥獣戯画』を読む」「この絵、私はこう見る」の学習で、タブレットを活用した実践を紹介されました。子どもたちは、教科書の挿絵を拡大して細かいところを見たり、縮小して全体を見たりしながら、自分の見方を友達に説明します。鳥獣戯画ではウサギの表情、風神・雷神の足の爪など、細かな描写への気づきをみんなで共有できることに、楽しさを感じていたようです。子どもたちは抵抗なくタブレットを使っているようでした。

【ワークショップ】

タブレットを活用して、研究会場（西公会堂）のCMづくりをペアで行いました。西公会堂にある物や設備などを動画で撮影しました。一人がレポーターとなり、移動しながら紹介したりするなど、様々な工夫が見られる発表となりました。一方、実際に撮った動画を見てみると声が小さくて聞こえにくかったり、手ぶれで映像が見えにくかったりするなどの印象も受けました。撮影したものをすぐに再生できるのがタブレットのよいところ。実際に使ってみることで、子どもに指導するときのポイントがわかりました。

夏季研修会

長津田第二小学校

2015年7月28日（火） 9:30～

詳細は各校に配布されている案内をご覧ください

次回予告

西公会堂

2015年9月2日（水） 15:30～

多数の参加お待ちしております。



研究会HP QRコード



研究会HP <http://www.edu.cityyokohama.jp/sch/enkyu/es-ict/>

〔編集〕 紀要・広報担当 細野 友貴（鶴見区 新鶴見小学校）

メディアワールド

研究主題

情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成

横浜市立小学校

情報・視聴覚 研究主任様

横浜市小学校教育研究会

情報・視聴覚教育研究部会員様

授業デザイン部会

実践提案 6年「互いの良さを認め合い、学びを深める放送教材の活用～NHK学校放送『いじめをノックアウト』を活用して

スキルアップ部会

部会研究 「児童が主体性をもって機器を活用するために
教員ができること」

平成27年度 9月号

〔発行〕

横浜市小学校教育研究会

情報・視聴覚教育部会

会長 田中 公明

9月2日（水）に西公会堂にて各部会による会員研究行われました。

＜授業デザイン部会＞

提案者：武井三也先生

（青葉区 鴨志田緑小学校）

提案内容：6年特別活動

「互いの良さを認め合い、学びを深める放送教材の活用～NHK学校放送『いじめをノックアウト』を活用して」

NHK for School「いじめをノックアウト」の「“空気”が読めないって悪いこと？」という番組を活用した実践提案が行われました。

「いじめをノックアウト」という番組は、子どもがいじめに対する思いや葛藤などを話し、それについてAKB48の高橋みなみさんが自分の意見を話すという構成になっています。視聴者は、同年代の子どもたちのリアルな声と高橋さんの意見に、共感したり違和感を感じたりしながら、自然といじめについて考え自分の姿を見つめることができます。

実践では「空気が読めない」ということについて一人ひとりの捉えが違うことに気づき、互いの思いを聞き合う中で多様な考え方に触れることをねらいとしていました。

年間を通して番組を視聴しており、子どもの振り返りを見ると回を重ねる度に変容が見られたことがわかりました。継続して視聴し話し合いを重ねることで、番組を見る視点を明確にもつことができたり、いじめに対する自己の考えを深めたりできることなどが成果としてあげられました。

＜スキルアップ部会＞

提案者：東森清仁先生

（保土ヶ谷区 常盤台小学校）

提案内容：児童が主体性をもって機器を活用するために教員ができること

NTTコミュニケーションズの方をお迎えして、2020年に向けた教育の情報化政策について話を伺いました。

今後、学習者が場所や時間を選ばず、学習したいと思ったときに、いつでもどこでも様々なコンテンツが見られる環境になることが考えられます。そのような環境が実現すると、学習の幅が広がる反面、子どものICT活用を指導する能力が一層求められてきます。

グループディスカッションでは、「5年後のイメージはもてたが具体的に機器をどのように活用すればよいかわからない」「教師や子どもの活用能力差が広がるのではないか」「機器のメンテナンスはどうするのか」など不安の声も聞かれました。また、今後に向けてコンテンツの内容、操作性の吟味をすることや、先行事例の積極的な発信によってICT活用のメリットを多くの先生に伝える必要があることを確認しました。



次回予告

西公会堂

2015年10月7日水曜日 15:30～

各部会による会員研究が行われます。

多数の参加お待ちしております。



研究会HP QRコード



研究会HP <http://www.edu.cityyokohama.jp/sch/enkyu/es-ict/>

〔編集〕 紀要・広報担当 細野 友貴（鶴見区 新鶴見小学校）

会員名簿

○ 校長

	区	校名	氏名
1	旭区	希望ヶ丘小	平野 成昭
2	旭区	上白根	横山 美明
3	保土ヶ谷区	仏向小	芳原 勝美
4	磯子区	杉田小	岩崎 良之
5	戸塚区	下郷小	赤村 晋
6	戸塚区	東戸塚小	鈴木 国広
7	緑区	森の台小	田中 公明
8	緑区	長津田第二小	田中 芳夫
9	都筑区	茅ヶ崎台小	宇佐美 公敏
10	都筑区	山田小	本多 靖
11	都筑区	北山田小	松井 佳奈子
12	都筑区	茅ヶ崎東	田屋 敏彦

○ 副校長

	区	校名	氏名
1	鶴見区	入船小	青木 勇
2	神奈川区	白幡小	高松 一彦
3	南区	南太田小	福田 恒一
4	旭区	不動丸小	須藤 こずえ
5	旭区	今宿小	前田 周子
6	泉区	西が岡小	遠藤 守康
7	港南区	桜岡小	松本 未紀
8	磯子区	磯子小	海老原 眞
9	緑区	緑小	安村 宏晃
10	緑区	長津田第二小	高橋 哲雄

○ 授業デザイン部会

	区	校名	氏名	学年	教科
1	鶴見区	汐入小	小池 智宏	5	社会
2	鶴見区	馬場小	伊藤 貴雄	2	国語
3	鶴見区	新鶴見小	細野 友貴	5	国語
4	鶴見区	鶴見小	畠山 耕	2	図工
5	神奈川区	幸ヶ谷小	金子 真也	4	理科
6	神奈川区	斎藤分小	山路 巖	1	生活
7	西区	一本松小	遠藤 寛	4	理科
8	西区	富士見台小	荒井 信孝	4	体育
9	中区	本町小	宮崎 憲太	4	体育
10	南区	南吉田小	山口 晃史	3	算数
11	南区	南吉田小	秋枝 文絵	1	算数
12	南区	南小	赤澤 良太	少人数	算数
13	南区	六つ川小	茂木 大介	4	社会
14	南区	六つ川西小	高田 健太郎	4	社会
15	保土ヶ谷区	常盤台小	窪野 信之	3	図工
16	旭区	左近山小	井寺 慎也	6	算数
17	旭区	南本宿小	朝倉 慶顕	6	理科
18	旭区	上白根小	牧野 功	2	体育
19	泉区	東中田小	峠坂 枝里子	2	
20	泉区	和泉小	徳富 勇	児童支援専任	理科
21	泉区	上飯田小	山内 直人	6	社会
22	泉区	いずみ野小	森下 崇司	3	社会
23	瀬谷区	瀬谷さくら小	松尾 健一	3	理科

24	瀬谷区	大門小	久松 篤	6	社会
25	瀬谷区	瀬谷第二小	山口 淳史	6	体育
26	港南区	港南台第一	西原 雅頼	個別	
27	磯子区	滝頭小	鈴木 輝美	4	社会
28	磯子区	滝頭小	川口 翔	1	生活
29	磯子区	杉田小	金子 実	4	社会
30	磯子区	洋光台第二小	山田 拓道	2	理科
31	金沢区	西富岡小	藤原 直樹	6	算数
32	戸塚区	東汲沢小	吉田 圭一	6	社会
33	戸塚区	東品濃小	山下 忠裕	3	社会
34	戸塚区	深谷台小	北條 完二	2	理科
35	戸塚区	鳥が丘小	三瓶 聡之	6	理科
36	戸塚区	鳥が丘小	飯田 暁	4	社会
37	戸塚区	下郷小	糟谷 信之	専科	家庭科
38	戸塚区	柏尾小	高野 健一	2	算数
39	戸塚区	東戸塚小	玉田 大樹	3	社会
40	栄区	千秀小	堀 彩香	個別	算数・社会
41	栄区	千秀小	落合 加奈	1	体育
42	栄区	上郷小	澁澤 登	4	体育
43	港北区	港北小	近藤 睦	3	社会
44	港北区	城郷小	島田 聡介	1	体育
45	港北区	日吉南小	諸本 圭祐	1	体育
46	港北区	師岡小	佐藤 健聡	1	算数
47	港北区	師岡小	石川 卓弥	2	体育
48	緑区	長津田小	松岡 宏治	2	図工
49	緑区	森の台小	田崎 誠	4	理科
50	緑区	長津田第二小	黒木 正人	2	体育
51	緑区	長津田第二小	江下 太樹	3	理科
52	緑区	長津田第二小	徳田 達哉	4	国語
53	緑区	長津田第二小	伊藤 雄太	6	体育
54	青葉区	美しが丘西小	永治 優	3	体育
55	青葉区	鴨志田緑小	武井 三也	6	算数・体育
56	都筑区	茅ヶ崎小	岡田 貴彦	4	理科
57	都筑区	都筑小	後藤 彩花	4	算数
58	都筑区	都筑小	丸本 睦美	2	図工
59	都筑区	北山田小	園田 泉	1	生活
60	都筑区	北山田小	水谷 周	4	社会
61	都筑区	荏田小	吉富 孝史	4	算数
62	都筑区	すみれが丘小	大内 貴弘	4	体育

○ スキルアップ部会

	区	校名	氏名	学年	教科
1	神奈川区	子安小	石田 智治	少人数	算数
2	神奈川区	幸ヶ谷小	三浦 光太郎	5	社会
3	神奈川区	二谷小	高野 学	2	生活
4	神奈川区	羽沢小	大橋 基	少人数	算数
5	神奈川区	羽沢小	鳥井 裕子	5	算数
6	西区	平沼小	富士村 拓郎	3	算数
7	中区	本牧南小	北野 光彦	1	体育
8	中区	北方小	堀 幸仁	5	理科
9	南区	蒔田小	青山 周平	5	体育
10	保土ヶ谷区	境木小	日野 る美	児童支援専任	図工
11	保土ヶ谷区	常盤台小	東森 清仁	個別	理科
12	保土ヶ谷区	初音ヶ丘小	小野 幹雄	少人数	算数
13	保土ヶ谷区	仏向小	長崎 伸也	6	体育
14	旭区	今宿小	伊藤 裕哉	6	理科

15	旭区	笹野台小	樋口 剛弘	4	社会
16	旭区	希望ヶ丘小	原山 雅治	少人数	算数
17	旭区	都岡小	村田 親俊	4	社会
18	旭区	さちが丘小	平井 信行	1	理科
19	泉区	下和泉小	諏訪 浩	個別	算数
20	泉区	葛野小	前川 深量	少人数	算数
21	泉区	飯田北いちょう小	藤原 智	個別	体育
22	瀬谷区	上瀬谷小	大木 洋平	1	国語
23	瀬谷区	三ツ境小	佐野 幸彦	5	理科
24	瀬谷区	三ツ境小	吉田 潤哉	6	体育
25	瀬谷区	三ツ境小	小山 晃之助	6	体育
26	瀬谷区	三ツ境小	望月 香穂	2	音楽
27	港南区	日下小	海邊 浩明	6	社会
28	港南区	桜岡小	西尾 崇昭	5	体育
29	港南区	下野庭小	福田 良章	6	体育
30	港南区	下野庭小	糟谷 麻依子	専科	家庭科
31	港南区	港南台第三小	下高原 敬	6	体育
32	磯子区	山王台小	富岡 洋悦	6	理科
33	磯子区	山王台小	玉木 大雅	5	社会
34	磯子区	岡村小	山本 泰之	2	理科
35	磯子区	岡村小	加藤 耀	3	社会
36	金沢区	能見台南小	川添 和	6	
37	金沢区	並木中央小	吉田 和人	3	
38	金沢区	八景小	中村 栄一起	5	
39	戸塚区	俣野小	吉田 哲矢	3	図工
40	栄区	庄戸小	菅原 純一	5	理科
41	港北区	綱島小	柴田 康光	6	家庭科
42	港北区	駒林小	益森 幸一	個別	社会
43	港北区	大曽根小	佐藤 光範	児童支援専任	体育
44	緑区	三保小	西岡 大輔	教務主任	
45	緑区	山下みどり台小	牧尾 俊哉	児童支援専任	理科
46	緑区	東本郷小	松嶋 卓	6	算数
47	緑区	長津田第二小	原田 幸太	5	理科
48	緑区	長津田小	今泉 裕明	2	図工
49	青葉区	荏子田小	大石 元考	3	算数
50	青葉区	美しが丘小	志賀 俊之	4	体育
51	青葉区	市ヶ尾小	小串 智恵美	1	図工
52	青葉区	新石川小	大矢 知美	専科	音楽
53	青葉区	恩田小	柏尾 辰也	4	体育
54	青葉区	荏田西小	小宮 清考	少人数	算数
55	青葉区	美しが丘西小	仲美 記夫	個別	算数
56	青葉区	もえぎ野小	古宮 照一郎	5	体育
57	青葉区	谷本小	須永 昌男	5	社会
58	都筑区	折本小	高橋 義範	4	
59	都筑区	川和小	木津 正晴	専科	算数
60	都筑区	中川小	小山 英夫		

区世話人校長・副校長・部長・市幹事名簿

(27年5月7日現在)

区	世話人校長	副校長	部長	副部長
鶴見	井津井 公次(汐入)		畠山 耕(鶴見)	島垣 秀伍(岸谷)
	中島 克好(下末吉)			
神奈川	小藤 俊樹(神大寺)	高松 一彦(白幡)	山路 巖(斎藤分)	森本 圭(白幡)
				田代 祐介(三ツ沢)
西	小堀 敏明(一本松)		遠藤 寛(一本松)	荒井 信孝(富士見台)
				富士村 拓郎(平沼)
中		中山 誠一(本牧南)	北野 光彦(本牧南)	堀 幸仁(北方)
南	角田 和暁(六つ川)		高田 健太郎(六つ川西)	茂木 大介(六つ川)
				青山 周平(蔭田)
				秋枝 文絵(南吉田)
保土ヶ谷	山崎 行久(瀬戸ヶ谷)		小池 靖彦(峯)	窪 勇太(川島)
	芳原 勝美(仏向)			程島 京介(桜台)
				長崎 伸也(仏向)
旭	平野 成昭(希望ヶ丘)		田村 優輔(本宿)	川上 利寛(万騎が原)
	横山 美明(上白根)			伊藤 裕哉(今宿)
	清水 誉志人(鶴ヶ峰)			
泉	大島 孝昌(新橋)	遠藤 守康(西が岡)	峠坂 枝里子(東中田)	高橋 正明(下和泉)
	浜名 伸明(下和泉)			
瀬谷	森田 裕子(三ツ境)	大嶽 賢司(二つ橋)	山口 淳史(瀬谷第二)	久松 篤(大門)
				吉田 潤哉(三ツ境)
港南	森山 豊実(永野)		西尾 崇昭(桜岡)	下高原 敬(港南台第三)
	宮島 章(日下)			西原 雅頼(港南台第一)
	堀川 憲雄(吉原)			
磯子	橋立 豊(屏風浦)	海老原 眞(磯子)	山田 拓道(洋光台第二)	岸野 洋平(洋光台第三)
		橋田 武仁(さわの里)		白井 亮(洋光台第四)
金沢	大橋 義信(八景)	佐久間宣朝(釜利谷南)	中村 栄一起(八景)	川添 和(能見台南)
	野村 壽夫(朝比奈)	遠藤 稔(文庫)		吉田 和人(並木中央)
戸塚	赤村 晋(下郷)		北條 完二(深谷台)	吉田 哲矢(俣野)
	鈴木 国広(東戸塚)			幡野 司(品濃)
	伊藤 法彦(戸塚)			
栄	後藤 俊哉(笠間)	松瀬 歩(本郷台)	澁澤 登(上郷)	浦川 祐貴(笠間)
				辰崎 賀之(桂台)
				小谷 友亮(飯島)
港北	渡辺 辰哉(菊名)		柴田 康光(綱島)	宮崎 篤使(矢上)
				肥吾 省吾(篠原西)
緑	田中 公明(森の台)	安村 宏晃(緑)	齋藤 南海子(森の台)	牧尾 俊哉(山下みどり台)
	田中 芳夫(長津田第二)			平 裕充(十日市場)
青葉	徳江 武司(もえぎ野)		古宮 照一郎(もえぎ野)	
都筑	松井 加奈子(北山田)	岡村 知久(川和東)	園田 泉(北山田)	山田 篤典(中川西)
	宇佐美 公敏(港北)	中里 充(茅ヶ崎台)		望月 勇太(茅ヶ崎台)
	本多 靖(山田)			

あとがき

情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成

上記テーマを設定し、様々な実践を通して研究に取り組んできましたが、ここに今年度の研究の成果をまとめることができました。

子どもたち一人ひとりの情報活用能力を高めることを目指して、本研究会会員の諸先生方が、それぞれの視点・観点から多様な方法でアプローチした結果、十分な成果をあげることができたのではないかと思います。

紙面の都合上、一年間の研究の成果のすべてを掲げることにはできなかったと思いますが、この冊子を今後の教育実践に活かしていただければ幸いです。

最後になりましたが、ご指導くださいました諸先生方、研究推進に当たってくださいました幹事の先生方、授業を提供してくださった先生方、本研究紀要に執筆してくださった先生方に深く感謝申し上げます。

平成28年3月吉日
横浜市立常盤台小学校
東森 清仁

【紀要広報委員会】

委員長	東森 清仁	(保土ヶ谷区・常盤台小)
副委員長	藤原 直樹	(金沢区・西富岡小)
	細野 友貴	(鶴見区・新鶴見小)

平成27年度 神奈川県
横浜市小学校情報・視聴覚教育研究会
研究のまとめ 第41集

発行 横浜市小学校情報・視聴覚教育研究会

発行日 平成28年3月

印刷 株式会社第一サンエー

Tel 044-222-2356

